

教 育 ・ 研 究 年 報

令和 5 年度

徳 島 文 理 大 学
人 間 生 活 学 部

ま え が き

令和5年度人間生活学部の教育・研究年報を刊行いたします。ご覧下さいまして、年報のあり方、あるいは教員の活動に対しご指導を賜りますことを願っております。

人間生活学部は6学科からなり、各学科が連携し、人間生活学の魅力的な教育・研究を展開させています。学科構成の多様性が人間生活学部の特徴・メリットです。令和5年度を振り返り、多くの出来事の中から各学科の活動や特徴を紹介しましょう。

まず人間生活学科から紹介します。豊かなくらしのあり方を幅広く学ぶ学科をめざしています。教育内容は、生活経営学、食物学、被服学、住居学、コミュニティデザイン、保育・保健・養護学の各分野から構成されています。心理学科と共に、長年の伝統につちかわれた養護教諭の養成に工夫を重ね、模擬保健室を活用し、より实际的・具体的な実習・教育を展開しました。人間生活学科は「人生100年時代における生活の質向上」を探究し、社会と生活の変化に対応して活躍する人材を育成します。

食物栄養学科は、食を通じて健康な生活を支えるプロフェッショナルを育成します。そして管理栄養士国家試験に合格できる学力をつけることを教育の基本にして、冬期講習等、国家試験合格率向上のための工夫を重ねてきました。さらに、栄養や保健、衛生の高度な学識と技術をもち、「人間栄養学」すなわち人を健康にする栄養のプロフェッショナルである管理栄養士を養成し、生活習慣病を予防する栄養教諭の養成にも力を注ぎました。これらの目的のために、栄養学、解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶことができます。

児童学科では、国公立の小学校・幼稚園・保育所・認定こども園等の就職合格率も向上しました。また学生による合唱の発表等、音楽活動にも力を入れました。小学校教諭1種免許状などを取得するとともに、教育情報処理を学び、実践現場でコンピュータ類を有効に活用できる高度な教育的実践力の形成につとめ、小学校で外国の身近な生活や文化に親しませる基礎的な英会話の指導ができるようにします。近年の少子化は教員採用数に影響を与えており、厳しい状況ですが、子どもや保護者の心の理解とサポートのために準学校心理士資格の取得指導にも力を入れます。

メディアデザイン学科は、IT社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、メディアテクノロジーを活用して問題を解決する能力を養成します。総合的に「情報領域」「調査分析領域」「コンテンツ領域」などを学ぶことができるという他大学にはない特色を活かしつつ、地域社会活性化プロジェクトに積極的に参加しました。コンピュータの知識・技術やデジタル制作技術を習得して、地域社会を支える実践的ICT人材を育成しています。年々学生数が増加しており、学科が認知されてきています。

建築デザイン学科では、3次元のモノ作りである3Dプリンタの応用やドローンなど最先端技術を積極的に取り入れ、4年になるまでにコンピュータによる設計ができるようにCAD教育に力を入れています。一方、地域に密着した活動も継続しています。そして人と生活と環境を大切にして、建築の3要素である「強・用・美」をそなえた建築・イ

ンテリアを創造する人材を育成しています。卒業生は、総合建設業、設計事務所、住宅産業、不動産業などに 100%就職しています。

心理学科は公認心理師法の施行（平成 29 年 9 月）で注目を集めています。中四国における臨床心理士養成校のパイオニアとしての永年の経験を元に、公認心理師養成に向けてカリキュラム等の整備をしました。教員自身が、第 1 回公認心理師試験（平成 30 年 9 月）に合格して着実に教育体制を整えています。心の問題は学校教育現場においても重要で、心理学を学び養護教諭をめざす人材の育成にも力を入れています。「心の痛みの分かる、暖かく冷静な人に」を目標に心理学科は進んでいます。

このように、各学科が多くの課題に果敢に挑戦していることの一端をお分かりいただけたと思います。

令和 6 年 1 月末は、新型コロナウイルス感染症が流行しはじめて満 4 年になりますが 5 類に分類されるようになりましたが、未だ収束の兆しは見えません。令和 2、3 年度は、感染を防ぐために対面授業から遠隔配信授業に切り替えることがありましたが、令和 5 年度は対面授業を行いました。しかし学生の中に感染者や濃厚接触者として、学校保健安全施行規則 19 条により授業を欠席する状況は減ってきておりますが、患者の発生は続いています。

日本の大学を取り巻く状況は大変厳しいものがあります。特に若年人口の減少が続く、志願者の確保がますます難しくなっています。近隣の国立大学が定員充足率を高めており、本学への影響には大きなものがあります。

しかし本学 130 周年に向けて、上に記したような各学科の取組を一層発展させていけば、我々は本学の明るい未来を必ず見出していくことができるものと確信しています。

人間生活学部長 森 田 孝 夫

令和5年度 人間生活学部教育・研究年報

目次

まえがき 人間生活学部長 森田 孝夫

第1章 人間生活学部の概要

第1節 学部の沿革と基本理念	1
第2節 学部の構成	3
第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）	6
第4節 学部各種委員会活動報告	9

第2章 学科スタンダード

第1節 人間生活学科	38
第2節 食物栄養学科	39
第3節 児童学科	40
第4節 メディアデザイン学科	42
第5節 建築デザイン学科	43
第6節 心理学科	44

第3章 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

第4章 学生による授業評価アンケート集計結果

第5章 研究授業報告

第6章 教員活動状況

第1節 人間生活学科	68
第2節 食物栄養学科	82
第3節 児童学科	106
第4節 メディアデザイン学科	138
第5節 建築デザイン学科	148
第6節 心理学科	162

編集後記

第1章 人間生活学部の概要

第1節 学部の沿革と基本理念

(1) 沿革

本学園は明治 28 (1895) 年、学祖村崎サイ先生が「女も独り立ちできねばならぬ」と唱え、自立協同を建学の精神として、私立裁縫専修学校を創立したことに始まるが、その後、この専修学校が時代の変化・要請と共に拡大発展し、昭和 36 (1961) 年には徳島女子短期大学 (家政科)、次いで昭和 41 (1966) 年に徳島女子大学 (家政学部) が設置された。現在の人間生活学部はこうした歴史的発展のうえに成り立っているものである。

〔沿革の概要〕

昭和 41 (1966) 年	徳島女子大学家政学部家政学科設置
昭和 42 (1967) 年	管理栄養士専攻設置 管理栄養士専攻設置が管理栄養士養成施設として認可
昭和 45 (1970) 年	児童学科設置
昭和 49 (1974) 年	被服学科設置 (昭和 61 年廃止)
平成 5 (1993) 年	家政学専攻科設置
平成 6 (1994) 年	生活環境情報学科設置
平成 9 (1997) 年	大学院家政学研究科食物学専攻・生活環境情報学専攻修士課程設置
平成 10 (1998) 年	大学院家政学研究科に児童学専攻修士課程設置 人間発達学科設置 大学院家政学研究科に人間生活学専攻博士後期課程設置 大学院家政学研究科児童学専攻臨床心理学コースが臨床心理士養成機関に指定
平成 12 (2000) 年	児童学科が保育士養成施設として指定認可
平成 14 (2002) 年	家政学部を人間生活学部に変更 家政学科管理栄養士専攻を食物栄養学科に、生活環境情報学科を生活情報学科と住居学科に改組転換 家政学科家政学専攻を人間生活学科に変更
平成 15 (2002) 年	人間福祉学科設置 人間発達学科を心理学科に変更
平成 17 (2005) 年	大学院家政学研究科を人間生活学研究科に変更 大学院人間生活学研究科児童学専攻臨床心理学コースを改組し、心理学専攻〔博士課程 (前期)〕設置
平成 18 (2006) 年	生活情報学科をメディアデザイン学科に変更
平成 19 (2007) 年	人間福祉学科を人間福祉学部人間福祉学科として独立
平成 21 (2009) 年	住居学科を建築デザイン学科に変更
平成 30 (2018) 年	大学院人間生活学研究科心理学専攻が公認心理師国家試験受験資格を認定される。

（２）基本理念

家政学部は昭和 41 年に設置されたが、その後、科学技術の急速な進歩や産業構造の高度化に伴って、社会構造も複雑化し、その結果、教育の大衆化、生活様式や価値観の多様化、情報化、少子高齢化、さらには心の問題、ヒューマンリレーションの欠如といった諸々の問題が生じてきて、人間生活が大きく変貌してきた。

このような人間生活をめぐる社会的諸事象の変化に即応可能な人材を育成するため、従前のような衣食住を中心とする伝統的な家政学の分野を超えた新しい学部在り方や内容を発展的・総合的に再検討する必要が生じてきた。そこで、これまでの歴史的・社会的役割とその成果を継承しつつ、有意な教育・研究体制を確立して、より一層の社会的貢献を果たすべく、平成 14 年に家政学部を人間生活学部として新しくスタートさせ、今日に至っている。

現在、本学部は、それぞれに特色ある目的・内容を持った 6 学科と専攻科より構成されている。このいずれもが人間の「生」と深く関わったものである。人間は環境（文化的・社会的・自然的環境等）との相互作用によって規定され得る生命体であるが、この観点から言えば、人間の「生」の問題は、取りも直さず生命の保持、健康の維持・促進、人間としての成長と発達、人間らしい生活の営みと行動の在り方、対人関係、文化の習得とその創造などと常に不可分の関係にある。しかし、そこには幾多の解決されねばならない課題も存在しているため、本学部では人間の自立と環境との共生という観点から、これらの課題解決に向けて常に科学し、新しいビジョンの下に創造していくことのできる人材、従って社会の新しい分野を担うことのできる人材の育成を目指している。それだけに本学部は諸科学、つまり人文科学、自然科学、社会科学等が有機的に連関するところに成り立つ特色ある学部であると言える。人間の開発・人間の自立の問題も、こうした関連科学の探究によってこそ保障されるものであると考えられる。

ところで、現代は「知識基盤社会」と言われ、知の伝達、知の創造と発見、知の応用が大切であるとされるが、快適で健全なる人間生活の創造を考えると、「知識基盤社会」にふさわしい人間の教育をこそ重視していかなければならない。このため、本学部では建学の精神に立脚して、次のような人間の育成をめざすものである。

第一は、豊かな人間性を身に付けた人材の育成である。教育の目的は、まさしく人格の完成にある。このため、充実した教育・研究を通じて、倫理観に裏付けられた知性と技能を有する個性豊かな品位ある人間の育成を目指す。このことは「人間の自立」、「知性と人間性の尊重」における根本精神でもある。

第二には、高度な専門的知識・技能の習得を目指すことにある。基礎・基本の習得と幅広い教養教育の確立を前提として、知の時代にふさわしい先端的な知識・技能を広い視野から身に付けた人材、つまり社会から常に必要とされ、しかも地域社会においてのみならず、国際的にも貢献できる実践的な専門家の養成をねらいとする。

第三には、意欲的で創造的な人間教育である。学生のやる気・意欲を喚起し、夢と情熱を持って新しい事柄や未知の分野に柔軟な思考力で挑戦していく教育、従って知識・技能の応用力を高めつつ、学問的なパイオニア精神を培い、豊かな創造力を身に付ける教育を重視する。変化に対応できる人間教育である。

第2節 学部の構成

現在、人間生活学部は1～4学年をあわせて1,196名（令和4年5月1日現在）の学生を擁し、それぞれに特色ある人間生活、食物栄養、児童、メディアデザイン、建築デザイン、心理の6学科と専攻科から構成された学部である。

ここで各学科の特性について要約し、令和5年の教育等の質の向上への取り組みをまとめたい。

人間生活学科では、人間生活に関する衣食住のみならず、保育・保健・家族、さらには家庭経済や消費、環境問題、地域防災などを含めた内容を総合的に学びつつ、より健全な人間の生き方を総合的に追究していく。学部のなかでは最も伝統ある学科である。本年度は、令和2年度に改訂したカリキュラムの完成年度である。新たな資格の取得や地域社会に目を向けることのできる学生が増え、学びの充実を図ることができた。令和6年度は、さらにビジネス社会や地域社会に求められる人材を育成するために、創造性や企画力、運営力を養う新たな科目（クリエイティブ・デザイン）を立ち上げ、教育内容の充実を目指す。

食物栄養学科は、化学や生物などの内容を把握し、同時に人体の構造特性や機能等を理解したうえで、生活習慣病の予防をも視野に入れながら、人間の生命や健康に関わる食物栄養の特性などを実験等によって深く追究していく学科である。このため、栄養士、管理栄養士養成を主たる目的としている。カリキュラムの工夫と充実した対策により、管理栄養士国家試験受験資格と栄養教諭、家庭科教員免許を四年間で同時取得できる。令和5年度は、在籍者65名中、栄養士免許取得者56名、家庭科教員免許（中・高一種）取得者1名、栄養教諭免許取得者5名が卒業する。管理栄養士国家試験受験資格については、55名が取得した。

児童学科は、総合的な人間力を身につけた教育・保育の専門家を養成する学科である。乳幼児期から児童期に於いて、子どもの健全なる成長・発展と確かな学力を保障し、かつ、生きる力を育むことのできる専門的力量と豊かな指導性を養う学科である。教育面では、学生の視点に立った授業の充実における「アクティブラーニング」の工夫により、一定の授業評価を得ることができ、学生の満足度も高くなっている。学修面では実習の充実のための方策として、実習報告会への参加により、実習への意識付けをすることで、学生の意識向上が図れ、実践力が身に付けさせることができた。このことにより、実習先からの評価も向上してきた。学生の進路実現に向けて、学科独自の教採対策講座やゼミチーム学修会の充実を図ることで、公立幼保・小学校教員現役採用の合格率が75%になっている。

メディアデザイン学科は、IT社会にふさわしい情報技術関連のスペシャリストを目指す学科であり、ソフトウェアの開発・ネットワークの構築技術、さらにはインストラクショナルデザインなどを幅広く習得して、常に進展し続けるIT社会に即応可能な人材育成に力点を置いている。平成19年1月のメディアセンターの完成により、最先端の情報施設・設備が整えられ、教育・研究の充実が期待される学科である。学生面談や授業評価アンケート等で学生の意見や要望をくみあげて教育の改善に努めている。たとえば、コンピュータにインストールされているソフトウェアの関係で、いつも授業を行っている校舎ではなく別の校舎へ10分の休み時間で移動しなければならない。そこで、授業間での移動に時間

がかからない校舎のコンピュータ室にソフトウェアを移動することにした。これらの改善策により、学生の学習環境が改善され、学習者の学習を効率的かつ効果的にサポートすることができた。

建築デザイン学科は、21 世紀のよりよい住まいの創造、即ち住生活空間をまちづくりや環境共生、インテリアなどの観点から、常にフレッシュな感覚を持って、総合的・実践的に指導する学科である。学科で作成した事業計画の方針を基に、毎年度の策定し掲げた施策を実行することとしている。課題・目標については、達成状況を PDCA サイクルにより改善・実行しつつ検証し、学長との会議に結果を報告している。また学生評価アンケートに応え、教育目的の達成状況の点検・評価を行い、自己点検・評価の結果は実現につなげている。学科カリキュラム以外である、建築士受験の夏季講座並びに通年行っている宅地建物取引士受験の国家資格講座も定着化、また 3D 建築模型制作の更なる技術の向上の取り組みや、就職支援に伴う学科独自の就職セミナーの開催など引き続き進めた。

心理学科は、平成 29 年 9 月の国家資格・公認心理師法の施行で社会の注目を集め、複雑化する社会ならびに学校教育現場においてクローズアップされている心の問題に正面から取り組み、心のメカニズムや対人関係のあり方、人間の考え方（思考方法）、そして、カウンセリングの方法などを具体的・実践的に学び、メンタルヘルスに関わる専門的知識・技能を習得している。優れた心理臨床家の養成と、学生の悩みに対するケアは本学科の重要な役割である。前者については、公認心理師試験の高い合格率や、OB の活躍ぶりをオープンキャンパス等において積極的にアピールした。ただ、それが入学者数の増加にはつながっていないのが現状である。後者については、不登校経験者の比率が高く（42.7%と学内最高）、対応が不可欠となっている。ハイブリッド授業の実施、情報共有の活発化などの対策により、中退率は学内平均を下回っている。

専攻科については、平成 17 年度から従来の家政学専攻科を人間生活学専攻科に名称変更し、これに伴って家政学専攻も人間生活学専攻となり、現在では児童学専攻と人間生活学専攻の 2 専攻となっている。これらの専攻科では、学部の内容を踏まえた上で、さらに内容の深化・発展を図ることになる。

なお、これらの学科(専攻科含む)で取得可能な免許・資格及び定員については以下の別表のとおりである。

表 1 取得可能な免許状・資格

学 科 名	取得可能な免許状・資格	入学定員	編入定員
人間生活学科	教員免許高一種・中一種（家庭・保健）、養護教諭一種、二級建築士受験資格（実務1または2年）フードスペシャリスト、社会福祉主事の任用資格、医療秘書、福祉住環境コーディネーター、防災士、ファッションビジネス能力検定、上級情報処理士（N）	40	※
食物栄養学科	管理栄養士国家試験受験資格（実務経験不要）、栄養士、栄養指導員・食品衛生監視員・食品衛生管理者の任用資格、教員免許高一種・中一種（家庭）、栄養教諭一種、医療秘書	90	※
児童学科	教員免許小一種・幼一種、中学校英語二種、保育士、レクリエーション・インストラクター、スポーツ・レクリエーション指導者、准学校心理士、社会福祉主事、児童指導員、社会教育主事・社会教育士（養成資格）	100	※
メディアデザイン学科	教員免許高一種（情報）、上級情報処理士（N）、社会調査士、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士	30	※
建築デザイン学科	教員免許高一種・中一種（家庭）、一級建築士受験資格（実務2年）、二級建築士受験資格（実務不要）、一級・二級建築施工管理技士受験資格、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター検定	45	※
心理学科	養護教諭一種、認定心理士、社会福祉主事・児童指導員の任用資格、医療秘書 （公認心理師、臨床心理士は大学院修士修了受験資格）	100	※
※印の編入定員については、定員に余裕がある場合にのみ受け入れる。		（計） 405	

専攻科

専攻科	専 攻	修業 年限	取得可能な免許状	入学 定員	入学 資格
人間生活学 専攻科	人間生活学 専攻	1年	教員専修免許/高・中（家庭） 養護教諭	8	大学 卒業者
	児童学専攻		教員専修免許/小・幼	6	

第3節 学部運営組織（各種委員会の構成）

人間生活学部における運営組織については、全教員が参加する学部教授総会、学部長および各学科長による学科長会議、各学科の教員による学科会議、ならびに役割に応じた各種の委員会（全学的委員会への参加および学部独自に設置された各種委員会）がある。

学部教授総会は第2火曜日に開催することを原則としている。

全学的委員会への参加を表1に、学部の各種委員会の構成を表2に示す。大学院等と学部を兼ねている教員もいるため、大学院等の委員会も含めて示している。なお、学部の「教員養成推進委員会」については、平成17年度に全学的な視点からの教員養成対策委員会並びに教員養成対策室が設けられたことから、従来の「教育実習委員会」をこれに対応させて「教員養成推進委員会」に名称変更した。

学部の各種委員会について、各委員は2年毎に交代することを原則としている。令和4年度の学部委員会は10の委員会から構成されており、それぞれにおいて選出された委員長（委員会によっては副委員長も選出）のリーダーシップの下に、学部教授会での決議事項等を踏まえて、その役割を果たしている。

各種委員会の会議については、委員会活動の課題に応じて適宜開催されるが、その具体的な活動内容については委員長が毎年3月末に学部長に報告することになっている。

表 1 令和5年度委員一覧（全学的委員会）

人 間 生 活 学 部
2023年4月4日現在

区分	学 科 委員会		各学科委員						備 考
			人間 生活	食物 栄養	児童	メディア デザイン	建築 デザイン	心理	
全 学 的 委 員 会	学生指導・支援協議会							中嶋	○ 学部学生指導委員会委員長とする。(任期2年)(小規模学科は1年) (R3年度メディア, R4年度: 建築, R5.6年度心理)
	人権教育推進 委員会							阿波	○ 学部学生指導委員会から1名 (任期2年, 小規模学科は1年) (R3年度メディア, R4年度: 建築, R5.6年度: 心理)
	紀要編集委員会					古本			○ 教育研究支援課の関係1名(任期2年) (R3.4年度: 児童)(R5.6年度: メディア)できれば博士号保有者。
	全学入試委員会				津守				* R2.3年度: 心理学科, R4, 5年度: 児童学科, R6.7年度: 食物栄養学科
	大学入学共通テスト委員						山田		* 30.R1年度: 食采, 2.3年度: 児童, R4年度: メディア, R5年度: 建築
	ハラスメント 防止委員会	防止員		小川					○ 学部関係 30.R1年度: 心理, R2.3年度: 人間生活, R4.5年度: 食采
		相談員					笠井		○ 学部関係 30.R1年度児童, R2.3年度 メディア, R4.5年度: 建築
	インターンシップ 推進委員会							阿波	○ 就職支援関係 1名 (任期2年) 30.R1年度: 児童, R2.3年度: 建築, R4.5年度: 心理
	就職支援委員会			犬伏					○ 就職支援関係 1名(任期2年) ○ 学部就職支援委員会委員長(R4年度: 人間生活, R5.6年度: 食采)
	教育 開発 機構	教務委員会						青木	○ 教務部関係, 学科長輪番, R3.4年度: 児童(主要学科), R5.6年度: 心理 ○ 学部教務委員会委員長とする。
		一般教育研究部会		寺奥					○ 全学共通教育センター・語学センター関係(含む新入生教育) * 29年度: 食采, 30.R1, R2.3年度: 児童, R4年度: 心理, R5年度: 人生
		SD推進委員会					森田		SD推進委員会設置要項にもとづき学長が指名する学部長
		FD研究部会					上田		学部教育研究委員会委員長が兼務。(R3: 児童, R4メディア, R5建築)
	教職課程委員会			松本	三橋 川端			貴志	○ 教務部関係 4名 (任期2年: R2.3年度) ○ 教職科目担当 3名(内2名は児童学科, 1名は心理学科は固定) ○ 人生と食采の交代(31, R2年度: 食采)(R3, 4年度: 人生)(R5, 6年度: 食采)
	倫理審査委員会		高橋	石堂					○ 教育研究支援関係2名(任期2年)(食采・石堂継続, 人生・高橋)
	研究者倫理教育委員会						上田		任期2年, 30.R1年度: 人生, R2.3年度: 心理, R4.5年度: 建築(逆さ回り)
	選挙管理委員会							原田	総務関係 1名(任期1年: 隔年) R1.2年度古本 R3.4年度建築 R5.6年度心理
	退学者防止対策検討委員会		池添	中川	岡山	長濱	川村	中嶋	各学科から1名
	広報担当委員会				定國	加治			学部広報委員会の正・副委員長とする(Hp等の作成)。 30.R1年度: 建築・心理, R2.3年度: 人生・食采, R4.5年度: 児童・メディア
	認証評価委員会		竹内	石堂	河口	篠原	森岡	青木	R7年度第4回自己点検評価報告書の作成 R3年度自己点検評価の中間報告書を完成させた
	自己点検・評価委員会			前委員長 犬伏	藤村				学部自己点検・自己評価委員会の委員長を大規模学科から選ぶ。任期1年。 委員会と協同して教育・研究年報を作成する。令和4年度食采 令和5年度児童
	新入生セミナー 運営委員会	2023年度 実施	池添 高橋	吉村 栗飯原	定國 結城	古本 加治	上田 笠井	原田 貴志	○ 各学科より2名を選出して構成する。(半数を前年度委員とする) ○ 任期2年。実施委員会(委員長は学部長)委員を兼ねる。
		2024年度 実施	池添 中谷	栗飯原 森川	結城 金子	加治 長濱	笠井 山田	新見 貴志	○ 任期は翌年の実施後のアンケート処理までとする。
	チーム医療促進委員会			石堂 森川				伊藤	委員長 * 医師, 管理栄養士, 臨床心理士各1名
	実験動物委員会			石堂					喜多委員長(薬学部)
	組み替えDNA委員会			石堂					石堂委員長 *
	○ 上記の委員は、各委員会に出席し、その内容を学部教授会において報告・連絡するとともに、必要に応じて議案を提出するなどして、それぞれの責務において速やかな対応を図るように努める。同時に、学部の関連する委員会とも密接な連携を図る。 * 学科長の意見を参考に学部長が指名する。								

表2 令和5年度委員一覧（人間生活学部各種委員会）

区分	委員会	学科	各学科委員						備 考
		人間生活	食物栄養	児童	メディアデザイン	建築デザイン	心理		
人間生活学部委員会	教務委員会 (学科長)	竹内	石堂	河口	篠原	森岡	◎青木	○各委員は、所属学科のカリキュラムの実情を十分に把握した上で、学科間のカリキュラム調整を行う。 ○委員長は全学教務委員を兼ね他学部学科・教務部との調整を行う。	
	教育研究委員会 (FD研究部会) (各学科1名)	中谷	小川	藤村	古本	◎上田	中嶋	○教員の研究発表会を運営する(発表者の選出、計画、実施) ○学生による授業評価や研究授業等に関する運営全般を行う。 ○図書購入の申請リスト作成等を行う(年2回)など。	
	入学試験委員会 (各学科1名)	寺奥	増田	◎津守	長濱	上田	土中	○委員長は全学入試委員を兼ねる。 (30,R1年度食栄・栗飯原、R2,3年度心理・小坂、R4,5年度児童・河村)	
	自己点検・自己評価委員会 (各学科1名)	高橋	犬伏	◎藤村	長濱	山田	原田	○主要学科委員は自己点検評価書の作成を行う実施委員を兼ねる(年間を通じての計画作成・実施など) ○原則として、年1回(3月頃)報告書を作成する(授業評価、研究授業、研究発表、就職状況、各科スタンダードの達成状況、新入生のイメージ調査の概要、共同研究の概要、社会的活動や業績など)	
	学生指導委員会 (各学科1名)	高橋	中川	松本	山城	川村	◎中嶋	○委員長は、学生指導・支援協議会の委員も兼ねる。 ○学生生活に関する各種調査を実施し、学生の生活指導に役立つ報告書を作成する。 ○クラス担任及びチューターの学生指導に関する内容をまとめ、必要に応じて問題提起を行う、など。	
	広報担当委員会 (各学科1～2名)	池添	栗飯原坂井	定國・林	◎加治	山田	福本	○委員長・副委員長は広報担当委員会の委員も兼ねる。 ○広報誌(専攻科、大学院含む)の作成を担当する。(入試広報誌含む) ○ホームページ(専攻科、大学院含む)の作成や修正を行い、常に新しい情報を収集して入試広報部に依頼しHPに掲載する。 ○入試広報部と連携して高校訪問等の広報活動を企画運営する	
	教員養成対策委員会	竹内	石堂	河口	篠原	◎森田森岡	青木	○学部長及び学科長をもって構成する。 ○委員長は学部長とする。	
	教員養成推進委員会 (各学科1名)	寺奥	松本	◎三橋	山城	川村	貴志	○委員長は必要に応じて学部の教員養成対策委員会に出席できる。 ○委員会は教員養成向上のため、学部の教員養成対策委員会、全学共通教育センターと連携を取り合っており、必要事項について円滑な実施を図る。 ○各種の校外実習(教育・保育・臨地実習等)を充実させるため、教育実習の手引き等を参考にし、その趣旨の徹底化を促す。 ○必要に応じてアンケート調査等を実施し、実習における事前・事後指導を含む問題点を明確にするとともに、その改善策を提示する。	
	就職支援委員	中谷	◎犬伏	那住	長濱	山田	渡邊	○委員長は全学就職支援委員会の学部委員を兼ねる。各学科1名	
	中期目標策定委員会	竹内	石堂	河口	篠原	◎森田森岡	青木	○委員長は学部長が務め、委員は学科長が務める。 ○学園本部企画部の指示にしたがい2020年度から策定する。	
	進路ウォーク委員	池添	栗飯原	結城	加治	山田	貴志	○新入生セミナー運営委員会委員が兼務してよい。	
	災害時初期対応者	竹内	石堂 栗飯原坂井	三橋 林	篠原	上田 山田	土中	選出条件:大学から近距離に住み、災害時に大学へ駆けつけられること。	
	保護者会とりまとめ						青木	○学科長1年任期 R3篠原 R4森岡 R5心理	
	履修ガイド (学科長)	R5年度				森岡		○学科長1年任期 R3河口 R4篠原 R5建築 R6心理	
		R6年度					青木		
○任期中に欠員が生じた場合、残任期間について補充することを原則とする。 ○各委員会においては、委員長及び副委員長を選出し、職務が円滑に遂行されるようにする。 ○各委員会の委員長は、年間の活動状況(委員会開催の日時、活動の概要、各委員の参加状況等)を別紙の様式にしたがって記載し、毎年学部長および自己点検・自己評価委員会委員長に提出し、「教育・研究年報」に活動状況を報告する(2月中に提出。R3年度は遅滞。)。 ○全学的委員の交替については、原則として人間生活学科、食物栄養学科、児童学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科、心理学科の順とする。なお、各委員長は、学部教授会で必要に応じて当該委員会での報告等を行う。									

○任期中に欠員が生じた場合、残任期間について補充することを原則とする。

○各委員会においては、委員長及び副委員長を選出し、職務が円滑に遂行されるようにする。

○各委員会の委員長は、年間の活動状況(委員会開催の日時、活動の概要、各委員の参加状況等)を別紙の様式にしたがって記載し、毎年学部長および自己点検・自己評価委員会委員長に提出し、「教育・研究年報」に活動状況を報告する(2月中に提出。R3年度は遅滞。)

○全学的委員の交替については、原則として人間生活学科、食物栄養学科、児童学科、メディアデザイン学科、建築デザイン学科、心理学科の順とする。なお、各委員長は、学部教授会で必要に応じて当該委員会での報告等を行う。

◎ 委員長 ○ 副委員長

第4節 学部各種委員会活動報告

4-1. 全学教務委員会委員

全学教務委員会委員長
青木 宏

令和5年度における全学教務委員会の概要は以下のとおりである。

1 第1回全学教務委員会（令和5年8月1日開催）

- （1）教務・ポータルシステム導入における成績評価について
・成績評価とGPAとf-GPAの算出方法について
- （2）自己点検評価に対する学外からの「点検・評価」について
- （3）学修成果に関する企業等からの意見聴取について
- （4）中途退学者の防止に向けた取り組み状況について
・学生の就学状況（中退者・休学者）等に関する調査結果より
・入試区分ごとの退学者数（除籍者を含む）
・学科学年別退学者数と不登校経験者・通信制出身者・大検合格者
・入学生における不登校生，通信制出身者，大検合格者
- （5）日本語診断テスト・ベーシックウイングについて
- （6）「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の取組状況について
- （7）学習ポートフォリオの「行動の記録」の記入について

2 第2回全学教務委員会（令和6年3月21日開催）

- （1）ディプロマポリシーの達成に向けた教育活動・学修のPDCAサイクル
- （2）システムへの移行について
・マイナビプラスによる社会人基礎力チェック
- （3）中途退学者の防止に向けた取組について
- （4）数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度について
- （5）教育課程の変更について
- （6）その他

4-2. 教育研究委員会

教育研究委員会委員長

上田 泰史

I. 委員会の目的

1. 図書（図書館収蔵）購入に関する事務取扱：大学院生・学部生の勉学に資するため
図書館に収蔵する図書を各委員が推薦し、委員会がとりまとめて購入申請を行う。
2. 「新任教員の研究紹介」発表会（年1回）の実施：学部新たに着任された教員の
研究領域、業績、今後の教育・研究の展望を発表して頂く会を実施する。
日時・場所の設定、発表者への依頼、抄録集の作成、当日の運営を行う。

II. 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。図書申請は大学院の図書も含まれるため、大学
院担当の教員（各専攻1名）を含むこととする。
2. 令和5年度委員 中谷友机子（人間生活学科）、小川直子（食物栄養学科）、藤村正司
（児童学科）、古本奈奈代（メディアデザイン学科）、中嶋英治（心理学科）◎上田泰史
（建築デザイン学科） [◎印：委員長] 【敬称略】
3. 担当：図書申請（中谷委員）「新任教員の研究紹介」発表会（全員）

III. 委員会開催の概要 第1回教育研究委員会

日時：令和5年6月6日(火)15時00分～16時15分

場所：23号館11階 上田研究室

出席者：中谷（人間生活学科）小川（食物栄養学科）藤村（児童学科）

古本（メディアデザイン学科）中嶋（心理学科）【敬称略】

上田（委員長・建築デザイン学科）

■議事内容

1. 図書申請について

- (1) 学部及び大学院担当：今回は中谷先生が人間生活学部の取り纏めご担当いただく。

申請時期：学部教授会 6月13日（火）告知

第Ⅰ期 6月14日（水）～7月14日（金）

第Ⅱ期 10月末

第Ⅲ期（予備 12月）

- (2) 予算：学部500万円，大学院70万円（令和4年予算の参考額）

2. 新任教員の実績・研究発表会について

- (1) 発表者：6名 食栄2名、人間1名、児童3名、

- (2) 研究発表資料を委員長が取り纏めて人間生活学部PCに準備する。

3. 人間生活学部研究授業開催について

- (1) 各学科の研究授業選定及び日程決め（前期の場合日程、後期の場合大体時期で可）

- (2) 各学科委員から各学科の研究授業（担当者1名と日程）を委員長に連絡し、

委員長が人間生活学部の研究授業計画について香川校事務局へ連絡する。
研究授業内容は、普段の授業の中から選択して公開授業的に行う。

4. APLIN 受講の受講者選定や受講状況フォローについて

APLIN 案件について各学科の受講者選定や受講状況フォローは、人間生活学部教育研究委員会委員で行うように打診があった。ついては、人間生活学部の取り纏めは上田が行い、香川校各学科の APLIN 受講状況把握については各委員が行うこととし、各委員から了承された。

IV. 図書購入申請の概要

主に 6 月と 10 月の II 期で購入申請を行った。人間生活学部全教員からの購入希望図書を集約し、購入申請を行った。

予算執行金額 学部 5,000,000 円満額、大学院 700,000 円予算に 699,987 円執行

V. 活動のまとめ

- ・ APLIN の各学部未受講者への受講督促実施：人間生活学部の受講対象者 100%受講完了
- ・ 図書申請：購入希望冊数と金額は、最終的にはほぼ予算通りであった。
- ・ 新任教員研究発表会活動：本年度は対象者 6 名で、9 月 13 日（火）14:30 より図書館 AV ルームにて実施し、質疑応答も活発に行われた。

以上

4-3. 入試委員会

入試委員会委員長

津守 美鈴

I 委員会の目的

- ① 学生確保に資する方策を検討する。
- ② 人間生活学部における入学試験に関する事項について、学科間の意見を調整し、学部教授会にて承認を得る。
- ③ 全学入試制度検討委員会および全学入試委員会と人間生活学部教授会との円滑な情報交換に資する。
- ④ 学務入試グループと連携を図る。

II 入試委員会の活動概要

(1) 構成メンバー

委員長：津守（児童）

委員：寺奥（人間生活）、増田（食栄）、長濱（メディア）、上田（建築デザイン）、津守（児童）、土中（心理）

全学入試委員会委員：津守（児童）

共通テスト担当：山田（建築デザイン）

(2) 主な作業

・入試要項の確認

各学科に入試要項の校正を依頼、取りまとめ

・地方試験場派遣者の検討・決定

地方試験場派遣者の選出を各学科へ依頼、取りまとめ

・入試問題仕分け作業

・各種入試志願者の情報確認

各種入試志願者の情報確認を各学科に依頼

・各種入試合否判定

各種入試の合格者数、合格得点率などのデータ入力

・全学入試委員会への参加

来年度入試改革の検討

・大学入試センター試験（共通テスト）業務

試験監督割振り、試験会場準備、試験実施および実施後の処理など

・学務入試グループとの連携

総合型選抜入試面談日固定案の検討、共通テスト試験業務：準備、実施他

(3) 活動のまとめ

入試委員長および全学入試委員は、年度内に全学入試委員会に出席するだけでなく、複数回の各種入試に対応する必要がある。それに加えて、人間生活学部は学科数も多く、入試業務は多岐にわたったが、入試はミスが許せないため、慎重に業務を進めて行けるように努めた。今後は、受験者・入学者が減少傾向にある中、各学科が取り組む効果的な手立てについて情報共有するなどの話し合いも必要となるであろう。

4-4. 学生指導委員会

学生指導委員会 委員長
中嶋 英治

I 委員会の目的

全ての学生が学生生活の充実をはかり、実りある大学生活を送れるようにその方策を検討する。学生生活に関する調査を実施し、学生の生活指導に役立つよう報告書を作成する。

II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。
2. 令和5年度委員

高橋昌江(人間生活学科)、中川利津代(食物栄養学科)、松本有貴(児童学科)、山城新吾(メディアデザイン学科)、川村恭平(建築デザイン学科)、○中嶋英治(心理学科)
[○印：委員長] 【敬称略】

III 委員会開催の概要

1. 第1回

- (1) 開催日：令和5年7月14日（金）（メール会議のとりまとめ）
- (2) 議題：本年度の活動について
- (3) 議事概要：本委員会は、メール会議の方式で開催する。活動としては、前年度に引き続き、コロナ禍の影響を受けた学生の現在の状況や課題を調査し、今後の授業や生活に対する支援の参考とするため、人間生活学部に所属する学生を対象とする学生生活に係るアンケートを実施する。原則として前年度までと同じアンケート項目への回答を求めることにより、その推移を追えるようにする。新たな項目を加える必要の有無及び実施スケジュール等については、次回以降の委員会において検討する。

2. 第2回

- (1) 開催日：令和5年9月11日（月）（メール会議の取りまとめ）
- (2) 議題：アンケート項目及びアンケートの実施スケジュールについて
- (3) 議事概要：アンケート項目については、次回の会合において案を持ち寄り確定する。アンケートは、例年どおり、令和5年12月1日（木）から同月23日（土）までの間に実施する。

3. 第3回

- (1) 開催日：令和5年11月9日（木）（メール会議の取りまとめ）
- (2) 議題：アンケート項目及びアンケートの実施方法について
- (3) 議事概要：アンケート項目を確定した。アンケートは、前年度と同様に学生ポータルサイトを活用して実施する。

4. 第4回

- (1) 開催日：令和5年11月24日（金）（メール会議の取りまとめ）

- (2) 議題：アンケートフォームの最終確認、学生への周知方法並びにアンケート実施中及び実施後の対応について
- (3) 議事概要：グーグル・フォームを活用して作成したアンケートの書式を最終的に確認した。学生に対しては、学生ポータルサイトにおいて告知するほか、各委員は、グーグルクラスルーム等を活用し、所属学科の学生に対する周知及びアンケートへの回答の督促を行う。また、期間中、必要に応じ、回答を促すための働き掛けを行う。十分な回答数が得られない場合は、期間の延長について検討する。結果については、アンケート実施後、委員会において検討する。

5. 第5回

- (1) 開催日：令和6年1月25日（木）（メール会議の取りまとめ）
- (2) 議題：アンケート結果の検討、報告及び学生への告知について
- (3) 議事概要：アンケートについては、期間内に過半数である623名（全体の55.5パーセント）の学生から回答が得られたので、得られた結果について検討し、＜添付資料＞のとおり取りまとめた。本結果は、本年2月に開催される人間生活学部教授会において、その概要を報告するほか、当委員会の活動状況とともに当学部「教育・研究年報」に掲載する。学生に対しては、学生ポータルサイトにおいて、集計結果が本年度の「教育・研究年報」に掲載されること、本年報発刊後、当学ホームページからその内容を閲覧することが可能であることを伝達する。

IV 総括

本年度、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い社会全般に以前の生活へと戻りつつある。こうした変化が本学部学生にどのように影響を及ぼしているかを確認するため、前年度までと同様の質問項目を用いた学生生活に関するアンケート調査を実施した。アンケートの結果からは、コロナ関連も含め、不安やストレスを感じる者の比率は減少傾向にあるほか、クラブ等の活動状況も以前に戻り、コロナ禍からはほぼ脱したことがうかがえる。一方、体調不良なしと答える者の比率は半数強にとどまっている。引き続き個々の学生に対しきめ細かに対応することが求められよう。また、保健センター相談窓口のほか、合理的配慮に関する取組については、余り認知されていないことがうかがえ、必要に応じその活用を学生に周知する必要があるだろう。

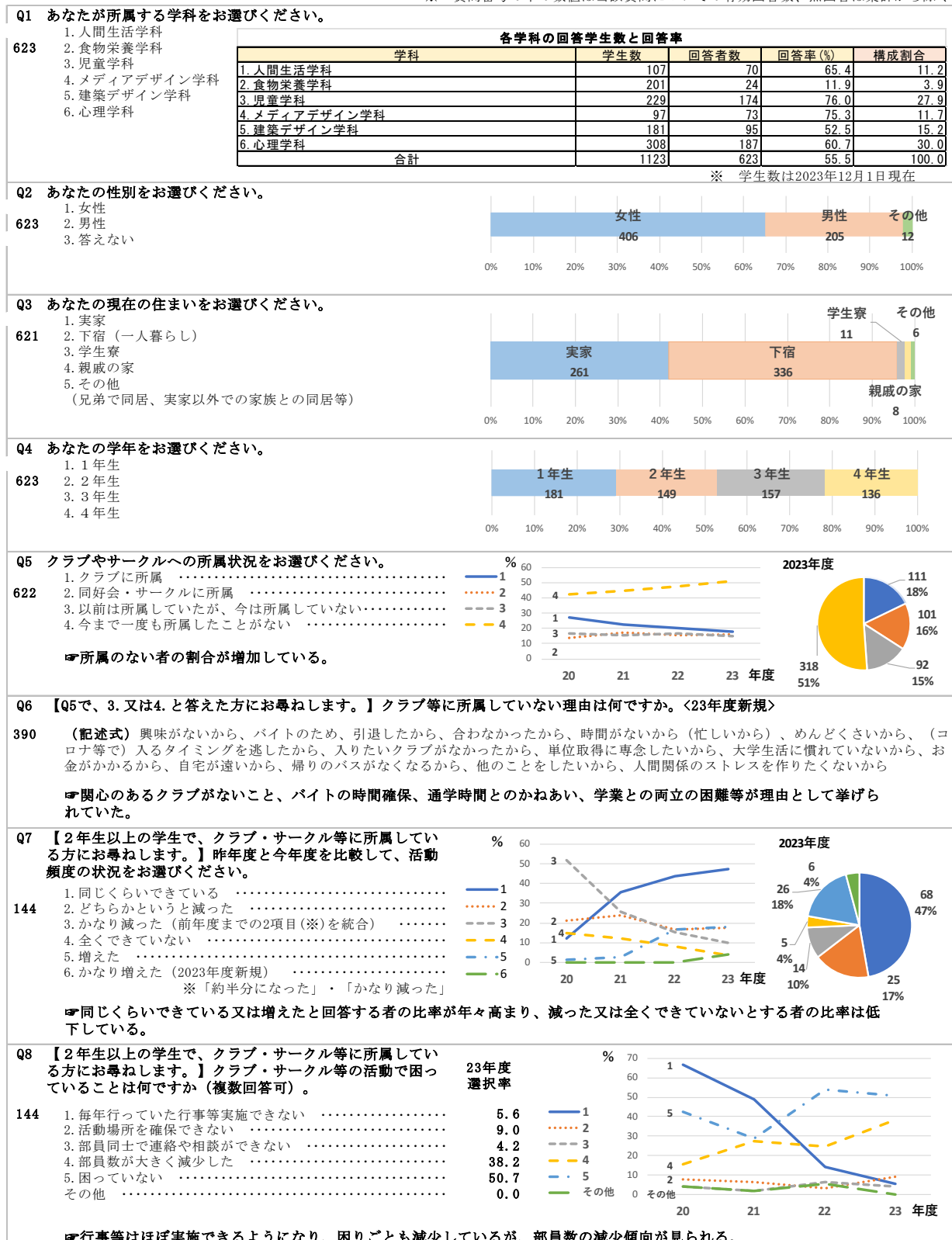
なお、本年度のアンケートでは、回答内容に対する理由を求める記述式の項目をいくつか追加しているので、その内容を確認し、今後の学生指導及び支援に役立てていただきたい。

本年度のアンケートへのご協力に委員会一同より各学部の先生方、学生の皆様に深く御礼を申し上げます。

<添付資料>

2023年度人間生活学部学生指導委員会アンケート結果

※ 質問番号の下の数値は当該質問についての有効回答数、無回答は集計から除く

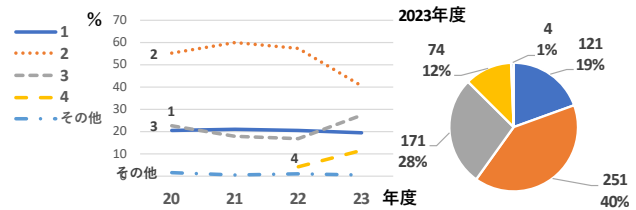


Q9	あなたは遠隔授業を受けましたか。【3.と回答した方はQ15へ】																												
606	1. 本年度ではないが、受けたことがある 2. 本年度受けたことがある 3. 受けたことがない			2023年度 <table><tr><th>回答</th><th>割合</th><th>人数</th></tr><tr><td>1. 本年度ではないが、受けたことがある</td><td>39%</td><td>237</td></tr><tr><td>2. 本年度受けたことがある</td><td>34%</td><td>204</td></tr><tr><td>3. 受けたことがない</td><td>27%</td><td>165</td></tr></table>	回答	割合	人数	1. 本年度ではないが、受けたことがある	39%	237	2. 本年度受けたことがある	34%	204	3. 受けたことがない	27%	165													
回答	割合	人数																											
1. 本年度ではないが、受けたことがある	39%	237																											
2. 本年度受けたことがある	34%	204																											
3. 受けたことがない	27%	165																											
	※2022年度からの項目																												
	☑受けたことのない者の比率が高まっている。																												
Q10	【Q9において、遠隔授業の経験がある方（1.又は2.を選択した方）にお尋ねします。】あなたは主としてどのような機器で遠隔授業を受けていましたか（複数回答可）。																												
443	1. パソコン 2. スマートフォン 3. タブレット	72.5 67.9 7.7	23年度 選択率																										
	☑パソコンとスマホが主たるツールとなっている。																												
Q11	【Q9において、遠隔授業の経験がある方（1.又は2.を選択した方）にお尋ねします。】あなたが受けていた遠隔授業はどのようなものですか（複数回答可）。																												
446	1. GoogleClassRoomによるリアルタイムの授業 2. GoogleMeet等によるリアルタイムの授業 3. ビデオ配信による授業 その他	67.9 76.0 37.2 2.7	23年度 選択率																										
Q12	【Q9において、遠隔授業の経験がある方（1.又は2.を選択した方）にお尋ねします。】遠隔授業は対面授業に比べると印象はどうか。																												
	1. 対面授業より大変である 2. 対面授業より容易である その他		2023年度 <table><tr><th>印象</th><th>割合</th><th>人数</th></tr><tr><td>1. 対面授業より容易である</td><td>78%</td><td>347</td></tr><tr><td>2. 対面授業より大変である</td><td>18%</td><td>80</td></tr><tr><td>その他</td><td>4%</td><td>16</td></tr></table>	印象	割合	人数	1. 対面授業より容易である	78%	347	2. 対面授業より大変である	18%	80	その他	4%	16														
印象	割合	人数																											
1. 対面授業より容易である	78%	347																											
2. 対面授業より大変である	18%	80																											
その他	4%	16																											
	☑遠隔授業の方が対面より容易と感じる者は増加している。「その他」では、数名から心身不調時に対応しやすいとの意見が示されていた。																												
Q13	【Q9において、遠隔授業の経験がある方（1.又は2.を選択した方）にお尋ねします。】遠隔授業は、対面授業と比べて学習効果はありましたか。																												
446	1. かなり効果があった 2. 何らかの効果があった 3. どちらともいえない 4. あまり効果がなかった 5. 全く効果がなかった その他		2023年度 <table><tr><th>学習効果</th><th>割合</th><th>人数</th></tr><tr><td>1. かなり効果があった</td><td>13%</td><td>60</td></tr><tr><td>2. 何らかの効果があった</td><td>30%</td><td>133</td></tr><tr><td>3. どちらともいえない</td><td>42%</td><td>186</td></tr><tr><td>4. あまり効果がなかった</td><td>14%</td><td>62</td></tr><tr><td>5. 全く効果がなかった</td><td>0%</td><td>1</td></tr><tr><td>その他</td><td>1%</td><td>4</td></tr></table>	学習効果	割合	人数	1. かなり効果があった	13%	60	2. 何らかの効果があった	30%	133	3. どちらともいえない	42%	186	4. あまり効果がなかった	14%	62	5. 全く効果がなかった	0%	1	その他	1%	4					
学習効果	割合	人数																											
1. かなり効果があった	13%	60																											
2. 何らかの効果があった	30%	133																											
3. どちらともいえない	42%	186																											
4. あまり効果がなかった	14%	62																											
5. 全く効果がなかった	0%	1																											
その他	1%	4																											
Q14	【Q9において、遠隔授業の経験がある方（1.又は2.を選択した方）にお尋ねします。】遠隔授業では、教員とのコミュニケーションは取れていましたか。																												
440	1. 全く取れていない 2. ある程度取れていた 3. よく取れていた その他		2023年度 <table><tr><th>コミュニケーション</th><th>割合</th><th>人数</th></tr><tr><td>1. 全く取れていない</td><td>1%</td><td>3</td></tr><tr><td>2. ある程度取れていた</td><td>22%</td><td>97</td></tr><tr><td>3. よく取れていた</td><td>69%</td><td>306</td></tr><tr><td>その他</td><td>8%</td><td>34</td></tr></table>	コミュニケーション	割合	人数	1. 全く取れていない	1%	3	2. ある程度取れていた	22%	97	3. よく取れていた	69%	306	その他	8%	34											
コミュニケーション	割合	人数																											
1. 全く取れていない	1%	3																											
2. ある程度取れていた	22%	97																											
3. よく取れていた	69%	306																											
その他	8%	34																											
Q15	あなたの住まいのネットワーク環境（Wi-Fi、有線LAN、携帯電話（デザリングを含む））はどうですか。																												
616	1. データ通信量が無制限で、安定してつながるので、不安は無い 2. データ通信量は無制限だが、つながらないことがあるので、やや不安がある 3. 安定してつながるが、データ通信量に制限（上限）があるので、やや不安がある 4. データ通信量に制限（上限）があり、つながらないことがあるので、不安がある 5. 遠隔授業を受講できる機器の環境は整っていない 6. 遠隔授業を受けたことがない その他		2023年度 <table><tr><th>ネットワーク環境</th><th>割合</th><th>人数</th></tr><tr><td>1. データ通信量が無制限で、安定してつながるので、不安は無い</td><td>57%</td><td>351</td></tr><tr><td>2. データ通信量は無制限だが、つながらないことがあるので、やや不安がある</td><td>23%</td><td>142</td></tr><tr><td>3. 安定してつながるが、データ通信量に制限（上限）があるので、やや不安がある</td><td>13%</td><td>80</td></tr><tr><td>4. データ通信量に制限（上限）があり、つながらないことがあるので、不安がある</td><td>3%</td><td>16</td></tr><tr><td>5. 遠隔授業を受講できる機器の環境は整っていない</td><td>1%</td><td>1</td></tr><tr><td>6. 遠隔授業を受けたことがない</td><td>1%</td><td>1</td></tr><tr><td>その他</td><td>4%</td><td>25</td></tr></table>	ネットワーク環境	割合	人数	1. データ通信量が無制限で、安定してつながるので、不安は無い	57%	351	2. データ通信量は無制限だが、つながらないことがあるので、やや不安がある	23%	142	3. 安定してつながるが、データ通信量に制限（上限）があるので、やや不安がある	13%	80	4. データ通信量に制限（上限）があり、つながらないことがあるので、不安がある	3%	16	5. 遠隔授業を受講できる機器の環境は整っていない	1%	1	6. 遠隔授業を受けたことがない	1%	1	その他	4%	25		
ネットワーク環境	割合	人数																											
1. データ通信量が無制限で、安定してつながるので、不安は無い	57%	351																											
2. データ通信量は無制限だが、つながらないことがあるので、やや不安がある	23%	142																											
3. 安定してつながるが、データ通信量に制限（上限）があるので、やや不安がある	13%	80																											
4. データ通信量に制限（上限）があり、つながらないことがあるので、不安がある	3%	16																											
5. 遠隔授業を受講できる機器の環境は整っていない	1%	1																											
6. 遠隔授業を受けたことがない	1%	1																											
その他	4%	25																											
	☑やや不安がある者もいるが、つながる者が多くを占める。																												

Q16 今後の遠隔授業について、あなたはどのように考えますか。

- 621 1. 遠隔授業を拡大してほしい
 2. 遠隔授業と対面授業を併用してほしい
 3. 対面授業だけでよい
 4. 遠隔授業を受けたことがないのでよくわからない(※)
 その他

※ 22年度から



☑対面授業のみを求める者の割合が増加し、併用を求める者の比率は減少した。

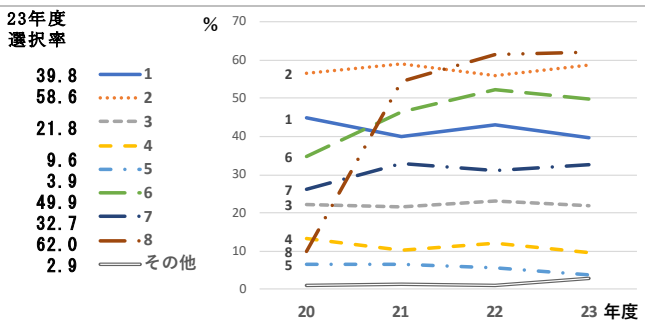
Q17 【Q16で、1. 又は2. と答えた方にお尋ねします。】 どうしてそう考えましたか。〈23年度新規〉

- 338 (記述式) 自宅が遠方だから、体調不良時にも受講できるから、授業の記録が残るから、聞くだけの講義なら学校に赴く必要はないから、精神的な問題や対人関係上の問題で登校がづらいことがあるから、就活等登校できないときに利用できるから、集中できるから、登校しなくてよいことで校外での活動の幅が広がるから等

☑利便性を優先する意見のほか、授業形態に応じた柔軟な対応を求めたり、体調不良や精神的な不調、人間関係の問題に対処する手段としての活用を求めたりするなど、多様な意見が示された。

Q18 大学の休みの日には主に何をしていますか (複数回答可)。

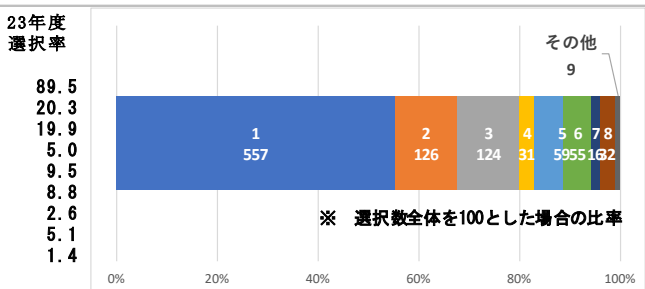
- 623 1. 自宅で友人や家族と一緒に過ごす
 2. 自宅で一人で過ごす
 3. 自宅で一人だが、ネットで繋がるゲームや電話で誰かとつながっている
 4. 大学のクラブサークル活動に参加している
 5. 大学で勉強や研究活動をしている
 6. 友人や家族と一緒に出かける
 7. 一人で出かける
 8. アルバイト
 その他



☑自宅で一人で過ごす比率が一貫して高いが、昨年度以降は、アルバイトのほか友人や家族と出かける比率も高まっている。

Q19 大学内で一緒に過ごすことが多い友人とはどのように知り合いましたか (複数回答可)。〈23年度新規〉

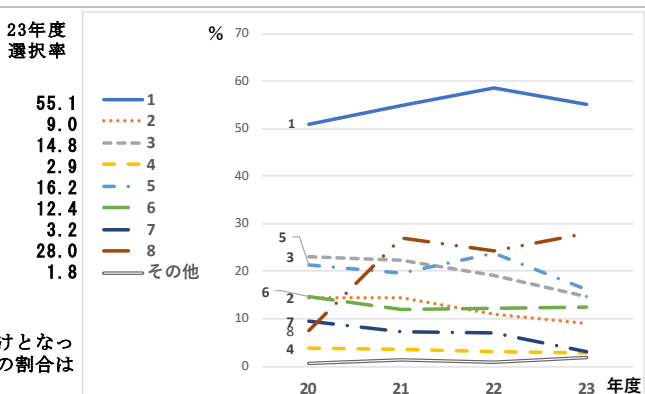
- 622 1. 学科 (授業) が一緒になった
 2. 出身地が一緒であったことがきっかけ
 3. クラブ・サークル等が一緒になった
 4. マンション等近所に住んでいた
 5. バイト先が一緒になった
 6. もとからの友人の紹介
 7. LINE等でつながった
 8. 一緒に過ごす友人はいない
 その他



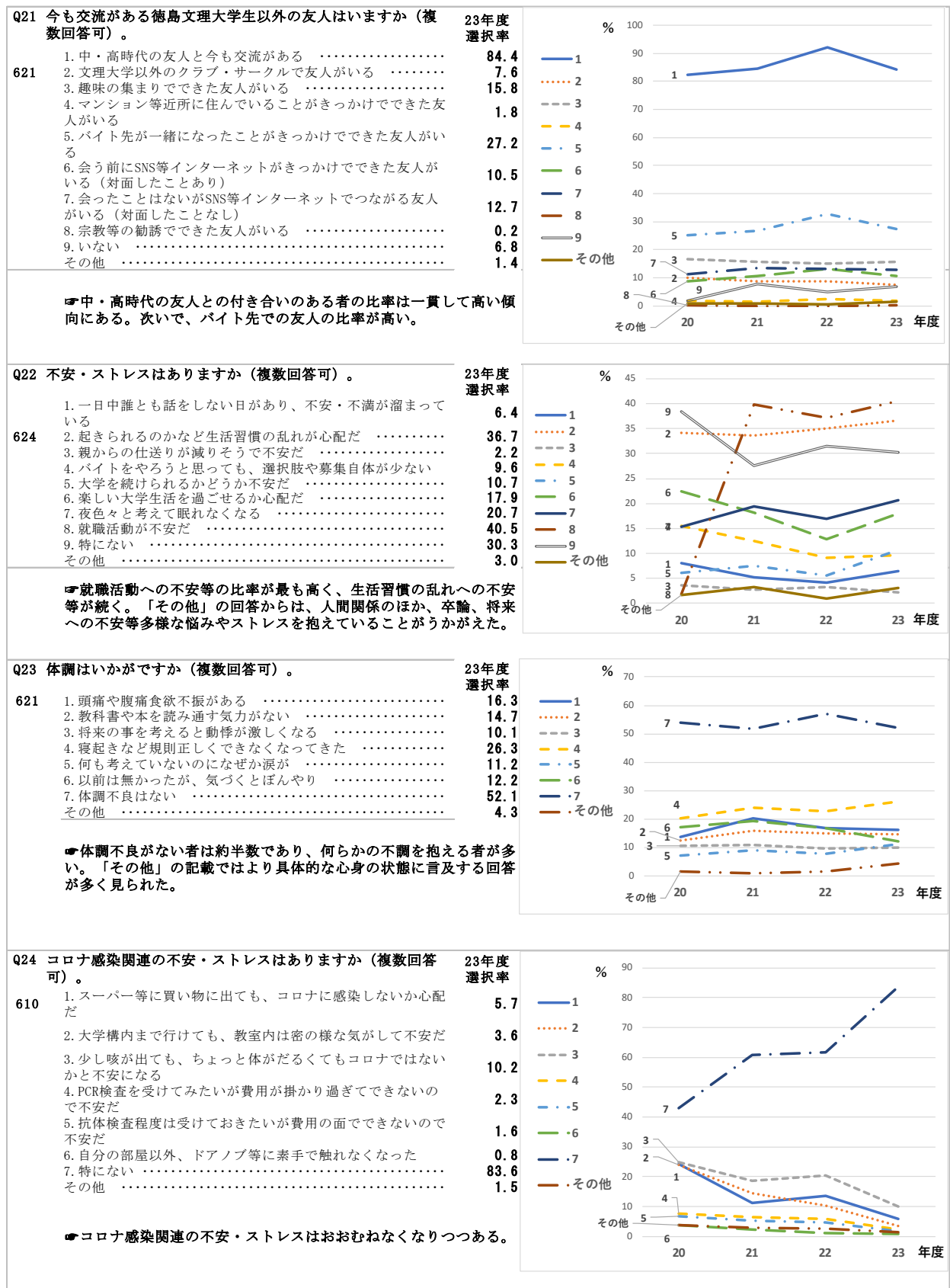
☑多くの者が学科内の仲間と過ごしている (89.5パーセント)。一緒に過ごす友人のいない者は5.1パーセントであった。

Q20 今年度になり大学内で新しい友人はできましたか (複数回答可)。

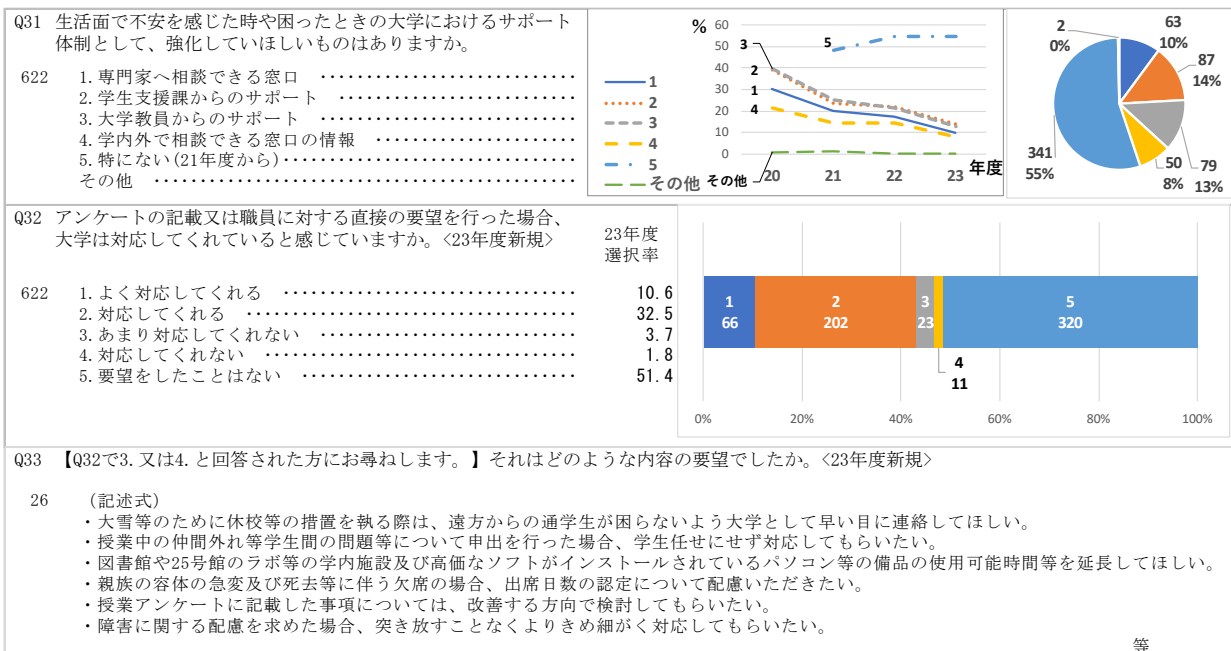
- 622 1. 学科 (授業) が一緒になった
 2. 出身地が一緒だったことがきっかけ
 3. クラブ・サークルが一緒になった
 4. マンション等近所に住んでいた
 5. バイト先が一緒になった
 6. もとからの友人の紹介
 7. LINE等でつながる友人ができた
 8. できていない
 その他



☑学科や授業が一緒であることが親しい友人となるきっかけとなっている。今年度になり親しい友人ができていないとする者の割合は28パーセントである。



Q25 コロナの感染がないときと比べ、あなたのストレスや不安の度合いはどの程度ですか。 621 1. とてもストレスや不安を感じている 2. 少しストレスや不安を感じている 3. どちらともいえない 4. あまりストレスや不安を感じていない 5. ストレスや不安を全く感じていない - その他 ☛本年度になり、ストレスや不安を感じる者の比率は低くなり、感じない者の比率が高くなっている。		
Q26 生活面で不安を感じた時や困ったときに、あなたはどのような行動をとっていますか。 622 1. 誰かに相談する 2. テレビのニュースや新聞で情報収集をする 3. インターネットの情報収集をする 4. 場面によって使い分けている 5. 何もしない - その他		
Q27 生活面で不安を感じた時や困ったときに、相談（話し）相手になってくれる人は誰ですか（複数回答可）。 623 1. 家族・親戚 2. 大学の友人 3. 大学以外の友人 4. 大学の先生 5. 大学の相談窓口 6. カウンセリング等の専門家 7. 相談相手はいない - その他 ☛家族と学内外の友人が主たる相談相手になっている。	23年度 選択率	
Q28 誰かに相談する場合、どのような方法で連絡を取りますか。 622 1. 直接会っている 2. 電話など「声」が中心 3. SNSやLINEなど「文字やチャット等」が中心 4. ZOOMなど「顔が見えるシステム」を活用 5. 場面によって使い分けている 6. 相談しない ☛直接会って相談する比率が高まっているほか、場面によって相談相手を使い分ける傾向がやや増加している。		
Q29 本学保健センターには、心身の健康をサポートする相談日（臨床心理士によるカウンセリングや校医による健康相談）があることを知っていますか。 622 1. 知っていて利用したことがある 2. 知っているが利用したことはない 3. 知らなかった ☛「知らなかった」と答える者の比率は40パーセント前後で推移している。		
Q30 本学には、障がいに対する合理的配慮を申し出る手続が設けられていることを知っていますか。〈23年度新規〉 623 1. 知っていて利用したことがある 2. 知っているが利用したことはない 3. 知らなかった ☛「知らなかった」と答える者の比率は70パーセントを超えた。	23年度 選択率	



【まとめ】

コロナ関連も含め、不安やストレスを感じる者の比率は減少傾向にあるほか、クラブ等の活動状況も以前に戻り、コロナ禍からはほぼ脱したことがうかがえる。一方、体調不良なしと答える者の比率は半数強にとどまり、何らかの心身の不調を訴える者は少なからずいる。引き続き個々の学生に対しきめ細かく対応することが求められよう。また、保健センター相談窓口のほか、合理的配慮に関する取組については、余り認知されていないことがうかがえ、必要に応じその活用を学生に周知する必要がある。

4-5. 広報担当委員会

広報担当委員会委員長
加治 芳雄

1. はじめに

人間生活学部広報担当委員会は、学部6学科で各学科から1,2名の委員により構成され、入試広報部との連携のもと、大学案内やウェブページの更新、各種広報活動を行っている。令和5年度は下記要領で情報交換及び委員会を1回開催し、情報共有を行った。

2. 2023年度 第1回人間生活学部広報担当委員会

日時：令和6年1月22日（月）16時20分～18時00分

場所：Google Meet によるオンライン開催

議題：

1. 広報活動

委員会では、公式ホームページリニューアルにおける広報効果や広報活動に関する今後の取り組みについて意見交換した。また、学科独自に実施した広報活動の紹介などを各学科説明頂き、今後の広報活動について話し合った。各学科イベント情報の発信やホームページの記事更新の他、様々な取り組みを行っていることが報告された。

2. その他

今年度から、ホームページ（大学公式ページ、受験生向けページ）など刷新された。両サイトの連携を強化し、高校生や保護者に情報を発信するため、入試広報部とも連携し、様々な手段を講じて大学の魅力発信を強化する必要があることを確認した。

3. 各学科のホームページ投稿実績、新聞・テレビ・雑誌等各種メディアでの掲載・紹介実績、その他各学科独自広報活動（純粋な学外実習や社旗貢献活動とは別）について

【人間生活学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数（2023.4～2024.3末時点）

学科の特徴と魅力：学科イベント1，教員採用・就職：2，オープンキャンパス：10，授業紹介：1 計14件

○ 新聞・テレビ・雑誌等各種メディアでの掲載・紹介

- ・ 上勝町で行っている阿波晩茶づくりの取り組みについて、徳島新聞（令和5年8月10日）、読売新聞（令和5年8月26日）に掲載された。
- ・ 美波町で行っている事前復興まちづくりの取り組みについて、徳島新聞（令和6年1月20日）に掲載された。

○ その他学科独自の広報活動

- ・ 学科紹介チラシを作成し、オープンキャンパスやブロック別進学説明会、各種イベントで配布した。
- ・ 高校教員向け学科紹介プレゼンを作成し、春季進学説明会において説明した。
- ・ ブロック別進学説明会に参加する高校出身者が在籍している場合は、学生の現状を個別に知らせるチラシを作成し、出身校の先生に配布した。
- ・ ブロック別進学説明会に含まれない在学生の母校を中心に、県外の高校（2校）を訪問した。
- ・ 編入学生用チラシを作成し、編入学募集要項に同封して郵送した。
- ・ instagram の更新を約 130 回行い、フォロワー数を約 400 名へ増やした（昨年比 100 増）。
- ・ 人間生活学科オリジナルうちわの作成を行い、すでに作成していた T シャツ及びクリアファイルとともに、オープンキャンパス等でスタッフが着用したり、配布したりして、ロゴマークを活用した学科イメージを周知している。
- ・ 令和 6 年 2 月 19 日 徳島県立小松島西高等学校へ寺奥先生と家庭科教員を目指す学生（3 年生）が訪問し、参加体験型の出前授業を行った。

【食物栄養学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

（2023 年 4 月～2023 年 12 月末時点）

入学式：1 トピックス：1 もちっとむぎゅっとの会：7 計 9 件

○ その他学科独自の広報活動

- ・ NHK 徳島 ニュース番組「とく 6 徳島」にて
5 月【超簡単】徳島文理大学生と一緒に子どもが作れるレシピを開発
7 月 夏休み 家族で、自由研究でサイエンススイーツ
- ・ 2023 高校生のための公開セミナー 8 月 3 日 担当：吉村英悟先生
「徳島県産の果実や野菜を使ったジャムを作ろう」
- ・ 健康ランド（山城祭）10 月 21 日、22 日：地域住民を対象に、3 年生が In Body による体組成の測定や、SAT システムを利用した食事指導などを行った。
- ・ 全国健康保険協会 徳島支部との共同企画により、「健康レシピ」として 4 年生の山下真輝さんが考案した「たっぷりビタミン D！鮭と舞茸のオムレツ」が徳島支部のホームページに掲載された。
- ・ 主催：徳島県、徳島県教育委員会、JA 全農とくしま、徳島県老人クラブ連合会
令和 5 年度 みんなが健康！県産食材料理レシピコンクール フレイル予防部門
優秀賞 1 年生 先田 萌々菜さんが受賞された。
- ・ 令和 5 年度の「もちっとむぎゅっとの会」の活動：例年の「もち麦」を使用した活動から、今年度は亜熱帯地域で主に栽培されている植物の「モリンガ」に着目して活動を行った。モリンガ自体を初めて聞く学生も多く、より多くの人に知ってもらう活動に注力した。毎年同様にレシピ集の作成を軸として、学園祭・牟岐町産業祭への出店に加えて、牟岐町の施設をお借りして「むぎゅっとカフェ」を立案・企

画・運営を一貫して行った。今年度はより一層、学科の2・3年生の交流が図れるよう活動に取り組んだ。

【児童学科】

- ホームページに投稿された記事のカテゴリーと記事数
 - ・ 「公立小学校・幼稚園教諭・保育士採用試験合格者数」速報をその都度更新 (1)
 - ・ 学科情報(行事等) (5) ・ 交流活動(4) ・ オープンキャンパス (2)計 12 件
- 学科独自で YouTube チャンネル「先生になりたい人たちの日常」を立ち上げ、Instagram 等と連携させながら、定期的な動画公開を開始。
 - ・ 原則毎週火曜日更新
 - ・ 1～4 年生の広報委員会を中心に動画を作成
 - ・ 学生生活、授業等の様子、講座等の動画を 54 本公開 (1 月 12 日現在)
- その他、学科独自の広報活動
 - ・ 児童学科だよりの作成 (月 1 回発行)
 - ・ 児童学科の特徴と魅力を伝えるチラシを作成 (A4 版カラー両面)
 - ・ 児童学科の先輩からのビデオメッセージをオープンキャンパス時に公開。
 - ・ 児童学科独自に各種グッズを作成し、オープンキャンパス参加回数に応じて高校生に配布。
 - ・ 児童学科オリジナルデザインのキーホルダー、クリアフォルダー等を作成しオープンキャンパスや高校訪問等で配布。
 - ・ 県内の高等学校への児童学科だよりとチラシの配布。
 - ・ 県内高等学校、中等教育学校等への訪問

【メディアデザイン学科】

- ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数
入学式：2 新入生歓迎会：1 卒業生による会社説明会：1 卒業生来学：1 特色ある教育・研究：4 オープンキャンパス：2 学内共同イベント：1 他 1
計 13 件
- その他学科独自の広報活動
 - ・ 学科の特徴と魅力をまとめた A4 チラシを作成し、オープンキャンパスや大学見学での配布等の広報に活用した。
 - ・ 学科公式 X (旧 Twitter) で、令和 5 年 4 月 2 日から令和 6 年 1 月 5 日までの間、30 件の投稿を行った。
 - ・ 令和 5 年 7 月 12 日 本学と徳島県警察との連携事業である「徳島県警察ネットワーク」の委嘱式が行われた。
 - ・ 令和 5 年 8 月 1 日～3 日 情報と職業 (集中講義) が開講され、「情報化の進展に

伴うビジネス構造の変化」、「情報関連職業の全体像および実例」、「職業観の変化、求められる職務能力や資格、職業倫理や社会的責任」について学びました。

- ・ 令和5年10月10日 前期集中講義（学生によるラジオ番組制作）に参加した受講生がラジオエフエムびざんにライブ出演し、実際に制作したラジオ番組を紹介しました。
- ・ 令和5年11月28日 本学と徳島県警察との連携事業である「徳島県情報発信ウォッチャー」の委嘱式が行われた。
- ・ 令和5年12月25日～27日 広告メディア論（後期集中講義）では、広告の概論だけにとどまらず、社会における広告の企画・制作・展開の事例紹介、グループワークを通じた広告の企画・制作と発表によって、企業や団体等において「広告」を扱う上での知識・スキルを学びました。

【建築デザイン学科】

○ ホームページに投稿された記事のカテゴリと記事数

学科独自の就活セミナー開催について2、学内行事の紹介2、学外行事の紹介2
オープンキャンパス5、
計11件

○ その他学科独自の広報活動

- ・ 徳島新聞社主催の「住まいと暮らしのメッセ2023」に参加するなど、学外で積極的に学科の活動を紹介するイベントに参加した。
- ・ 小学生を対象にした「徳島科学技術アカデミー」を徳島県の委託事業として開催した。このプログラムでは、学生自身がメニューを作成し、3Dプリンター等の先端技術を使って、小学生と父兄にデザインの面白さを伝える取り組みを行っている。毎年、すぐに定員がいっぱいになるほど人気を博している。
- ・ 学生の在学中の国家資格取得支援として、「宅地建物取引士セミナー」に関する取り組みを行っていることを、オープンキャンパス、高校生の訪問等を利用して広報活動を行った。また、オープンキャンパス等の説明会においてもパワーポイント等により具体的な取り組み等についても積極的に広報活動を行った。
- ・ 将来の建築士資格取得にむけての支援として、「夏季2級建築士対策セミナー」を実施しており、そのことについての具体的な広報活動をオープンキャンパス等を通じて参加者に対して行った。

○ その他

- ・ オープンキャンパス等では、高校生やその保護者からの質問に対して、学生自身が直接回答できる機会を設けて、話しやすさかもあってか、有意義な時間を作れた。

【心理学科】

コロナ禍は明けたが入学対象となる高校在籍者が減少の一途をたどることから、心理学科会議において、以下のとおり広報戦略の見直しを図り、心理学科教員内で共有した。

- (1) オープンキャンパス来場者、見学会来場者のほか出前授業等高校生やその保護者等に対しては、個別に、かつ、時間を掛けて丁寧に広報を行うこと。

- (2) 当大学入学に少しでも興味・関心を示した高校生に対しては、当該高校生（又はその保護者）が知りたいこと等のニーズに合わせた説明に重点を置くこと。
- (3) 上記ニーズに合わせた説明を行うため、心理学科入学後の履修科目コースとして、ア. 大学院への進学、イ. 養護教諭の道、ウ. 公務員やメンタルヘルスに強い社会人の3つのコースの別に、現状の実態やこれまでの実績を網羅したフライヤーを作成した。
- (4) 学科や授業内容の紹介のほか、奨学金、学内外の環境など衣食住に係る情報、卒業後の進路実績データ、獲得できる資格・技能等についての情報を学科教員全員で共有した。
- (5) 近年、入学者の二極化傾向が見られることから、上記説明は、心理学科の伝統と実績、将来の人生設計等の説明に重点を置く場合と、教員と在学生との距離の近さ、個別的な助言・指導体制、有資格教員によるカウンセリング等の説明に重点を置く場合に分けられることが多かった。
- (6) 論文作成指導などマンツーマンの個別指導やチューターによる相談、学生が複数の教員と在学中密接な関係を保ちながら自らのステップアップを図り、成長し、活躍できる社会人として卒業していく姿をイメージしてもらうことを広報の最重点項目としている。
- (7) 他方、ホームページや駅構内へのリーフレット類の据置き、その他マスを対象にした説明等、不特定多数に対する広報戦略は、効果が乏しく入学に直結しないという見立てから、特に力を入れていない。

4-6. 教員養成推進委員会

教員養成推進委員会委員長

三橋 謙一郎

I 委員会の目的

教育実習等に関する資質や指導技術を確かなものとするための具体的な方策を検討する。
また、教員養成に関する資質や指導技術を確かなものとするための具体的な方策を検討する。

II 委員会の構成

1. 各学科より1名を選出して構成する。

2. 令和4年度委員

奥寺 敦子（人間生活学科）、松本 萬寿美（食物栄養学科）、◎三橋 謙一郎（児童学科）、

山城 新吾（メディアデザイン学科）、川村 恭平（建築デザイン学科）、○貴志 知恵子（心理学科）

[◎印：委員長、○印：副委員長]【敬称略】

III. 委員会開催期日等

1. 第1回教員養成推進委員会

日 時：令和5年 6月5日（火）16：20～17：00

場 所：9号館10階（研究室⑥）

出席者：寺奥敦子、三橋謙一郎（司会）、山城新吾・貴志知恵子（記録）【敬称略】

2. 第2回教員養成推進委員会

日 時：令和4年11月13日（月）15：30～16：20

場 所：9号館10階（研究室⑥）

出席者：寺奥敦子、三橋謙一郎（司会）、川村恭平、山城新吾（記録）、貴志知恵子

ゲスト：三屋田朗広（全学共通教育センター長）【敬称略】

IV 委員会の活動内容

本年度は、本学の「教務部教務課」「教務部教育研究支援課」「全学共通教育センター」および「教員養成対策委員会」等と連携を取りながら、本学の学生の教員としての資質能力の向上を目指す教育実習・保育実習訪問のあり方、保育・教職実践演習（幼・小）、教職履修カルテに対する取り組み、保育・教員採用選考試験対策、公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等をめぐる問題について、年2回にわたる本委員会での話し合いを通して、以下のような内容で、検討を行った。

1. 第1回教員養成推進委員会の協議事項

（1）教育実習・保育実習の挨拶回り等について

・児童学科では昨日より教育実習が始まっているが、教務が作成した挨拶回り関係資料（実

習説明会で配布されている)を各学科内で配布・徹底する必要がある。

- ・定員充足に向けて学生の実習校訪問時に際しての挨拶・態度等の指導の徹底や、教員の実習校訪問時に際しての、挨拶・決まり等の順守の徹底が求められる。

- ・教務の作成資料では事前の電話・お礼の電話の徹底、訪問時に大学が学校側と打ち合わせる内容の充実、県外の学校への丁寧な対応が必要とされている。4週間の実習の場合は、2週間経過後に一度電話を入れて様子伺いをすることが必要である。

- ・各学部・学科がバラバラに訪問するのではなく、同じ学校にまとまって訪問する方が良いのではないかと。(学生相互で連絡を取って行ったりしている場合もある。)

- ・教務部は学校への連絡等について、教科担当ではなく担任が行うよう求めている。しかし学科によっては、教員養成を全くわかっていない先生を評価授業に行かせると先方に失礼になる、あるいは全教員が行くなど、県外なので依頼とお礼は電話だけなど、事情は違っている。

- ・家庭科の教諭がいない高校が増え、母校で教育実習を受けることができず、独自に実習先を開拓しなければならない、その分評価授業へ参加する必要があるなど、指導担当教員の負担は増加している。

(2) 教職実践演習・教職履修カルテについて

- ・児童学科ではチューターが記入を指導しているが、期日が迫ってからでないと入力しない学生が多い。

- ・心理学科では締切日前に記入するよう指導している、間に合わない場合は紙媒体を使用している。

- ・メディアデザイン学科ではチューターが指導している。

- ・建築デザイン学科では担任が指導している。

- ・学習ポートフォリオとの重複も多く、科目数の多い学科では学生にも負担感がある。

(3) 保育・教員採用試験対策講座等について

- ・心理学科では特講・対策講座を実施しているが、養護教諭は徳島県では30倍近い倍率となっており、学生の受験数は減っている。

- ・徳島県の中・高の家庭科教諭の採用数も1名のみで、狭き門となっている。

- ・小学校教員採用選考試験において徳島県では、特別推薦枠が5名に増えた。そのうち2名は1次試験が免除され、残り3名は小論文が免除される。小学校教員採用選考試験・特別推薦枠は、香川県では2名、愛媛県では4名、高知県では1名となっており、1次試験が免除される。

- ・合格しなかった学生は非正規教員・私立学校教員・児童デイサービスなどに就職している。。

- ・来年度より教員採用試験は1ヶ月前倒しされ、教育実習と重なる可能性があり、学校に対して実習の前倒しをお願いする必要がある。特に複数の免許を取る場合はカリキュラムとの兼ね合いもある。

- ・東京都、千葉県など、3年次から教員採用選考試験が受験できる都県もある。

(4) その他

- ・新学習指導要領の3つの柱（個別の知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等）が紹介された。
- ・教職科目の内容について科目間の連携・整合性が取れていない現状で、人間性やコミュニケーションに関する能力の育成を教職科目の中で位置付けるのは難しいのではないかいという意見も出された。

2. 第2回教員養成推進委員会の協議事項

(1) 公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等をめぐる問題

- ・委員長より配布資料1に基づいて、文部科学省より公立学校教員採用選考試験を1ヶ月早めて6月16日を標準とするよう要請されたことについての説明が行われた。その通りに実施するかどうかは、自治体によって異なるので注意しておく必要がある。
- ・公立学校教員採用選考試験が1ヶ月早まった場合、教育実習と日程が重なる危険があることが指摘された。
- ・文部科学省が全国共通の1次試験（筆記）を導入する予定だが、使用するかどうかは、自治体により異なると思われる。
- ・三屋田先生より配布資料2（教職ガイダンスで配布された資料より一部抜粋）に基づき、教員定数が減ってきており、今後増える見通しがなく、倍率については横ばい→高くなる（採用者数が減る）予想が紹介された。
- ・2024年度の公立学校教員採用選考試験のスケジュールについて、5月より従来通りに自治体によって分かれていることが説明された。さらに、東京都・高知県・香川県など、大学3年生から筆記試験の受験を可能とする（面接は4年生になってから）自治体も増えていることも説明された。
- ・また一般企業志望者と教員志望者は重複が少ないことや、受験者が増えても辞退者が増える可能性、業務量など処遇改善が遅れていることが受験に影響している可能性などについても説明された。
- ・なお養護教諭について今後採用が増える可能性は少なく、採用試験の倍率は徳島県が全国2位となっている。心理学科は養護教諭の受験者が、今年度3名で、採用はゼロとなっている。昨年は、採用が2名あったが、不採用者は、臨時教員よりも放課後デイサービス等に行く人が多い。最初から教採の倍率の高さを避けて奨学金の返済等のため、正規採用を希望する傾向がある。
- ・人間生活学科でも来年は、6月の教育実習期間中に公立学校教員採用選考試験を受ける学生がいる。また同時に、教育課程の見直しも検討課題とされてくる。
- ・人間生活学科における「中・高家庭科教諭」の教育実習も、4年次6月から3年次に変更を考えないといけない。そうしないと、公立学校教員採用選考試験の日程と教育実習期間が重複する。実際、令和6年6月16日に教育実習期間中の沖縄県出身の学生がいる。離島から那覇まで採用試験に出向かなければならないため負担が大きい。3年次に変更する場合は養護の実習が9月なので、学生には養護と家庭科のどちらかを選択させる必要がある

ある。また、実習受け入れ校サイドの問題として、現在は 1 学期の受け入れであるため、必要に応じて 2 学期の教育実習受け入れを個別に依頼する必要がある。

- ・心理学科における「養護教諭」の教育実習は、9 月に予定されている。
- ・多くの学科では、教育実習を 3 年次に下げることが難しい。
- ・全学共通教育センターでも、3 年生以下の公立学校教員採用選考試験を受ける学生に対する対応を検討していくとのことである。

(2) 教育実習・保育実習訪問のあり方をめぐる問題

- ・心理学科は、児童学科・人間生活学科などと日程を決め、まとめて訪問している。報告書も提出している。
- ・人間生活学科は県内の教育実習訪問を実施している。研究授業も見せて頂き、振り返りも実施している。高校に家庭科の正規の教員がいなかったり、育児休業中だったりで、教育実習を受け入れてくれない学校もある。
- ・児童学科はルールを守り、教育実習の訪問を計画的に実施している。
- ・メディアデザイン学科は、4 年次に教育実習を入れている。教育実習の訪問もルールを守って実施することになっている。
- ・どの学科も県外での教育実習の訪問に際しては、電話で訪問に代えている。

(2) その他

- ・全学共通教育センターでは、教員採用選考試験合格を目指して講義、面接指導等に鋭意努力している。

3. 活動のまとめ

教職を目指す学生が教員・保育士としての資質・能力を向上させていくためには、現場の先生方とタイアップした教育実習・保育実習での訪問指導等のあり方に言及していくことはきわめて重要である。また、学習ポートフォリオなどの取り組み項目との無駄な重複を避け、「保育・教職実践演習（幼・小）」の授業と密接に結びついた教職履修カルテの有効活用に着目していくことも大切である。さらに、資質・能力の高い教員確保のための取り組みとして、今日提唱されている公立学校教員採用選考試験の早期化・複数回実施等をめぐる問題と絡めて、教育実習時期の前倒し、教職科目習得の前倒し等について検討していくことも必要とされてくる。最後に教員採用選考試験対策として、全学共通教育センターや各学科の講座開設により、学力・面接・小論文・模擬授業等への協力的で見通しをもった計画的な指導に着目していくことも重要である。

本委員会は、上述してきた課題に真摯に取り組み、その解決に向けて次年度も継続して取り組んでいきたいと考えている。

4-7. 就職支援委員会

就職支援委員会委員長

犬伏 知子

1. 開催日時 令和5年6月23日（金）午後3時から4時45分
2. 会場 徳島キャンパス学園長室
3. 出席者 委員長・田村学長，副委員長・森田副学長，梶山副学長，薬学・張，総合政策・古屋，音楽・熊谷，保健福祉・中江，文学部・上野，理工学部・水野，香川薬学・石田，短大・森本，教務・三屋田，入試広報・宮井，情報センター・山地，香川就職支援・横山，徳島就職支援・松山(司会)，事務局・福井，井内，中原，安藝，正村，山中，人間生活・犬伏（敬称略）

当学部・学科での取り組みの現状と課題等について，次のとおり報告した。

令和5年度 人間生活学科就職支援状況

人間生活学科では、養護教諭や家庭科教諭を目指す学生が殆どであった為、教員採用試験に向けて全学共通教育センターの協力を得て、教育指導を継続的にこなってきた。しかし、少子化状況やコロナ禍の影響により、全国的に教員採用人数が減っており、一般企業への就職希望者が増えている。このような流動性から、教員を目指す学生と一般企業や公務員に就職を希望する学生に向けて、面談や資格・教員免許等の取得指導の強化、さらに、就職支援部進路説明会の学生参加、企業インターンシップへの学生参加の強化など、支援や指導の充実に注力した。「一般企業」確定人数11名の内訳として、もともと企業に就職したい希望者が8名、その他3名は教員と企業の両方を就活した後、自身に一致しているのは企業の方と判断し企業に向けてさらに就活した学生である。そのため業種も様々あり、一人ひとりのエントリー指導を事細かにおこなった。結果、4年生は希望する企業に就職することができた。学生1人は家事手伝いを希望したため就職活動はしていないが、除けば100%の達成率となった。一般企業の内定就職先は、大小とあるが学生に合った良い就職先と判断できた。家庭科・養護教諭内定先（正規・臨時を含めて）の確定人数は、教員採用が厳しい状況中、内定したのは成果があったと認識している。

令和5年度人間生活学科における就職支援の課題、問題点

希望する企業に就職を果たす学生が出てきたが、なかなか就職が決まらない学生がおり継続的に支援する必要がある。また、就職については入学後の早い段階から学生に準備をさせることが重要である。一般企業や公務員を目指す学生への支援をさらに充実させることが課題と考える。また、教員採用試験の対策も含め、学生一人ひとりの対応を強化することが重要である。

令和5年度卒業生就職状況（6月1日現在）

	就職・進学希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職・進学希望者	21	一般企業	11	21
		家庭科教諭（正・臨含む）	3	
		養護教諭（正・臨含む）	6	
		公務員	0	
		進学	1	
		その他	0	
その他	1	その他（家事手伝い）	1	1
学生数	22		22	22

令和5年度4年生現在の状況（6月1日段階予定者）

	就職希望者	内容	予定人数	就職決定者数
就職・進学希望者	21	一般企業	5	2
		家庭科教諭（正・臨含む）	2	
		養護教諭（正・臨含む）	11	
		公務員	3	
		進学	0	
		その他	0	
その他	3	その他（家事手伝い）	3	0
学生数	24		24	2

令和5年度 食物栄養学科就職支援状況

R4年度卒業生は、就職希望者66名に対して実際に就職した人数は64名となり就職希望者に対する就職率は97%という結果であった。(卒業生を分母とした就職率でみると、86.5%の就職率)食物栄養学科では、就職支援部と連携し学生への就職支援を行っている。就職先は、3月から4月は企業(食品会社)、3月から6月(委託給食)、6月から9月(教員採用試験)、10月以降に病院の募集があり、病院希望の学生の就職が決まるのが遅い。臨地実習も3年生の後期試験終了後から始めているが、期間は4年生の10月中旬までかかる。国家試験が2月末にあるため、就職を早めに決めて、国家試験の勉強に集中するように指導しているが、実際は年明けまで就活を行う学生さんもある。求人が卒業生などから教員側に来た場合は教員間や就職支援と共有し、就職が決まっていない学生に声かけを行っている。

令和5年度食物栄養学科における就職支援の課題、問題点

コロナ禍で臨地実習が中止になった場合があり、管理栄養士の仕事が十分わからないまま卒業した学生もいたことが課題である。

令和5年度卒業生就職状況(5月30日現在)

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	66	学校(栄養教諭・臨時, 学校職員)	2	64
		病院	7	
		企業	37	
		児童福祉施設	8	
		介護保険施設	4	
		家庭科教員(正式2, 臨時1)	3	
		一般事務(銀行, 民宿)	3	
その他 ^a	8	その他 ^b	10	10
学生数	74		74	74

その他^a: 教採及び国試対策(3), 大学進学(1), 家事(3), 体調不良(1)

その他^b: その他^{a+} 就職活動中(2)

令和5年度4年生現在の状況（6月14日段階内定者）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	59	学校(栄養教諭・臨時, 学校職員)	0	21
		病院	1	
		企業	16	
		児童福祉施設	0	
		介護保険施設	0	
		一般事務(銀行等)	4	
その他	1(進学希望)	その他		0
学生数	60		21	21

令和5年度 児童学科就職支援状況

- ・児童学科として過去最高の公立小学校現役合格者数(延べ24名)を達成することが出来た。
- ・臨時教職員を含め教職に約85%の学生が就いた。

令和5年度児童学科における就職支援の課題、問題点

- ・小学校, 公立幼稚園, 保育所, 認定こども園の採用人数が年々減少していること, 一般企業の内定時期が早まっていること等に対する対策が課題である。入学当初からの計画的かつ, 個別最適なキャリアデザインが求められると考える。

令和5年度卒業生就職状況（3月31日現在）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	57	公立小学校	29	57
		公立幼保	6	
		私立小・幼・保	17	
		公務員	1	
		企業等	4	
その他	4	進学その他	4	
学生数	61名		61名	61名

平成5年度採用試験結果

公立小学校教諭	20名現役合格（30名中）
公立幼稚園・ 保育士	6名現役合格（11名中）

令和5年度4年生現在の状況（5月1日段階）

	就職希望者	内奥	希望者数内訳
就職希望者	72	公立小学校	36
		公立幼保	15
		私立小・幼・保	7
		公務員	2
		企業等	12
その他	4	進学その他	4
学生数	76名		76名

令和5年度 メディアデザイン学科就職支援状況

令和4年度卒業生29名のうち、就職希望者は26名、就職を希望しない者は3名でした。就職希望者26名に対し、実際に就職した人数は22名となり、就職希望者に対する就職率は84.6%という結果でした。メディアデザイン学科では、各ゼミで指導するとともに、就職支援部にもご支援頂き、内定獲得に向け取り組みました。就職が決まらなかった4名についても積極的に働きかけてきましたが、内定を辞退した者、自分のペースで就職活動したいという者、自分では動いていると言うが実際には動かない者等、それぞれの事情、理由により内定獲得には至りませんでした。また、就職活動を終えた学生有志が発起人となり、Google Classroomで「先輩による就活相談室」を開設し、1年生～3年生から質問を受け、就職活動を終えた4年生が回答する形で学生主導の就職支援活動を実施しました。

令和5年度は、卒業生が自分の就職先企業の担当者らとともに、本学でメディアデザイン学科学生を対象とした会社説明会を開催しています。実績が2件で、今後も継続して卒業生に働きかけていきます。また、コロナ禍の影響で学科独自の就職活動報告会をオンラインで開催してきましたが、今年度は対面で開催する予定です。

令和5年度メディアデザイン学科における就職支援の課題、問題点

就職活動に消極的な学生への対策が今後の課題です。就職支援部と連携し、ゼミ指導教員やチューターが面談を行い、これまで以上に積極的に働きかけていく必要があります。

令和5年度卒業生就職状況（4月7日現在）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	26	情報通信	6	22
		商社	5	
		メーカー	4	
		流通	3	
		農業	1	
		その他	3	
その他	3	その他	3	3
学生数	29		25	25

令和5年度4年生現在の状況（6月6日段階内定者）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	24	情報通信	3	4
		商社		
		メーカー		
		流通		
		農業		
		その他	1	
その他	0	その他		0
学生数	24		4	4

令和5年度 建築デザイン学科就職支援状況

R4年度卒業生は、就職志望者40名に対して実際に就職した人数は40名となり就職希望者に対する就職率100%という結果でした。卒業生を分母とした就職率でも、97.5%の高い就職率を達成しています。建築デザイン学科では、学科独自の

就職セミナーを3年生を対象に6月から1月まで毎月1回（夏・冬休暇を除く）合計8回開催し、セミナーに参加していただいた企業も、通算33社にお越し頂きました。求人する企業から直接話を聞く貴重な機会であり、学生に就職に対する気持ちを高める結果になっていると思います。R4年度に就職した学生の中で、この就職セミナーで来校していただいた企業に12名の学生が就職しており、学科としては成果が上がっていると認識しております。もちろん、来校いただけなかった企業についても、学生の就職希望地域や職種に対して直接支援も行っております。

令和5年度建築デザイン学科における就職支援の課題、問題点

今のところ、就職を希望する学生は、全員就職できている。年々採用時期が早まっているので、対応が必要と思われる。

令和5年度卒業生就職状況（5月23日現在）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	40	ゼネコン・工務店	16	40
		ハウスメーカー	11	
		設計事務所	6	
		メーカー	3	
		官公庁	2	
		その他	2	
その他	1	その他	1	1
学生数	41		41	41

令和5年度4年生現在の状況（5月23日段階内定者）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就職希望者	53	ゼネコン・工務店	18	27
		ハウスメーカー	5	
		設計事務所	2	
		メーカー	1	
		官公庁	0	
		その他	1	
その他	0	その他	0	0
学生数	53		27	27

令和5年度 心理学科就職支援状況

- ・授業やクラスルームを通じて、求人情報を提供するとともに、面接や小論文等の就職試験対策を行った。
- ・その一方、「大卒時の就職で人生が決まる」と思い込んで身動きがとれなくなるというパターンを変えるように授業等で働きかけた。

令和5年度心理学科における就職支援の課題、問題点

- ・大学院進学希望者が増える中で、大学院入試や養護教諭の採用試験に不合格だった場合、その後の進路をどうするかが課題になっている。

令和5年度卒業生就職状況（3月31日現在）

	就職希望者	内容	確定人数	就職決定者数
就 職 希 望 者	58	養護教諭	2	58
		公務員	1	
		非常勤教員・公務員	7	
		児童福祉関係施設	15	
		企業等	33	
進学	8	大学院進学	8	
その他	16	その他	16	
学生数	82 名		82 名	58 名

令和5年度4年生現在の状況(5月1日段階)

	就 職 希 望 者	内容	希望者数内訳
就 職 希 望 者	65	養護教諭	3
		公務員	12
		企業等	50
そ の 他	25	大学院進学	20
		未定	5
学 生 数	90 名		90 名

第2章 各学科スタンダード

第1節 人間生活学科

人間生活学科は、人の相互理解のもとに築く心豊かな生活と健やかで快適な生活環境の構築を求めて知識を深めるとともに、環境との共存を図りながら自己に適したライフスタイルを創造する能力と実践力を身につけ、豊かな教養とグローバルな思考力を持つ教員・社会人の育成を教育目標としている。

教育内容は「生活経営学」「食物学」「被服学」「住居学」「保育・保健・養護学」の各分野から構成され、それぞれ、総論から各論へ、基礎から専門へと学びを深めていく。授業形態は講義、実験、実習、ゼミナールからなり、アクティブラーニングの手法を取り入れるなど多様な手法で展開されている。

また、令和2年度にカリキュラムを改訂し、家政学の学問領域と将来の進路を融合させた教育内容から構成される3つのフィールド（教員養成、ビジネスキャリア、コミュニケーションデザイン）を設定した。

本学科で取得できる教員免許は、家庭科および保健科の中学校教諭一種免許・高等学校教諭一種免許と養護教諭一種免許である。資格は、フードスペシャリスト、医療秘書、社会福祉主事任用資格などである。さらにカリキュラムの改訂に伴い二級建築士、上級情報処理士、福祉住環境コーディネーター、ファッションビジネス能力検定、防災士などが新たに加わった。どの免許・資格も現代社会においては非常に重要な役割をはたす資格であり、学生の興味・関心・適性に応じた個別指導を行う事により、自己の専門性を確立させ、自立した生活者としての幅広い知識と応用可能なスキルを習得させることを目指している。

令和2年度からのカリキュラムの改訂により、他学科との連携が強化され、人間生活学科の教育内容はさらに深化したと言える。来る「人生100年時代における生活の質向上」を視座に据え、従来の教育内容に加え「環境」「健康」「福祉」「国際」そして「防災」の領域から生活研究を多面的に追究する学科として歩み続けたい。

- (1) 家庭科及び保健科の中学校一種・高等学校一種、養護教諭一種の教員免許を取得し、社会の変化に柔軟に対応でき、豊かな教養と包容力を持つ教員の養成を目指す。
- (2) 医療秘書、フードスペシャリスト、福祉住環境コーディネーター、ファッションビジネス能力検定などの資格及び他学科の講義を受講・受験することで取得可能となる二級建築士や上級情報処理士などの資格と、得られた知識や技能を活かして、ビジネス社会において主体的に活躍しようとする学生の育成を目指す。
- (3) 地域の課題解決に興味・関心・意欲を持ち、フィールドワーク等を通じて積極的に関わることによって得られた知見を活かして、地域社会へ貢献する気概を持つ学生の育成を目指す。
- (4) 大学院や専攻科への進学を希望する学生には、十分な学術研究能力と教育実践力の育成を行う。

第2節 食物栄養学科

管理栄養士は栄養を通して「ヒトの健康」を維持管理するプロフェッショナルである。そのために、本学科では栄養や保健・衛生に関する高度な学識と技術をもつとともに、「人間栄養学」を実践できる人間味溢れる管理栄養士を養成する。すなわち、チーム医療の一員として傷病者の健康回復を栄養面からサポートできるプロフェッショナル、地域保健の担い手として地域住民の健康増進と疾病予防のために役立つプロフェッショナルを育成する。また、栄養を通じて「ヒトの健康」を増進するため小学校・中学校において食育を担当する栄養教諭、中学校・高等学校において生きる力を教育する家庭科教員を育成する。いずれにおいても、栄養アセスメントを基盤としたマネージメント・サイクルに適応できるプロフェッショナルでなければならない。

この目的のため、四年間を通して、栄養学を意識した「人体の構造と機能」や「ヒトの健康と疾患」、つまり解剖生理学、病理学、臨床栄養学を深く学ぶ。これらに加えて、低学年で食品学や食品加工学、食品衛生学、給食管理、調理学について学び、高学年で個人及び集団に対する栄養教育・指導を行うために、公衆栄養学や栄養教育論を学ぶ。さらに、HACCP 対応給食実習室での給食経営管理実習により実践力を身につける。学内での実験・実習に加えて、三・四年次には、四週間、総計 180 時間におよぶ病院での臨床栄養学臨地実習、保健所での公衆栄養学臨地実習、給食施設での給食の運営臨地実習・給食経営管理臨地実習により実際に管理栄養士が活躍する現場を経験し理解を深める。

社会に出て管理栄養士として活躍するためには、厚生労働省が実施する管理栄養士国家試験に合格し、管理栄養士免許を取得しなければならない。そのために、国家試験に合格できる学力をつけることを教育目標とする。国家試験対策として、①模擬試験の実施とその結果分析、そして事後指導（PDCA サイクルの強化）を行うためにゼミナール形式の少人数指導を行う。②演習科目により講義内容の理解をさらに深める。さらに、③自習室を積極的に利用して学生同士で教え合う環境を整備する。一方、研究職や大学教員を目指す学生の育成にも努め、研究能力涵養のために卒業研究において研究能力の基礎を教育・指導する。さらに大学院人間生活学研究科・博士前期課程・食物学専攻および博士後期課程・人間生活学専攻において、より深い研究能力を修得させる。また、リカレント教育の一環として教員経験者を社会人大学院生として受け入れ、教員専修免許（家庭科・栄養教諭）取得を目指し教育を行う。

第3節 児童学科

今日の教育界においては、「いじめ」「不登校」「体力低下」「児童虐待」「子どもの貧困」等が社会的課題となっている。このような状況の中、児童学科では教育学、心理学、保育学、ICT 活用力等の学びから、多様な教育・保育ニーズに理論的、実践的に対応でき、さらに、豊かな感性、コミュニケーション能力を持つ教員・幼稚園教諭・保育士等の養成を目指している。平成 29 年に策定した児童学科のキャッチフレーズ「感（豊かな感性を磨きます）夢（夢を叶えます）温（温かいサポートします）」のもとに全職員が一体となって全力を傾けている。

豊かな感性を育てる授業実践では、アクティブラーニングを主として実践し、表現力やコミュニケーション能力を養い、自己肯定感や達成感を持つことを目指している。また、実践力を身に付けるために、各種実習、多様なボランティア活動、地域活動への参加も図っている。さらに、平成 29 年から採用試験現役合格という学生の夢を叶えるための方策として児童学科独自の「対策講座」、チューターによる「ゼミチーム」、学生の「県別チーム」によって現役合格率が 75 パーセントまで上がってきた。

現在、教育・保育現場の多忙さや保護者への対応力の必要性が報道されるが、「人財」が将来の社会を支える基盤となることや人を育てるやりがいや喜びを学生に伝えていくことが重要であるとする。この点を踏まえ、以下のような児童学科のスタンダードのもと、人材育成を図っている。

（１）小学校教諭 1 種免許取得、中学校英語 2 種免許取得、幼稚園教諭 1 種免許取得、保育士資格取得

現在の小学校や幼稚園、認定こども園、保育園での多様な課題に柔軟に対応し、専門的知識と子ども個々の思いを大切にした優しさと豊かな教養を持つ「子どものスペシャリスト」としての教員・幼稚園教諭・保育士の育成を目指している。また、こうした資格を生かして、社会の変化に柔軟に対応できる児童福祉施設職員や公務員などの育成も目指している。

（２）准学校心理士資格、レクリエーション・インストラクター、スポーツ・インストラクター資格の取得

子どもや保護者の心の理解とサポートのために准学校心理士資格を取得し、こころの健康や不登校問題等に貢献できることを目指している。また、子どもの健康と楽しい学び、人間関係づくりやコミュニケーション能力育成のためにレクリエーション・インストラクター資格やスポーツ・インストラクター資格の取得により、小学校・幼稚園・保育園のみならず、地域の活動にも貢献できることを目指している。

（３）教育実習（小学校・幼稚園）・保育実習・施設実習・介護等体験

多様な実習体験を通して、専門的実践力の向上につなげるとともに、社会人としての資質・能力を身に付けることを目指している。

（４）各種ボランティア活動への参加、「地域連携型子ども支援センター」における支援体験

地域の多様なボランティア活動に参加することにより、コミュニケーション能力、人間関係づくり、地域貢献へのやりがいを持たせることを目指している。また、学科内にセン

ターを設置し、地域の小学校や幼稚園の子どもたちの学習や生活をサポートする中で、支援方法のあり方を検証し、指導者として必要とされる資質や能力を身に付けることを目指している。

(5) 今日の課題としての情報教育の推進

「教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む）」「情報処理」等の科目を開設するとともに、1人1台のタブレット端末環境を整備し、ICT機器を実践に有効活用できる力を育成している。

第4節 メディアデザイン学科

メディアデザイン学科では、デザイン能力を「問題を解決する能力、新しい価値を創出する能力」と捉え、メディアテクノロジーを活用することで新しいデザインを提案できる人材を育成する。具体的には、現代社会のさまざまな問題解決のための企画・立案・実践を行うことのできる能力を習得することを目的とする。ここで言うメディアテクノロジーとは、映像などのデジタルコンテンツの処理、プログラミング、Web サイト、Web アプリケーションの開発、ネットワークの構築・運営・管理、社会調査データなどの統計分析を指す。

また、当学科では、社会で求められている能力「各個人は、人材市場でどの程度の価値を持ち、通用するのか判断できる」、「人材を求める企業は、人材戦略を明確に立案できるようになる」(IT スキル標準 ITSS)」も視野に入れ、次のような資格に裏付けられた人材養成を行う。

- 1) IT 専門職：「IT スキル標準」は知識だけでなく実務能力の評価指標であるため、当学科では知識を主体とした資格取得を目標とする。上級情報処理士 ㊦、プレゼンテーション実務士、Web デザイン実務士資格の取得、IT パスポート試験、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、情報処理技術者高度試験、MOS (Microsoft Office Specialist) 試験の合格を目指す。
- 2) 高等学校教諭：平成 15 年度から始まった高等学校「情報」の授業の教育者として、情報社会における IT やセキュリティ、情報倫理、著作権などを学び、人間性豊かなコミュニケーションができる人材を育成する。
- 3) 社会調査士：社会調査士認定協会の認定が始まった初年度（平成 16 年）から、資格を取得できる体制を整えた。調査企画から報告書作成までの社会調査の全過程を学習することにより、基本的な調査方法や分析方法の妥当性、問題点の指摘、提言ができる実力を養う。

カリキュラムは、①情報領域、②コンテンツ領域、③データサイエンス領域、④共通領域の 4 領域で構成される。

また、講義の中で業界第一線の知識・技術に触れ、外部講師による専門的な経験談を取り入れ、学生のスキル向上を図るとともに、学士力の向上に努める。

第5節 建築デザイン学科

日本の建築における課題は、豪雨、台風、地震や津波などの自然災害が多く、安全で優れた建物をつくる技術の向上がますます求められている。また同時に、エネルギーを浪費せず、環境に負荷をかけず、生活に快適さをもたらす建物の室内環境調整の技術やインテリアデザインも大切であり、合わせて、建物に美しさも期待されることも求められている。さらには、高齢社会をむかえ、誰もがスムーズに使える住宅や公共施設のユニバーサルデザインも要求されている。

従って、建築デザイン学科は建築・インテリアデザインの専門家として、このような多くの課題をかかえる社会に貢献する知識や技術をもった、人間性豊かな人材の育成を、教育のねらいとして位置付けている。

人間生活学部に属するメリットを生かして、人と生活と環境を大切にし、建築の3大要素である「強・用・美」をそなえる、建築・インテリアデザインの実現をめざし、課題を解決できる創造力を持った人材を育成している。

教育は、講義とともに、製図、CAD、模型製作、建築材料実験などの実習・演習を展開し、カリキュラムツリーにしたがって系統的におこなわれている。

建築デザイン学科では、次のようなスタンダード（学習到達水準）を設けて教育にあたっている。

- (1) 専門分野の基本的な知識と考え方を身につける学修環境を目指す。
- (2) 自己の考えを的確に表現し、円滑なコミュニケーションのできる学修環境を目指す。
- (3) 都市や地域の歴史・環境・計画についての基礎知識を持たせる学修環境を目指す。
- (4) 建物の室内環境調整についての基礎理論を習得させる学修環境を目指す。
- (5) 木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の建物の施工や材料について基礎知識を持たせる学修環境を目指す。
- (6) コンピュータについて、建築系の実務に必要な基礎知識と自由に操作することができる能力を持たせる学修環境を目指す。
- (7) 建築士に必要な実務的知識と設計製図能力を習得させる学修環境を目指す。
- (8) 戸建住宅および小規模建物の基本的な建築計画・設計・施工管理ができる能力を持たせる学修環境を目指す。
- (9) 中学・高校の家庭科教員に必要な住生活に関する知識の基礎的事項を習得させる学修環境を目指す。

第6節 心理学科

心理学は人間の心の機能（知・情・意）とその表れである行動についての学問であり、人間行動のあらゆる領域をその対象としている。基礎的な生理的反応や知覚の領域から、カウンセリングや心理療法といった対人支援の領域、また、生産性の向上や組織運営のあり方といった産業領域での活用、地域社会や環境との関わりまで含めたコミュニティ心理学など、非常に幅広い学問である。

ヒトは社会的動物であり、人との関わりの中で人間として成長し、人が作る社会の中で生きていく。心理学は人としての基礎教養であり、また、それぞれの職能領域で「こころの専門家」としての活躍が期待されている学問でもある。心理学科においては、「心理学概論」「知覚・認知心理学」「学習・言語心理学」「神経・生理心理学」等の基礎的領域から「健康・医療心理学」「産業・組織心理学」「司法・犯罪心理学」「心理学的支援法」等の応用領域へと、幅広い領域の心理学を段階的に学べるようにカリキュラムが編成されている。また、「心理学実験」や「心理検査実習」「心理療法演習」などの体験・参加型授業によって、知識のみでなく、心理学的技能の習得を図っている。

心理学科は、卒業後の就職および進学に関連して資格取得という点から、3つの特徴ある目標指向プロセス（Goal oriented process）をもっている。これはコース編成というよりもキャリア選択に向けての具体的な指針であるので、余裕のある学生は（1）～（3）の複数の目標をもって大学生活を送ることができる。

（1）一般企業、公務員等（標準心理プロセス）

人間関係が希薄になっている現代社会において、心理学を専門として学んできたこと自体が一般企業や公務員として好印象を持たれることは間違いないが、一般企業の会社員や一般公務員として社会の中で種々の役割を担うにあたって、心理学全般の基礎的知識・能力を認定するものとして、「認定心理士」と「心理学検定」がある。所定の科目を履修することで「認定心理士」の資格取得が可能である。また、在学中に「心理学検定」の受験が推奨されており、検定資格の取得を目指すことができる。

（2）養護教諭一種免許取得（養護心理プロセス）

養護教諭は児童・生徒の心身の健康を担う教諭であるが、心理学科では特に「こころ」の健康に貢献できる養護教諭の養成を目指している。教育現場では、不登校やいじめなど心の問題を抱えた児童・生徒への支援が保健室の大きな役割になっており、身体的な知識に加え、心理学の専門性が必要とされている。

（3）大学院進学と資格取得（臨床心理プロセス）

心の専門家に関する国家資格への社会的な要請は強く、公認心理師法が成立した。本学科では、スタッフならびに実習先確保等万全の態勢で養成を始めており、大学院修士修了が国家試験・受験資格の要件なので、学部・大学院が揃っている徳島文理大学は国家資格を目指すには非常に良い環境だと言えよう。今後、医療や種々の心理相談機関において心理専門職として認められるためには、公認心理師あるいは臨床心理士の資格取得が望まし

い。臨床心理士については、指定大学院卒業が受験資格とされており、本学大学院は臨床心理士養成第1種指定校である。

第3章 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果

2023年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果										人間生活学部 人間生活学科	
性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	24
	2	20			0	23	1	0	0		回答数
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは		優	良	可	回答率(%)	100.0
	18	1	5				11	9	4		

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	11	9	2	2	0	4.21
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	13	8	1	2	0	4.33
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	18	2	3	0	1	4.50
4	教育に対する熱意は感じられましたか	12	10	1	1	0	4.38
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	13	8	3	0	0	4.42
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	10	11	2	1	0	4.25

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	9	11	2	1	1	4.08
2	図書館は利用しやすかったですか	16	5	1	2	0	4.46
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	13	7	1	2	1	4.21
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	15	7	1	0	1	4.46
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	9	9	4	2	0	4.04
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	12	7	3	1	1	4.17

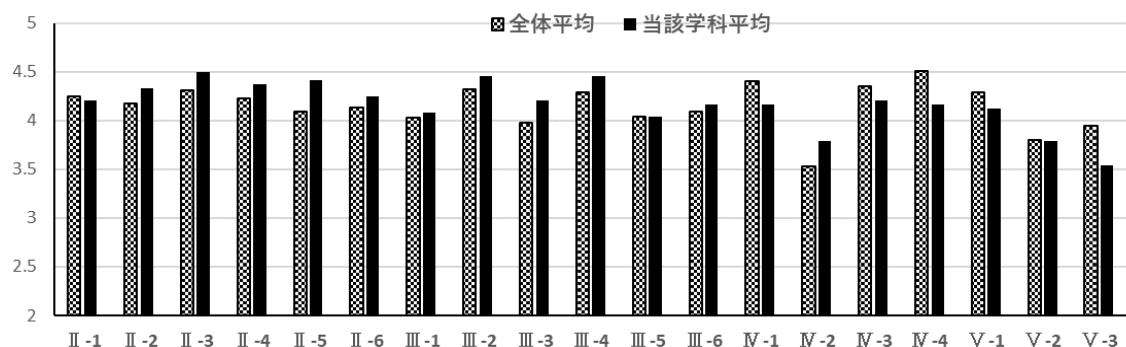
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	11	9	2	1	1	4.17
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	6	10	5	3	0	3.79
3	頼りになる教員に出会えましたか	14	6	1	1	2	4.21
4	よき友と出会えましたか	15	4	1	2	2	4.17

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	10	8	5	1	0	4.13
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	8	8	5	1	2	3.79
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	7	8	4	1	4	3.54

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2023年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果	人間生活学部 食物栄養学科
--------------------------------------	----------------------

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上		対象者数	59
	7	10			0	17	1	0	0		回答数	18
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	30.5
	16	0	2					5	9	4		

Ⅱ. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	9	6	2	1	0	4.28
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	9	4	4	1	0	4.17
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	12	2	1	1	2	4.17
4	教育に対する熱意は感じられましたか	6	11	0	0	1	4.17
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	9	4	2	2	1	4.00
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	8	6	2	0	2	4.00

Ⅲ. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	9	3	0	3	3	3.67
2	図書館は利用しやすかったですか	13	4	1	0	0	4.67
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	9	6	2	0	1	4.22
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	11	4	1	1	1	4.28
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	10	4	0	1	3	3.94
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	10	4	2	1	1	4.17

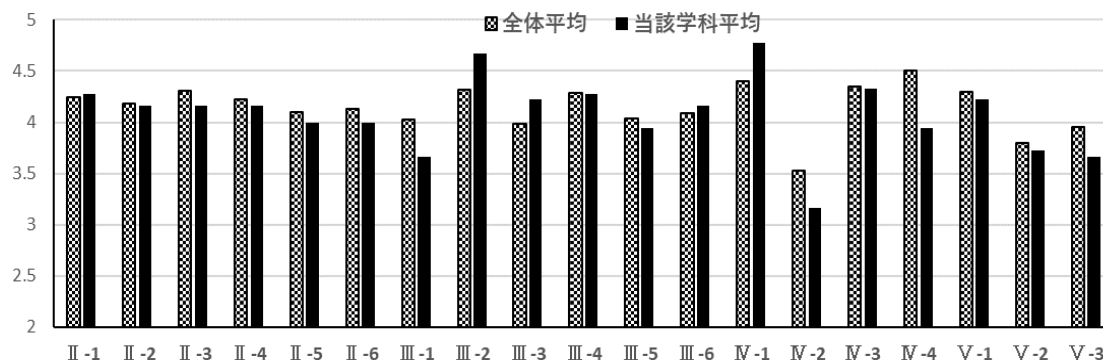
Ⅳ. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	14	4	0	0	0	4.78
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	7	0	5	1	5	3.17
3	頼りになる教員に出会えましたか	10	6	1	0	1	4.33
4	よき友と出会えましたか	11	2	0	3	2	3.94

Ⅴ. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	11	4	0	2	1	4.22
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	7	5	3	0	3	3.72
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	8	4	2	0	4	3.67

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2023年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果										人間生活学部 児童学科		
性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上	対象者数	74	
	18	54			0	73	0	0	0	回答数	73	
卒業後の 進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	98.6
	70	1	2					41	26	6		

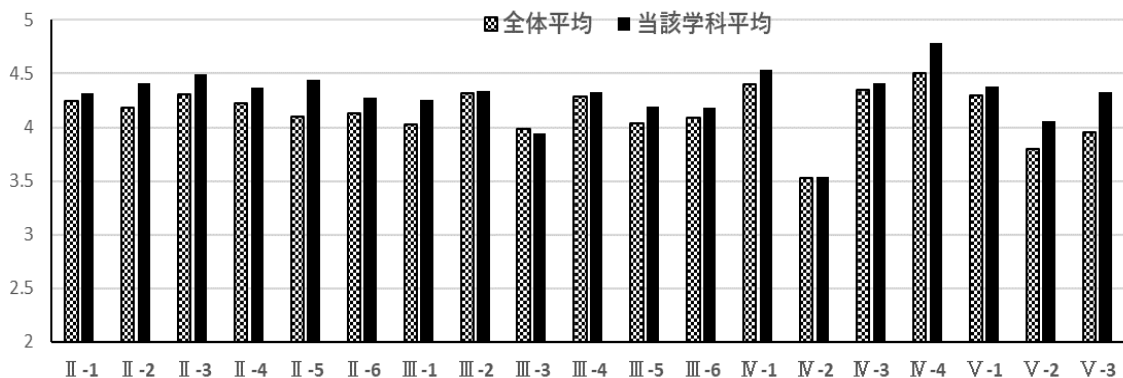
II. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	34	30	7	2	0	4.32
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	36	32	4	1	0	4.41
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	41	28	3	1	0	4.49
4	教育に対する熱意は感じられましたか	36	30	5	2	0	4.37
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	41	25	5	2	0	4.44
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	36	24	11	1	1	4.27

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	40	20	7	4	2	4.26
2	図書館は利用しやすかったですか	40	20	12	0	1	4.34
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	30	19	14	10	0	3.95
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	36	30	3	3	1	4.33
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	33	27	9	2	2	4.19
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	31	31	6	3	2	4.18

IV. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	46	20	7	0	0	4.53
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	18	20	23	7	5	3.53
3	頼りになる教員に出会えましたか	44	21	4	2	2	4.41
4	よき友と出会えましたか	61	9	2	1	0	4.78

V. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	40	24	7	1	1	4.38
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	29	24	17	1	2	4.05
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	43	17	10	0	3	4.33

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2023年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果	人間生活学部 メディアデザイン学科
--------------------------------------	--------------------------

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上		対象者数	22
	17	4			0	22	0	0	0		回答数	22
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは			優	良	可	回答率(%)	100.0
	18	1	3					11	8	3		

II. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	5	12	3	1	1	3.86
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	6	11	2	2	1	3.86
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	7	10	3	0	2	3.91
4	教育に対する熱意は感じられましたか	6	12	2	0	2	3.91
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	6	7	5	1	3	3.55
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	8	10	2	0	2	4.00

III. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	7	5	6	2	2	3.59
2	図書館は利用しやすかったですか	9	7	3	1	2	3.91
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	8	7	5	1	1	3.91
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	6	7	6	2	1	3.68
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	8	9	4	0	1	4.05
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	8	8	5	0	1	4.00

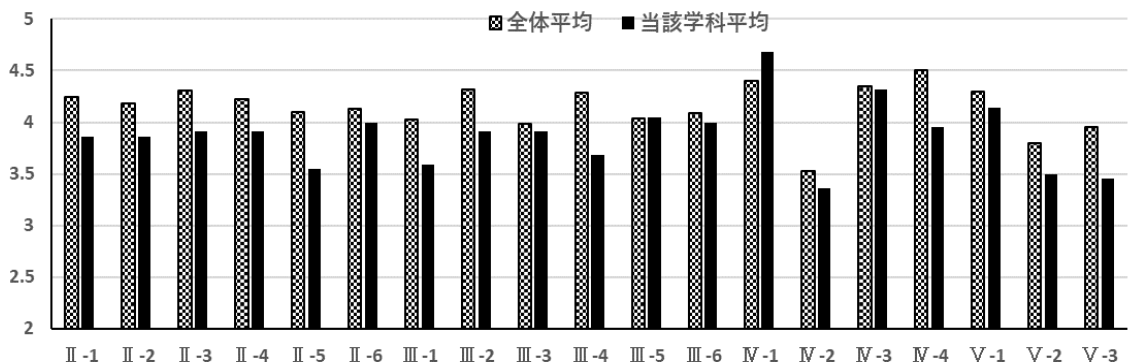
IV. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	15	7	0	0	0	4.68
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	4	7	7	1	3	3.36
3	頼りになる教員に出会えましたか	12	7	2	0	1	4.32
4	よき友と出会えましたか	9	8	2	1	2	3.95

V. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	10	9	1	0	2	4.14
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	6	5	8	0	3	3.50
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	4	7	8	1	2	3.45

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2023年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果	人間生活学部 建築デザイン学科
--------------------------------------	------------------------

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上		対象者数	52
	24	13			1	37	0	0	0		回答数	38
卒業後の進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは						回答率(%)	73.1
	34	0	4				優 13	良 22	可 3			

Ⅱ. 授業・教育課程について（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	12	21	3	2	0	4.13
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	10	22	3	3	0	4.03
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	11	21	5	1	0	4.11
4	教育に対する熱意は感じられましたか	12	21	3	1	1	4.11
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	11	17	7	2	1	3.92
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	17	16	2	3	0	4.24

Ⅲ. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	14	13	8	1	2	3.95
2	図書館は利用しやすかったですか	17	7	12	1	1	4.00
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	11	13	9	3	2	3.74
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	15	16	4	3	0	4.13
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	21	7	5	4	1	4.13
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	14	13	8	2	1	3.97

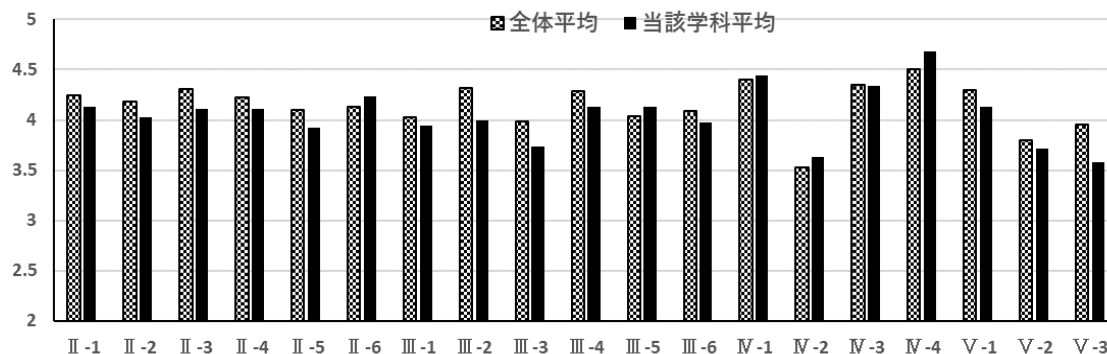
Ⅳ. キャンパスライフについてお尋ねします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	23	12	1	1	1	4.45
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	12	7	13	5	1	3.63
3	頼りになる教員に出会えましたか	23	8	5	1	1	4.34
4	よき友と出会えましたか	30	6	1	0	1	4.68

Ⅴ. 総合評価をお願いします

No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	16	14	6	1	1	4.13
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	10	13	11	2	2	3.71
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	7	16	9	4	2	3.58

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



2023年度 卒業生対象大学生生活満足度アンケート集計結果	人間生活学部 心理学科
--------------------------------------	--------------------

性別	男性	女性		在籍年数	1,2	3,4	5,6	7,8	9以上		対象者数	90
	1	8			0	10	0	0	0		回答数	10
卒業後の 進路	就職	進学	未定		あなたの成績について 一番多かったのは		優	良	可		回答率(%)	11.1
	6	2	2				4	4	2			

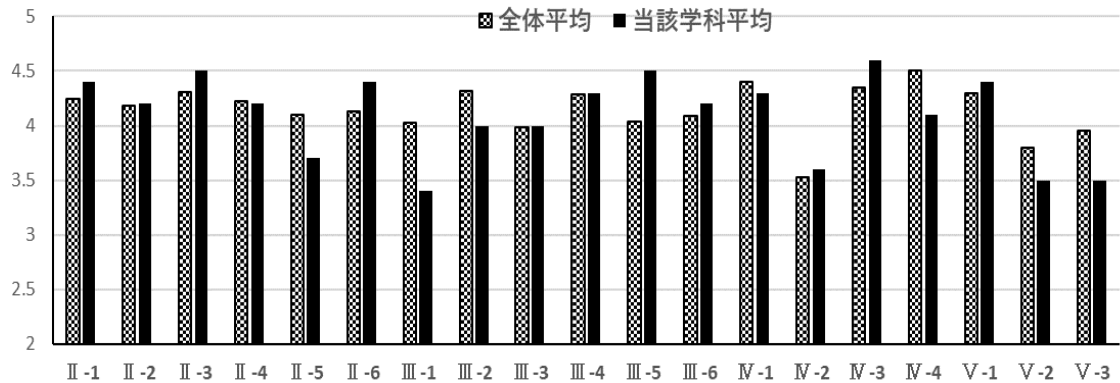
Ⅱ. 授業・教育課程について（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	授業科目は充実していましたか	5	4	1	0	0	4.40
2	授業や実習内容はわかりやすかったですか	3	6	1	0	0	4.20
3	専門的な知識や技能（免許・資格を含む）を修得できましたか	7	1	2	0	0	4.50
4	教育に対する熱意は感じられましたか	4	4	2	0	0	4.20
5	授業以外の指導（学外実習、見学、補習など）は充実していましたか	3	4	1	1	1	3.70
6	課題（宿題やレポートなど）の量は適切でしたか	4	6	0	0	0	4.40

Ⅲ. 大学の設備および支援体制についてお尋ねします（全体として）							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	就職や進路についての相談・支援は役に立ちましたか	3	0	5	2	0	3.40
2	図書館は利用しやすかったですか	5	2	2	0	1	4.00
3	学内のPCやWi-Fiサービスは利用しやすかったですか	3	4	3	0	0	4.00
4	授業や実験・実習に必要な設備は整っていましたか	5	3	2	0	0	4.30
5	食堂や売店・コンビニに満足していましたか	6	3	1	0	0	4.50
6	困ったことがあった場合、相談できる体制は整っていましたか	5	2	3	0	0	4.20

Ⅳ. キャンパスライフについてお尋ねします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	キャンパスは清潔でしたか	5	3	2	0	0	4.30
2	課外活動（部活やイベントなど）に満足しましたか	3	1	5	1	0	3.60
3	頼りになる教員に出会えましたか	7	2	1	0	0	4.60
4	よき友と出会えましたか	5	3	1	0	1	4.10

Ⅴ. 総合評価をお願いします							
No.	設問文	回答数					平均
		5	4	3	2	1	
1	入学時の夢をかなえることができましたか	5	4	1	0	0	4.40
2	総合的にみて、本学での学生生活はよかったですか	2	2	5	1	0	3.50
3	知り合いの高校生に本学への進学を勧めたいと思いますか	2	4	2	1	1	3.50

(5:そう思う 4:ややそう思う 3:どちらでもない 2:あまりそう思わない 1:そう思わない)



第4章 学生による授業評価アンケートの集計結果

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2023年度 後期		対象	人間生活学部 人間生活学科			
対象数	1,228	回答数	946	回答率(%)	77.0	有効回答数	929
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				529	0.57	3.43	
部分的に読んだ(3点)				345	0.37		
ほとんど読まなかった(2点)				13	0.01		
まったく読まなかった(1点)				13	0.01		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				421	0.45	3.36	
どちらかというに興味があった(3点)				424	0.46		
どちらかというに興味がなかった(2点)				80	0.09		
まったく興味がなかった(1点)				4	0.00		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				591	0.64	3.58	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				293	0.32		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				37	0.04		
わかりにくい内容であった(1点)				8	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				831	89.45		
自立性				367	39.50		
協同性				332	35.74		
考え抜く力				354	38.11		
交渉力				222	23.90		
発信力				203	21.85		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				719	77.40		
授業の進め方				567	61.03		
教科書・パワーポイントなどの資料				445	47.90		
課題や宿題の内容（量も含む）				393	42.30		
教室の設備				400	43.06		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				513	0.55	3.43	
良(3点)				305	0.33		
可(2点)				107	0.12		
不可(1点)				4	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				643	0.69	3.65	
どちらかという満足(3点)				258	0.28		
どちらかという不満足(2点)				19	0.02		
不満足(1点)				9	0.01		

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2023年度 後期		対象	人間生活学部 食物栄養学科			
対象数	2,314	回答数	1,757	回答率(%)	75.9	有効回答数	1,749
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				715	0.41	3.11	
部分的に読んだ(3点)				765	0.44		
ほとんど読まなかった(2点)				97	0.06		
まったく読まなかった(1点)				96	0.05		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				546	0.31	3.19	
どちらかという興味があった(3点)				1,016	0.58		
どちらかという興味がなかった(2点)				158	0.09		
まったく興味がなかった(1点)				29	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				828	0.47	3.37	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				761	0.44		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				140	0.08		
わかりにくい内容であった(1点)				20	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				1,556	88.97		
自立性				618	35.33		
協同性				507	28.99		
考え抜く力				613	35.05		
交渉力				353	20.18		
発信力				259	14.81		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				1,267	72.44		
授業の進め方				1,005	57.46		
教科書・パワーポイントなどの資料				791	45.23		
課題や宿題の内容（量も含む）				600	34.31		
教室の設備				693	39.62		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				619	0.35	3.16	
良(3点)				794	0.45		
可(2点)				334	0.19		
不可(1点)				2	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				907	0.52	3.48	
どちらかという満足(3点)				782	0.45		
どちらかという不満足(2点)				56	0.03		
不満足(1点)				4	0.00		

授業アンケート集計結果						徳島文理大学					
実施年度		2023年度 後期		対象		人間生活学部 児童学科					
対象数		2,521	回答数		2,072	回答率(%)		82.2	有効回答数		2,056
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか											
設問						回答数		比率		加重平均	
全体的に読んだ(4点)						992		0.48		3.22	
部分的に読んだ(3点)						810		0.39			
ほとんど読まなかった(2点)						74		0.04			
まったく読まなかった(1点)						73		0.04			
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか											
設問						回答数		比率		加重平均	
とても興味があった(4点)						1,022		0.50		3.43	
どちらかというに興味があった(3点)						904		0.44			
どちらかというに興味がなかった(2点)						113		0.05			
まったく興味がなかった(1点)						17		0.01			
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか											
設問						回答数		比率		加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)						1,470		0.71		3.68	
どちらかというとわかりやすい内容であった(3点)						520		0.25			
どちらかというとわかりにくい内容であった(2点)						60		0.03			
わかりにくい内容であった(1点)						6		0.00			
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください											
設問						回答数		選択率(%)			
専門的な知識・技能						1,913		93.04			
自立性						1,096		53.31			
協同性						1,046		50.88			
考え抜く力						1,075		52.29			
交渉力						870		42.32			
発信力						783		38.08			
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください											
設問						回答数		選択率(%)			
説明内容						1,740		84.63			
授業の進め方						1,384		67.32			
教科書・パワーポイントなどの資料						1,160		56.42			
課題や宿題の内容（量も含む）						962		46.79			
教室の設備						1,044		50.78			
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか											
設問						回答数		比率		加重平均	
優(4点)						1,205		0.59		3.50	
良(3点)						670		0.33			
可(2点)						177		0.09			
不可(1点)						4		0.00			
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか											
設問						回答数		比率		加重平均	
満足(4点)						1,540		0.75		3.73	
どちらかという満足(3点)						483		0.23			
どちらかというと不満足(2点)						31		0.02			
不満足(1点)						2		0.00			

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2023年度 後期		対象	人間生活学部 メディアデザイン学科			
対象数	974	回答数	677	回答率(%)	69.5	有効回答数	654
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				250	0.38	3.04	
部分的に読んだ(3点)				307	0.47		
ほとんど読まなかった(2点)				23	0.04		
まったく読まなかった(1点)				22	0.03		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				218	0.33	3.18	
どちらかという興味があった(3点)				353	0.54		
どちらかという興味がなかった(2点)				66	0.10		
まったく興味がなかった(1点)				17	0.03		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				314	0.48	3.38	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				284	0.43		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				44	0.07		
わかりにくい内容であった(1点)				12	0.02		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				536	81.96		
自立性				304	46.48		
協同性				211	32.26		
考え抜く力				273	41.74		
交渉力				130	19.88		
発信力				123	18.81		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				487	74.46		
授業の進め方				449	68.65		
教科書・パワーポイントなどの資料				303	46.33		
課題や宿題の内容（量も含む）				233	35.63		
教室の設備				206	31.50		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				257	0.39	3.24	
良(3点)				296	0.45		
可(2点)				101	0.15		
不可(1点)				0	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				346	0.53	3.49	
どちらかという満足(3点)				287	0.44		
どちらかという不満足(2点)				15	0.02		
不満足(1点)				6	0.01		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2023年度 後期		対象	人間生活学部 建築デザイン学科			
対象数	1,429	回答数	933	回答率(%)	65.3	有効回答数	923
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				410	0.44	3.16	
部分的に読んだ(3点)				376	0.41		
ほとんど読まなかった(2点)				49	0.05		
まったく読まなかった(1点)				48	0.05		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				452	0.49	3.40	
どちらかという興味があった(3点)				396	0.43		
どちらかという興味がなかった(2点)				65	0.07		
まったく興味がなかった(1点)				10	0.01		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				589	0.64	3.57	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				280	0.30		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				44	0.05		
わかりにくい内容であった(1点)				10	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				804	87.11		
自立性				336	36.40		
協同性				142	15.38		
考え抜く力				312	33.80		
交渉力				123	13.33		
発信力				129	13.98		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				654	70.86		
授業の進め方				527	57.10		
教科書・パワーポイントなどの資料				380	41.17		
課題や宿題の内容（量も含む）				309	33.48		
教室の設備				288	31.20		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				411	0.45	3.31	
良(3点)				387	0.42		
可(2点)				122	0.13		
不可(1点)				3	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				551	0.60	3.55	
どちらかという満足(3点)				339	0.37		
どちらかという不満足(2点)				27	0.03		
不満足(1点)				6	0.01		

授業アンケート集計結果						徳島文理大学	
実施年度	2023年度 後期		対象	人間生活学部 心理学科			
対象数	2,879	回答数	1,818	回答率(%)	63.1	有効回答数	1,801
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				857	0.48	3.20	
部分的に読んだ(3点)				707	0.39		
ほとんど読まなかった(2点)				74	0.04		
まったく読まなかった(1点)				73	0.04		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				776	0.43	3.32	
どちらかという興味があった(3点)				848	0.47		
どちらかという興味がなかった(2点)				151	0.08		
まったく興味がなかった(1点)				26	0.01		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				1,167	0.65	3.59	
どちらかというわかりやすい内容であった(3点)				534	0.30		
どちらかというわかりにくい内容であった(2点)				87	0.05		
わかりにくい内容であった(1点)				13	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				1,629	90.45		
自立性				680	37.76		
協同性				562	31.20		
考え抜く力				740	41.09		
交渉力				427	23.71		
発信力				348	19.32		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				1,433	79.57		
授業の進め方				1,218	67.63		
教科書・パワーポイントなどの資料				1,090	60.52		
課題や宿題の内容（量も含む）				758	42.09		
教室の設備				752	41.75		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				730	0.41	3.22	
良(3点)				737	0.41		
可(2点)				329	0.18		
不可(1点)				5	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				1,158	0.64	3.62	
どちらかという満足(3点)				601	0.33		
どちらかという不満足(2点)				37	0.02		
不満足(1点)				5	0.00		

授業アンケート集計結果					徳島文理大学		
実施年度	2023年度 後期		対象	大学全体			
対象数	40,537	回答数	26,356	回答率(%)	65.0	有効回答数	26,120
1. 受講する前（学期はじめ）に、あなたはこの授業のシラバスを読みましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
全体的に読んだ(4点)				10,248	0.39	3.03	
部分的に読んだ(3点)				11,286	0.43		
ほとんど読まなかった(2点)				1,466	0.06		
まったく読まなかった(1点)				1,465	0.06		
2. 受講する前（学期はじめ）、あなたはこの授業に興味（学習意欲）がありましたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
とても興味があった(4点)				9,921	0.38	3.24	
どちらかというに興味があった(3点)				13,212	0.51		
どちらかというに興味がなかった(2点)				2,428	0.09		
まったく興味がなかった(1点)				559	0.02		
3. あなたにとってこの授業の全体的な内容は理解しやすいものでしたか							
設問				回答数	比率	加重平均	
わかりやすい内容であった(4点)				14,507	0.56	3.48	
どちらかというとわかりやすい内容であった(3点)				9,815	0.38		
どちらかというとわかりにくい内容であった(2点)				1,496	0.06		
わかりにくい内容であった(1点)				302	0.01		
5. あなたがこの授業を受けたことによって得られたと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
専門的な知識・技能				23,384	89.53		
自立性				9,999	38.28		
協同性				7,392	28.30		
考え抜く力				10,114	38.72		
交渉力				5,128	19.63		
発信力				4,244	16.25		
6. この授業に関して良いと思うものをすべて選択してください							
設問				回答数	選択率(%)		
説明内容				19,371	74.16		
授業の進め方				15,480	59.26		
教科書・パワーポイントなどの資料				12,164	46.57		
課題や宿題の内容（量も含む）				8,971	34.35		
教室の設備				8,634	33.06		
7. あなた自身の学習活動を評価した場合、最終成績（スコア）はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
優(4点)				11,202	0.43	3.25	
良(3点)				10,445	0.40		
可(2点)				4,349	0.17		
不可(1点)				124	0.00		
8. 総合的にみて、この授業のあなた自身の満足度はどれだと思いますか							
設問				回答数	比率	加重平均	
満足(4点)				15,130	0.58	3.54	
どちらかという満足(3点)				10,021	0.38		
どちらかというと不満足(2点)				839	0.03		
不満足(1点)				130	0.00		

第5章 研究授業報告

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	人間生活学科
授 業 者	高橋昌江	科 目 名 (シラバス番号)	薬理概論 (13079)
授業協力者		実 施 教 室	9603
実 施 日 時	令和 5 年 7 月 7 日 金曜日 1 講時		
対 象 学 生	人間生活学科 3 年・心理学科 4 年	受講学生数： 79 名	
教 授 法	講義		
授業テーマ 消化器系に作用する薬物			
研究授業内容自己評価 すべての対象学生にとって当該科目は専門分野ではないため、どの程度理解しているかがはっきりしないことが不安な点である。薬物を理解するということは、その薬物の特徴を知るだけでなく、人体の正常な機能や疾患時における機能の変化を理解するとともに、薬物によりそれらが修正されていく過程を理解する必要があり、そのような観点から授業を行うようにしている。			
研究授業参観者の意見・感想 専門外の学生が比較的困難な科目をどの程度理解しているのかを、授業の中で確認しながら進めていくことは難しいと考える。また、授業内容に特に興味をもっていない人にも興味を持ってもらい理解をしてもらうことも、重要なことである。これらの2点にフォーカスし、手法等を勉強し参考にしてみたいと、高橋昌江先生の授業を参観した。 学生にとって解剖生理学や免疫学という比較的説明や理解を得ることが困難な授業を自分も担当している傍ら、同じく困難な薬物学の授業のやり方が参考になった。毎回授業ごとにプリントを穴埋め式で配布し、学生に穴埋めを筆記させることで覚えてもらうことや、気をひかせる手段について参考になったので、自分の授業にも活かしたい。 1 点自分の受け持ち科目で厳しいことは、国家試験受験対象者への授業の中で、1 回の授業で理解を深めてもらいたい範囲量が多いので、どう内容を絞り、どう復習予習で補ってもらかななどを総合的に俯瞰的に見て今後も継続してよりよくしていくことに努めたい。			
授業参観教員数	1 名 増田泰伸		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	食物栄養学科
授 業 者	増田泰伸	科 目 名 (シラバス番号)	微生物学 (13702)
授業協力者		実 施 教 室	9704 教室
実 施 日 時	令和5年11月9日 木曜日 3 講時		
対 象 学 生	食物栄養学科1年生		受講学生数：43名
教 授 法	パワーポイントを使った講義		
授業テーマ 感染症の現状と治療			
研究授業内容自己評価 ・ 前回の授業の重要なポイントを、授業開始時にもう一度説明することで、前回授業内容のポイントの想起を誘導し、学生の理解を高めている。 ・ 今日の授業の到達点を明示してから、本日の授業内容を開始することで、学生に重要ポイントを事前に意識させている。 ・ クイズ型式のスライドも使用しながら要所で学生に質問を行い、学生の授業参加を促した。 ・ 解剖生理学実験の内容とのつながりも説明に入れて、関連性に関し学生の意識を高めようとしている。 ・ 「本日のまとめ」を提示した後、確認テスト（国試類似問題）を実施し回収。その後に問題解説をして、理解度を確認している。 感染症の現状の KeyWords:新興感染症/再興感染症/院内感染/日和見感染/多剤耐性菌/菌交代症 感染症の診断の KeyWords:病原体診断（細菌・真菌・ウイルス）/コッホの4原則/補助的診断 感染症の治療の KeyWords:抗菌薬/選択毒性/化学療法指数/抗菌スペクトル/薬剤耐性菌 /薬剤感受性/副作用/食品との相互作用/抗血清療法/デ・エスカレーション			
研究授業参観者の意見・感想 ・ 専門性が高く、高度な内容であったが、わかりやすく解説していた。 ・ 本日のねらい、到達点を冒頭に学生に示し、学生の意識を高めている点は良かった。 ・ スライドで、赤字にして覚えることと、見てもらっておけば良いことを区別している点が良かった。 ・ パワーポイント資料を Google Classroom に Up しているということで、学生の復習につながる。 ・ 最後の小テストは、授業の理解度と出席者の確認の意味でも良い。 ・ 出席については、開始15分で一定の区切りをすると良い。 ・ スクリーンの一番下が教卓のためにスライドが見えにくいものや、サイドモニターでは画像や文字が小さいものがあり、配慮が必要なスライドがあった。			
授業参観教員数	2名		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	建築デザイン学科
授 業 者	山田 幸	科 目 名 (シラバス番号)	西洋建築史 (10039)
授業協力者	なし	実 施 教 室	9603
実 施 日 時	令和 5 年 7 月 7 日 金曜日 2 講時		
対 象 学 生	建築デザイン学科 1 年生		受講学生数： 35 名
教 授 法	講義形式		
授業テーマ 西洋建築史 古代から近世の建築史の振り返りと近代建築の始まり			
研究授業内容自己評価 西洋建築史の授業が近世まで終わり、様式主義建築から近代建築に移り変わる瞬間にあたりもう一度、西洋建築史の流れを振り返り、西洋建築史を、技術、社会情勢、文化、宗教の観点から、各時代の変換点になった出来事を中心に再確認した。 そのうえで、現代建築が成立する条件を抽出し、現代まで続く建築の歴史を学ぶための出発点となる授業を目指した。 古代から近代にいたる 2800 年間の歴史をスピーディーに読み進めることで、建築史を学ぶ意義を意識させようと思ったが、情報量が多すぎた。もう少し簡潔に話せばよかったと思った。			
研究授業参観者の意見・感想 ・ 前回の授業の理解度を穴埋め形式のテストで学生を指名して答えさせることで、授業への参加意欲と緊張感を持たせる工夫をされています。西洋建築史の古代から中世及び近世への流れを図を交えて丁寧に説明されている印象を持ちました。ギリシャやローマ時代の建築請式の変遷等を学生の興味を引く資料の工夫が見られました。 ・ スライドの文字はやや小さめですが、テキストの「西洋建築の歴史」を参照しながらなのでさほど問題ではないと思われます。前回から課題穴埋めのスライドは当初、文字が小さい印象でしたが、学生は手元に紙で確認できるので支障はない様子でした。 ・ 事業の最後に、本日の復習課題を配布されて次回までの宿題とされており、授業の継続性が保たれており、学生も授業中だけでなく復習に取り組む機会となるので効果的です。			
授業参観教員数	2 名 建築デザイン学科 笠井 敬正、上田 泰史		

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	児童学科
授 業 者	結城 栄子	科 目 名 (シラバス番号)	保育内容（表現）B (146141)
授業協力者	なし	実 施 教 室	14303
実 施 日 時	令和 5 年 6 月 30 日 金曜日 2 講時		
対 象 学 生	児童学科 2 年生		受講学生数： 28 名
教 授 法	模擬保育，研究協議，指導助言		
授業テーマ 幼児期の特性を踏まえて幼児の主体的な活動を促し，心身の調和のとれた発達の基礎を培う表現活動について学ぶ。模擬保育指導者役は，造形表現の基礎を養う指導者としての基礎的知識・技能を実践的に身につける。他の参加者は体験と協議をとおして，知識・技能を高める。			
研究授業内容自己評価 受講者 28 人をできるだけ均質に 4 グループをつくり，毎週 1 グループずつ模擬保育を行い，研究協議を実施してきた。その 3 回目となる。題材名『おさかな つろう』対象年齢 5 歳児。魚をつくって磁石付きのつり竿（わりばし）でつるごっこ遊び。つりリレーで遊び，つくったものに愛着を持たせる表現と遊びを組み合わせた活動である。 （学生の実態）学生は素直で真面目，礼儀正しい。「ありがとうございます」「お願いします」「この道具を使っていいですか」，当たり前のことではあるが，声に出して言える学生が多く，クラスの雰囲気を良くしている。さらに，男女を問わず仲が良く，協力して模擬保育の準備に取り組むことができる。観察していると，リーダー性のある学生複数名が，企画を牽引するだけでなくチームに生じる力関係を調整し，個々のよさを引き出すとともに協働の喜びが味わえるように配慮している。授業のねらいを達成するのが重要ではあるが，併せて豊かなコミュニケーション力を持ち協働できる組織人としての資質を向上させることができていると感じている。この授業準備に学生は約 1 ヶ月前から取りかかっている。保育所実習を 8 月に控えた学生は，最近になって，この授業の取組が実習中に個人で行う研究保育に直結していることを自覚するようになり，真剣さが増してきている。 （指導観）「幼稚園教育要領」及び「教育・保育要領」に示される 5 つの側面の中で，特に感性と創造性の育成に深く関わる《表現》の果たす役割は大きい。発達の特徴を理解し，適切な計画が作成できるよう指導してきた。どのような題材を扱ったとしても，子供たちが能動的に動ける場や時間，選択可能で自己決定することができる環境			

をつくることが大切である。本授業では、それが達成できたかどうか、毎回自己評価と他者評価を行いフィードバックしている。 （自己評価）今回のグループは教材を繰り返し試作し、幼児の扱いやすい描画材の選択や手順などをよく検討できていた。導入部分のアイスブレーキングや作業動線の確認など配慮の行き届いた計画だった。しかし、造形活動の基礎的な力の育成の視点からは、活動のイメージをより具体的にもたせる言葉かけが不十分だった。形や色など造形要素について、より具体的にイメージできるように形容詞や擬態語などで伝えること、それがグループ内で共有できていなかった。課題については最後に指導し、先行したグループに学び毎週、高まっていく集団であることを褒めた。事前指導が十分であれば、学生には成功体験を味わわせることができる。自己評価・他者評価「概ね満足・満足している」は高かった。参加者からの意見のように、ICTをもっと活用した授業をしたい。現在の教室はインターネット有線回線、WIFIが整備されていない。一人一台タブレットが全国の小学生に貸与されたことを思うと、学生にはタブレットを用いた授業スキルを身につけさせたい。	
研究授業参観者の意見・感想 ○大変よい雰囲気保育が進んでおり、いきいきした学生の表情や動きが印象的でした。これまでのご指導あつてのことと拝察します。保育に関しては知識がないため、このような場面でICTを活用するならどのように扱えるだろうかと考えてみました。例えば、作品を保育者や子どもが撮影しタブレット上で様々に加工しても面白いように感じました。 ○表現活動の説明をした先生役の学生の立ち位置が気になりました。作業がしやすく幼児から見やすい位置がよいでしょう。グループの先生役の7人はすべての幼児にアドバイスをしていた、かわり方がよいと感じました。幼児の目線になって話しかけていました。やさしくわかりやすい声かけでした。 ○学生たちの自主性・主体性が素晴らしい。保育実習でも頑張ってもらいたい。 ○振り返りの時間、全員が発表できていました。様々な視点、発想から豊かに意見が出ていて有意義だと感じました	
授業参観教員数	2名

研究授業（教員相互の授業参観）記録			
学 部	人間生活学部	学 科	心理学科
授 業 者		科 目 名 (シラバス番号)	心理的アセスメントⅠ (13716)
授業協力者	なし	実 施 教 室	9202
実 施 日 時	令和 5 年 7 月 6 日 木曜日 1 講時		
対 象 学 生	心理学科 2 年生		受講学生数： 49 名
教 授 法	講義形式		
授業テーマ 日本版 IFEELPictures -虐待の世代間伝達についての考察-			
研究授業内容自己評価 本授業は、公認心理師法に定める 5 つの専門領域の別に各領域を代表する施設において心理職が果たす役割及びそこでの具体的な事例に基づき、アセスメント（心理査定）の実際を学ぶことを意図している。前回授業では、児童相談所の紹介や KFD,田中ビネー V 等の心理検査を取り上げたが、本授業では、児童相談所で中核的な業務となっている虐待を取り上げ、虐待の動向、虐待の心理機制に係るこれまでの研究の流れを整理した。日本版 IFEELPictures は、乳幼児の顔写真を見てどのような情緒反応を示しているかを読み取る投影法検査であるが、虐待を行っている母親はその読み取りエラーが生じるとされていることを説明した。授業を終えて、内的作業モデルや赤ちゃん部屋のお化け、複雑性 PTSD 等の難解な用語をパワーポイントでの図表や動画を用いて、分かりやすく説明できたと自己評価している。			
研究授業参観者の意見・感想 ・書籍等ではあまり見かけない「IFEEL PICTURES」というオリジナルな教材にインパクトがありました。特に、授業者が学会等で入手した貴重な題材と資料を効果的に提示し、学生のみならず参観者にとっても大変興味深い内容でした。授業の進め方として、最初に授業の全体の流れを説明し本時の見通しを持たせていました。続いて、授業のねらいを提示したので、学生は本時の学びが明確になり、学ぶ意欲が高まったように思います。授業の中で、動画視聴がありましたが、内容も時間も効果的でした。動画の内容は、慶應義塾大学 濱田庸子先生の講義でしたが、授業者が丁寧に説明したことを濱田先生が端的にわかりやすく説明している内容であったため、学生の理解を一層促進させたように思います。また、動画視聴をすることで授業の流れに変化が出て、学生の集中力が再び喚起されるという効果もあったようです。配布資料も分かりやすく、適切で見やすかったです。 ・授業の内容について、周到で綿密な準備をしていることがよくわかる授業でした。受講生は授業を聴くだけでなく、配布されたハンドアウトを精読することで、授業内容を確認できるような配慮もなされていました。			
授業参観教員数	5 名		

第6章 教員活動状況

第1節 人間生活学科

個人情報

- 1.氏名：衣川 明美
- 2.職位：教授

教育領域

1.教育の担当専門領域

被服構成学、被服構成学実習、衣生活論、西洋服装史

2.授業担当科目

前期：大学・専門ゼミナールⅠ、衣生活論、被服構成学、
短大・生活科学論、衣生活論、ブライダルドレスメイクⅠ
後期：大学・専門ゼミナールⅡ、卒業研究

3.直接に研究指導した学部学生等

卒業論文（1）名、大学院生：修士（0）名

4.自己評価

- ① 卒業研究は、昨年、専門ゼミⅠ・Ⅱで被服分野の履修を終えた学生2名を指導。
ぎりぎりまで研究テーマが決まらない学生で1人は浴衣制作、1人はメンズのラグランコート制作をし、副論文を添えて簡潔となる予定であったが、残念ながら浴衣を制作した学生は論文という形にはならなかった。

卒業研究は、これまで高い研究意欲を持ちながら被服制作に取り組んだ者たちであるため経験を重ねることにより問題意識や考察が深化し、どの学生も強い達成感を得ているだけに、学生の卒業研究に対する意気込みが年々薄れているように感じる。しかしメンズのラグランコートを制作した学生はできるかな？と心配していたが最後の追い上げで完成することができた。手先も器用でしっかりポイントを押さえ、やればできる学生だと感じた。

学生もそれぞれで、学生に合わせた指導方法が今後必要になると感じる。

- ② 昨年同様、授業の中で何かファッションに関することで学生が興味を持つ課題を見つけないと今年度も思案していたところ、「OSAKA 手づくりフェア」が昨年度から今年度も続行となり9月9・10日にマイドーム大阪での開催が決定し、このフェアの中で西日本の服飾系大学、専門学校が参加する「リメイク&デコ・リメイクチャレンジコンテスト」も同時開催されることになり、兼ねてから何かの形で学生に発表の場を与えたいと考えていたのとマッチし、今年度も被服構成学の授業の課題としてグループ制作でチャレンジした。

結果として、学生はこれまでSDGsを基に、徳島県のゼロ・ウエスト運動をかわ

きりに色々な場面で学んでおり、衣服のリメイクを通し、衣服のあり方、価値観などを見出し、衣服に対する興味や制作意欲も増し、学生のチャレンジ精神が開花したように感じる。

- ・参加大学：神戸女子、武庫川女子、奈良女子、京都女子、神戸芸術工科、成安造形、四天王寺、徳島文理大学
- ・専門学校：大阪モード、上田安子、マロニエ、大阪文化、神戸ファッション、香蘭

自己評価として挙げるなら①と②が教育に対する目標であるが、②に関しては私自身後半、腰の骨を損傷し他の先生に指導をお願いすることになり残念な思いであった。

しかし、学生達はグループごとにSDGsを基にデコリメイクの衣装を完成してくれ、昨年同様、1グループが入賞作品にも選ばれた。

研究領域

- 1.もう一つの洋裁文化、手仕事文化の伝承
- 2.職人の暗黙知の継承
- 3.レプリカ制作におけるシルエットの再現手法
- 4.デザインにおける素材の適合性の検証

令和5年度分 研究業績一覧

- 1.論文・著書
執筆活動中、令和6年度出版予定（単著）
「もう一つの洋裁文化 ～紡ぐ～」（手仕事文化）
- 2.学会発表
なし
- 3.知的財産権の出願・取得状況
なし
- 4.令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
なし
- 5.自己評価

執筆中の「もう一つの洋裁文化」で、洋服が工場で作られていなかった時代を論じ語り継がれる「洋裁文化と日本のファッション」を振り返ると、これまで何十年も生きてきて、世の中というのは昨日と今日ではたいして動きがないように見えて案外すごい勢いで変化しているものだという確信に至った。流行の色やデザインは勿論のこと、例えばユニクロのフリース製品、少しさかのぼればインポートのあこがれの的になったDCブランドなど、もっとさかのぼれば「洋服を布から仕立てること」が庶民の生活の一部として必要不可欠な作業だった時代へと行きついた。これをかわきりに、明治から昭和に至る手仕事文化、職人の技を何も感じない、少しは感じているであろう、若者に伝承することが、洋裁経験50年以上を経た私の役目だと思い立ち、現在執筆活動中である。

近年、既製服に対する評価として「感性」「品質」「サイズ適合」以外の項目につ

いては不満足感をもち頻度が高くなっているようである。多くの人は既製服しか着用していないであろうし、若者に至っては、お誂えの服など着装したことがないであろう。体に合った服とはどのようなものか、また、どのようなテクニックで仕立てればよいのかなど、研究としては段々と面白くなってきた。

また、SDGs・リメイクなどという言葉が世界中に飛び交う中、ファッション業界では、どのような方向性を持たなければならないかなど、また次年度に向け完結したい。

大学内運営

活動報告 なし

社会貢献

1.学会等への貢献

日本家政学会四国支部会

ファッションビジネス学会

FMC（ファッション素材センター）副理事

京都工芸繊維大学伝統みらい教員研究センター 組紐・組物学会

沖縄県名護市明星保育園 理事

2.教育機関への貢献：なし

3.審議会等委員：なし

個人情報

1. 氏名：高橋 昌江
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：衛生・公衆衛生学、栄養学、生物学
2. 学部授業担当科目
 - ・大学院(博士前期課程)
前期：栄養化学特論 I
後期：栄養化学特論 II
 - ・助産学専攻科
前期：母子のための薬理学
 - ・人間生活学部
前期：専門ゼミナール I、応用生物学 A、公衆衛生学、食品衛生学、薬理概論
後期：専門ゼミナール II、衛生学、栄養学、食品学実験
 - ・保健福祉学部
前期：応用生物学 A
後期：生化学
 - ・短期大学部
後期：食品衛生学実験、食品学各論実験
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（ 0 ）名、その他（ 1 ）名
4. 自己評価
文科系の学生に理科系科目を教授しており、その理解度に一抔の不安を覚えているが、できるだけ平易な解説に努めている。

研究領域

1. 専門研究領域：皮膚生化学
2. 研究課題及び概要：表皮形成メカニズムに関する検討
3. 令和5年度分 研究業績一覧
【論文】なし
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価
研究活動と学生指導のバランスをとることが難しいが、学生指導に重点を置くことが重要と考えている。

大学内運営

1. 活動報告
入試問題の作成(生物基礎)および生物基礎責任者、人間生活学科2年生担任

社会貢献

1. 学会等への貢献：特になし
2. 地域社会への貢献：特になし

個人情報

1. 氏名：中谷 友机子
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：被服造形構成学、被服材料学、ファッションデザイン
ファッションビジネス
2. 学部授業担当科目
前期：被服構成学実習（2年生）、被服材料学、ブライダルドレスメイクⅠ（短大兼任）、文理学、専門ゼミナールⅠ
後期：被服構成学実習（3年生）、ブライダルドレスメイクⅡ（短大兼任）、ファッションデザイン（短大兼任）、ファッションビジネス論（4大短大合同）、専門ゼミナールⅡ、短期大学部生活科学科生活科学専攻卒業研究ドレス制作指導
3. 直接に研究指導した学部学生：6名（短期大学部生活科学科生活科学専攻、卒業研究ドレス制作のデザイン・パターン作成・縫製指導）
8名（人間生活学科3年生、専門ゼミナールⅠ・Ⅱ卒業研究（中谷ゼミ））

4. 自己評価（指導・工夫・反省）

今年度から着任させて頂き、1年生（担任）、講義・実習の履修学生とのコミュニケーションはスムーズに進行することができたが、前大学従事時期に教育指導していた学生の雰囲気とは差異が有った為に戸惑った。しかし、後期からは本学の学生基準を把握し、やり遂げない学生には何回もコンタクトをとり、現状も尚、指導をしている。

講義授業は、家庭科教諭内容と専門知識内容の教育指導が重要なことから、プリント配布のみの講義より、専門教科書と補足プリントでしっかりと学習指導をおこなった。

実習授業については、基本の理解、基本からの応用を重要視し、学生が自ら楽しんで実習（考案・制作）できるよう毎回実習改善を図りながら進めた。

- ① 講義授業「被服材料学」では、家庭科教諭内容以上の専門知識の教科書と補足プリントで教授する。また、理解を深めるために繊維材料で制作実験をおこない学生自身で制作して把握できるように指導工夫をおこなった。

講義授業「ファッションビジネス論」では、ファッションビジネス能力検定2・3級取得対策関連授業として、検定教科書に基づいて教授した。また、専門DVDやファッション企業の経験からまとめたプリントも含みながら学習指導をする。さらに、問題集や解答を入れながら検定取得対策に活かした。

講義履修生は、教科書の中からの試験問題、家庭科教諭内容、検定取得内容などで、まじめに受講する学生が多い。その為に、今後、わかりやすい補足プリントや学習指導が必要と考える。今後の授業内容の改善と工夫に努めていく。

- ② 実習授業「被服構成学実習」では、ミシンや縫製などの知識が浅い為、前に進めない学生と進める学生との差が大きく、進行が不ぞろいになった。この進行問題を改善できるように、今後、指導の向上に努めていく。
- ③ 短期大学部生活科学科生活科学専攻卒業研究ドレス制作のデザイン・パターン作成・

縫製指導をおこなった。立体裁断からのパターン作成は、技術が高度な為、学生には難度であったが、見事に制作し完成した。学生のやる気が段々と向上し、完成度の高い卒業研究制作になったと考える。

研究領域

1. 専門研究領域

- ① 「ファッション業界の流通・社会・流行・世代 ー需要と供給の関係ー」についての研究
- ② 徳島阿波藍染研究
- ③ ウールニードルフェルトアート研究

2. 研究課題及び概要（上記①②③の概要）

- ① 「ファッション業界の流通・社会・流行・世代 ー需要と供給の関係ー」中谷著作物についての改訂版を著作する準備（資料集め）段階である。
- ② 一般社団法人藍産業振興協会の染師7名の技法・技術の研究をおこなう。第1回目は11月に「藍たけのうち工房」の染師に訪問させて頂き、技法・技術、現在の状況について調査と分析をおこなった。今後、藍産業振興協会の染師、残り6名の調査と分析を継続していく。
- ③ 尾州産地のウール研究と活性化の為に、ウールニードルフェルトワークショップを開催（4月、11月）。産地ウール研究を含め活性化に取り組む。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

4. 知的財産権の出願・取得状況：現在はなし

5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし

6. 自己評価

研究課題及び概要①③については、これまでの研究を継続している。②の徳島阿波藍染研究については、徳島ならではの貴重で歴史的価値のある「阿波藍」（テーマ：すくも作りから JAPAN BLUE へ、その現状）について令和5年度から研究を進めていく。

大学内運営

1. 活動報告（委員会、担任等）

教育研究委員（図書申請総括担当）、就職支援委員、人間生活学科1年生担任

社会貢献

1. 学会等への貢献

- ・日本繊維消費科学会：「ファッション業界の職種と現状」をテーマに、ファッション企業の総轄責任者を招聘してセミナーを企画・進行をする。

2. 地域社会への貢献

- ・金城学院大学非常勤講師 授業：「ファッションビジネスの世界」
- ・デコリメイクチャレンジ展の学生制作指導

個人情報

- 1.氏名：寺奥 敦子
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：家庭科教育、食物学、教育実践
- 2.学部授業担当科目
前期：家庭科教育法Ⅰ・Ⅱ、調理学、食品学、調理学演習、専門ゼミナールⅠ、卒業研究、福祉科教育法
後期：家庭科教育法Ⅲ・Ⅳ、事前・事後指導、調理学実習、専門ゼミナールⅡ、卒業研究
- 3.直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名
- 4.自己評価
 - ①学生主体の授業展開に心がけ、思考力・判断力・表現力等の育成に努めた。「家庭科教育法」では、学外で本灰汁発酵建ての藍染めを体験的に学ぶ機会を設けたり、神山まるごと高等専門学校の学生との交流を通して実践的指導力の育成に努めたりした。
 - ②全国消費生活相談員協会関西支部長澤村美賀氏を招聘し消費者教育の充実を図った。
 - ③SPOD フォーラム 2023 やFD研修会を受講し、学生の意欲を高める授業設計や指導方法について見直しを行った。
 - ④「専門ゼミナールⅡ」では6名の学生を担当した。全員が個々に課題意識を持って主体的に研究に取り組み、卒業研究に向かう素地を育むことができた。
 - ⑤「調理学実習」では遊山箱ランチの計画と実施を通して、主体的・協働的な学びを行った。また、学生の提出物は毎回フィードバックし、双方向的な授業を心がけた。
 - ⑥「卒業研究」では、米菓子製造業者での聞き取り調査や神山まるごと高等専門学校での調理指導・交流など、地域に出向いて実践的な研究フィールドの開拓に努めた。

研究領域

- 1.専門研究領域：家庭科教育 教育実践
 - 2.研究テーマ：新学習指導要領を踏まえた中・高の実践的な家庭科教育の在り方
- 令和5年度分 研究業績一覧
- 1.論文
なし
 - 2.学会発表
なし
 - 3.知的財産権の出願・取得状況
なし
 - 4.令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
なし
- 5.自己評価

家庭科教育において育成を目指す資質・能力を育むための指導の在り方、指導と評価の一体化、小中高の系統性を踏まえた実践的な指導方法について研究した。生涯を見通す時間軸の視点と家族や地域の人々とのつながり、SDG sをはじめ持続可能な社会の構築などの空間軸の視点を踏まえた指導を重視した。また、成年年齢引き下げ、金融経済教育、消費者教育、伝統文化の継承など幅広い内容に対して課題意識を持ち、自分事として考え行動することの大切さを身につけた家庭科教員養成に取り組むことができた。

大学内運営

1.活動報告

人間生活学科3年担任 チューター生(4年5名 2年6名 1年7名)、入学試験委員会委員、教職課程委員会委員、教員養成推進委員会委員、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、高校巡回広報担当、フードスペシャリスト資格担当

- ①中高の家庭科教員を目指す学生の受験を支援した。本年度は愛媛県、香川県、大分県に各1名の述べ3名が現役合格した。出身地の自治体に就職できた。
- ②フードスペシャリスト資格取得者は1名だった。今年は受験者が4名と少なく対策講座への参加率も50%と低かった。11月から週2回、計12回の対策講座を時間外で実施し指導の充実を図った。
- ③3年生の担任として編入生3名を含む30名全員が目的意識を持ち学生生活が送れるよう努めた。山城祭では3年生が中心となって模擬店「カフェにんにん」を2日間運営するなど学生の主体的な活動の動機付けと後方支援を行った。
- ④消費者庁が主催する「海外大学等とのオンライン交流事業」(継続3年目)や「とくしま国際消費者フォーラム2023」に参加し学生の発表を指導した。
- ⑤学科独自の「家庭科教員採用試験合格報告会」や「就職試験・教員養成対策講座」を実施し、学生の目的意識の醸成とキャリア形成に努めた。

社会貢献

1.学会等への貢献

日本家政学会 日本家庭科教育学会

「日本家政学会家族関係部会第43回家族関係学セミナー」公開シンポジウムでの報告

2.地域社会への貢献

- ① 全国高等学校家庭科教育振興会顧問
- ② 令和5年度全国高等学校家庭科技術検定専門委員会指導助言
令和5年5月22日(火)・23日(水) 東京都
- ③ 徳島県中学校技術・家庭科研究会家庭分野アドバイザー
- ④ 徳島県立富岡東高等学校羽ノ浦校での看護科3年生への講義及び実習指導
令和5年11月22日(水)・11月24日(金)
- ⑤ 地域連携型出張講義プログラム 令和6年2月19日(月) 小松島西高等学校
- ⑥ (一財)徳島アグリクリエイティブ育英会奨学生選考委員
- ⑦ (公財)日本いけばな芸術協会特別会員、徳島県華道連盟役員

個人情報

- 1.氏名：池添 純子
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域： 地域居住学、住居学
- 2.授業担当科目
前期：生活と環境、コミュニティ・デザインⅠ、住居意匠学、生活空間論、総合科目
B（学生災害ボランティア入門）、専門ゼミナールⅠ、卒業研究
後期：住生活論（製図を含む）、生活文化論、コミュニティ・デザインⅡ、福祉住生活
論、家族関係学、専門ゼミナールⅡ、卒業研究
- 3.直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（5）名、専門ゼミⅡ（7）名
- 4.自己評価

今年度から3科目の新規科目があり、これまで以上に授業準備に時間を要した。各授業では、個々に調べたことをプレゼンテーションにまとめ発表する機会、自分の考えを自分の言葉でレポートにまとめる機会、学外フィールドワークや他の人と意見交換を行うワークショップなど体験する機会を設け、学生の主体的な学びを促した。

昨年度から、コミュニティ・デザイン系の学びを結び付けるツールとして上勝阿波晩茶づくりを行っているが、晩茶認知度調査の成果や学生が提案する地域文化の継承方法について、「2023 上勝阿波晩茶祭り(12月10日)」「阿波銀行セミナー：阿波晩茶の効能と魅力(2月11日)」等の地域イベントで成果を報告する機会を得ることができた。また、活動について、徳島新聞（8月10日）、読売新聞（8月26日）に掲載され、学生は社会的な価値を実感することができた。さらに、研究室で継続して実施している美波町由岐地区高齢者安心調査の取組みについても、徳島新聞（1月20日）に掲載され、社会的意義の高い活動を通して学生の教育を行うことができた。

研究領域

- 1.専門研究領域： 地域計画 農村計画
- 2.研究テーマ：・誰もが最期まで住み続けることができる地域環境の整備
・事前復興まちづくりにおける環境移行
- 3.令和5年度分 研究業績一覧

〈1〉 著書

- ① Junko IKEZOE, Community relocation plan for the huge Nankai Trough Earthquake, Community Relocation Disasters and Climate Change in Asia-Pacific Region (Edited by Suguru Mori), COPAL publishing, India, pp157-172, 2024 年3月出版予定
- ② 池添純子, 地域で暮らす高齢者の支援—介護サービス整備とエリア計画—, 地域居住とまちづくり 2(中山徹:編), 自治体研究社, pp12-18, 2024 年3月出版予定

〈2〉 学会発表

なし

- 4.知的財産権の出願・取得状況

なし

5.令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- ①科学研究費補助金：若手研究(B) 課題番号：17K12877 「超高齢社会における地域包括ケアシステムに適した日常生活圏域の在り方に関する研究」研究代表者
- ②科学研究費補助金：基盤研究(B) 課題番号：20H02318 「大災害・気候変動等によるコミュニティ移転の環境移行特性と持続的再定住の計画論」研究分担者
- ③令和5年度 徳島県 大学・地域連携課題解決フィールドワーク推進事業 「農山村の暮らし体験と地域文化の継承プログラム企画ー上勝町におけるローカルSDGsの実践ー」代表者

6.自己評価

科研（分担）の研究チームで約10年間実施した研究成果と、地域で暮らす高齢者の支援に関する約20年間の研究成果をまとめた著書の執筆機会をいただき、これまでの研究内容を振り返る1年となった。ただし、他の業務や著書の執筆に終われ、科研（代表）の調査研究は大幅に遅れており、ワークライフバランスも見直す必要がある。

大学内運営

活動報告

4年クラス担任、広報担当委員会、新入生セミナー運営委員会、遍路ウォーク委員、退学者防止対策検討委員会、1～4年生チューター、二級建築士受験資格関連事務担当、学科instagram担当・オープンキャンパス担当・学科チラシ発行等広報担当

社会貢献

1.学会等への貢献

日本都市計画学会 学術委員(査読取りまとめ7本)、日本建築学会 常議員(査読1本)、日本建築学会四国支部 研究発表会運営委員会委員、日本建築学会四国支部 男女共同参画推進委員、日本建築学会四国支部徳島支所 幹事、日本家政学会家族関係学部会 幹事（セミナー担当）

2.地域社会への貢献

- ① 海外大学等とのオンライン交流事業（消費者庁及び徳島県消費者政策課主催）
- ② 国際消費者フォーラム
- ③ 国有財産四国地方審議会委員
- ④ 環境省四国環境パートナーシップオフィス運営委員会委員
- ⑤ 徳島県屋外広告物審議会委員
- ⑥ 徳島県地方港湾審議会委員
- ⑦ 徳島県都市計画審議会委員
- ⑧ 徳島県入札監視委員会委員
- ⑨ 阿南市総合計画審議会委員
- ⑩ 徳島市景観審議会委員
- ⑪ 徳島市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画策定委員
- ⑫ 生活支援団体「美波のSORA」 顧問 等

個人情報

- 1.氏名：竹内 理恵
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：看護学 学校保健学 養護実践学 健康教育学
- 2.学部授業担当科目
前期：基礎看護学 看護技術（人間生活学科・心理学科） 保健科教育法Ⅰ 事前・事後指導（養護） 専門ゼミナールⅠ 卒業研究 学校ボランティア実践 養護学特講
後期：臨床看護学 基礎看護技術（人間生活学科・心理学科） 臨床看護実習 小児保健 教職実践演習 養護実践演習 専門ゼミナールⅡ 臨床看護実習の事務手続き全般
- 3.直接に研究指導した学部学生：卒論研究（5）名
- 4.自己評価

学生が主体的に授業に取り組めるように、ルーブリック評価を取り入れ、グループ活動や個人の発表等に対する他者評価並びに自己評価を実施した。また、予習のチェックや小テスト等を実施し、学生の自主的学習を促した。さらに、授業をきっかけに学生の学ぶ意欲を育てるために小論文を課題とし、学びへの関心を高め論理的思考力が身に付くようにした。

成果としては、学生の予習をする習慣は着実に付いてきたと考えている。また、学生が自己評価を確実にを行うように授業の中で自己の学びを振り返る機会を作り、全員が発表するようにした。課題とした小論文の完成度には差がみられたが、修正するための指導が十分できていないのでその点を改善したいと考えている。

臨床看護実習では、コロナ禍が続く中病院での実習の日数が減り、残りを大学で代替実習を行った。学生の看護技術を学ぶ場の確保に努めた。

研究領域

- 1.専門研究領域：学校保健学 養護実践学 看護学 健康教育学
- 2.研究課題及び概要
養護教諭には、多様化・複雑化した健康課題を解決する実践的能力が求められる。そこで、養護教諭養成における実践的能力の育成に関する研究と、現場の養護教諭と連携した健康課題を解決するための養護実践活動のあり方の研究をさらに進めていきたい。
- 3.令和5年度分 研究業績一覧
 - ・論文
なし
 - ・学会発表
なし
- 4.知的財産権の出願・取得状況

なし

5.令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

なし

6.自己評価

これまで大学の業務が非常に多く、研究に携わる時間を十分取ることができなかった。今年度はさらに学科長を拝命し、その業務の遂行に時間を取り、研究に取り組むゆとりがなかった。その中でこれまでグループで進めてきた「養護教諭が行う健康教育のあり方」について、研究成果を書籍にまとめる予定であり、その原稿作成を進めたいと考えている。

大学内運営

1.活動報告：教務委員会（学科長）、認証評価委員会、中期目標策定委員会、教員養成対策委員会、1～4年生チューター、全学共通教育センター学習支援アドバイザー、養護教諭免許取得のための臨床看護実習の運営及び事務手続き全般、保健室ボランティアの企画運営、養護教諭採用試験対策指導

2.保健室ボランティア活動の企画・運営

平成28年度より保健室ボランティア活動の企画・運営をしている。この3年間では令和3年度60回延べ115人、令和4年度54回延べ97人、令和5年度（前期）112回延べ194人の学生が活動に参加した。コロナ禍が落ち着いてきたので、各学校からの申込数が増えてきている。この体験により、学生は自分の養護教諭像を確かなものにし、今後の養護実習や採用試験に向けて意欲をもって学ぶ原動力となった。

3.養護教諭採用試験対策指導

教員養成対策講座における指導と個別の対策指導を実施した。また、1～3年生の意識の向上を図るために4年生から体験を伝える発表会を開催した。今年度は現役合格をした学生はいなかったが、これまで7年連続で現役合格の学生を輩出している。

4.臨床看護実習の運営及び事務手続き全般

これまで臨床看護実習の事務手続き全般（各病院との事前打合せ・依頼状等の作成発送等）と学生への事前指導を主に一人で行っている。しかし、17科目を担当した上で実施しているため非常に負担である。他の研究領域などの業務に支障が生じている状況であり、担当科目を減らすことや事務補助者を置くなどの改善を希望する。

社会貢献

1.学会等への貢献

日本養護教諭教育学会会員、日本学校保健学会会員、日本教育保健学会会員、日本健康相談活動学会会員

2.地域社会への貢献

- 1)出張講義：体験型「心とからだの健康づくりを一緒にかんがえようー9時に寝るチャレンジをしようー」阿波市立柿原小学校 令和5年6月16日（金）
- 2)出張講義：体験型「心とからだの健康づくりを一緒にかんがえようー夢や目標の実現の方法を一緒に見つけようー」小松島市立櫛渕小学校 令和6年2月4日（日）

第2節 食物栄養学科

個人情報

1. 氏名：石堂 一巳
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：生化学・医学
2. 学部授業担当科目
前期：健康管理概論・生化学Ⅱ・生化学実験・公衆栄養学演習
後期：生化学Ⅰ・臨床栄養学Ⅰ・病理学・食品衛生学演習
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、その他大学院学生（3）名
4. 自己評価：すべての学年の授業を担当しており、学科長として学生と保護者さまに対応している。特に保護者様に徳島Cに来ていただいた場合には、必ず同席して、対応に当たっている。

研究領域

1. 専門研究領域：生化学
2. 研究課題及び概要
 - ①「新規 NAD 合成酵素 QPRTase は、活性型カスパーゼ 3 結合分子として細胞の運命を決定する。」

QPRTase は NAD に新規合成の律速酵素として見つかったタンパク質である。しかしながら、細胞死実行因子である活性型カスパーゼ 3 と結合して、カスパーゼ 3 活性を制御している。カスパーゼ 3 は細胞周期が G2 期に入ると少量のカスパーゼ 3 が活性化して、核膜裏打ちタンパク質を分解する。その一方、カスパーゼ 3 が多量に活性化した場合には、アポトーシスが誘導される。この活性型カスパーゼ 3 の量的・時間的・空間的制御に QPRT タンパク質が関与していることを明らかにしている。
 - ②「カルシウム・ビタミン D およびビタミン B サプリメントによる骨強度指標の変化」

若年女性を対象としてカルシウム・ビタミン D サプリメントにビタミン B 群サプリメントを追加することにより音響的骨強度指標 (OSI)、広範囲超音波減衰係数 (BUA)、超音波伝達速度 (SOS) の変動を測定した。その結果、SOS の変化がまず起こり、それに続いて BUA が変化することが明らかになった。OSI は別の指標を含む二次パラメーターであるため、SOS や BUA の変化とは必ずしも一致しない。詳細に変化を検討したところ、SOS は骨サイクルに一致して変動しているのに対して BUA は季節の件かと一致して変動していることを明らかにした。現在、サプリメントを摂取しない被験者を対象として、BUA, SOS, OSI を測定している。
3. 令和5年度分 研究業績一覧
【論文】なし
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

ビタミンB 委員会奨学金：53,000 円

6. 自己評価

学科教員の入れ替わりがあったため、学科運営に専念している。そのため研究を行う状況にない。

大学内運営

1. 活動報告

- ・健康科学研究所所長
- ・食物栄養学科長
- ・徳島文理大学研究倫理審査委員会委員長
- ・徳島文理大学全学研究委員会委員
- ・人間生活学部組換え実験委員会委員長
- ・人間生活学部実験動物委員会委員長

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本病態プロテアーゼ学会理事・日本生化学会評議員・ビタミンB 研究委員会委員・
日本分子生物学会会員・日本人類遺伝学会会員・日本ビタミン学会会員・ASBMB
(American Society of Biochemistry and Molecular Biology) 会員

2. 地域社会への貢献

徳島県食の安心安全審議会委員

個人情報

1. 氏名： 犬伏 知子
2. 職位： 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品衛生学
2. 学部授業担当科目
 - ・人間生活学部
 - 前期：食品衛生学、公衆栄養学演習、公衆栄養学実習(2 クラス)
 - 後期：食品衛生学特論、食品衛生学演習、食品衛生学実習(2 クラス)
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒論生 1 名，卒論ゼミ生 10 名
4. 自己評価：

前期の公衆栄養学演習と後期の食品衛生学演習は国家試験科目であり、問題数もかなりあるので、集中してわかりやすく印象に残るように教育する必要がある。そこで過去の模擬試験内容や、国試の過去問を中心にプリントにして配布し、予習させ、授業中に当てて解説してもらった。公衆栄養学演習では、前期に終わっているので学生の希望により、冬休みに追加問題をクラスルームにアップし、勉強してもらった。

公衆栄養学実習では、国試に繋がる内容を増やし復習も取り入れた。前期、後期の食品衛生学、食品衛生学特論の授業では、單元ごとに小テストを行い、大切な内容はパワーポイントで示しながら、授業を進めた。その内容は、クラスルームにもアップし、復習を促した。

第 37 回国試の結果、公衆栄養学は正解率 62.5%であり昨年より下がり、食品衛生学は、食品学分野で正解率は 6 割を切っていた。問題の難易度にもよるが、もう少し 2 年生から集中して記憶に残る授業を心がける必要がある。

2024 年臨地実習の学生配属を、多くの先生方の意見を聞いて決めた。

研究領域、栄養

1. 栄養成分表示の適正化状況の調査
2. 足指筋力と身体組成、栄養素摂取量および食品群別摂取量の関連
3. 乳製品乳酸菌飲料摂取が睡眠の質および体格指標に及ぼす影響に関する検討

令和 5 年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

木内花梨，犬伏知子：加工食品の新基準表示適用の状況調査，日本家政学会誌，74 巻、第 5 号 pp.265～275 (2023)

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

自己評価：

「女子大生の足指筋力（利き足）に及ぼす栄養・身体活動指導の影響」の論文を、日本健康体力栄養学会誌に投稿した。採択されたとのことであるが、掲載については未定である。

「乳製品乳酸菌飲料（ヤクルト1000）摂取が睡眠の質や体格指標に及ぼす影響についての検討」の卒業論文を、論文として残せるように再度まとめ直す必要があるが、まだ手をつけていない。早くとりかかりまとめていこうと思う。

「加工食品の新基準表示適用の状況調査」については、時間がかかったが日本家政学会誌に掲載された。

大学内運営

1 活動報告

- ① アカサス会の副会長を担当（学園創立130周年記念 ホームカミングの計画会議を毎月行っている。）
- ② 自己点検・自己評価委員会委員
- ③ 就職支援委員(学部代表)
- ④ 入試問題作成委員（化学基礎）の主任担当
- ⑤ 臨地・校外実習の実習先開拓および実習計画担当
- ⑥ 3年生の担任
- ⑦ 1年から4年生21名のチューター担当
- ⑧ 香川県西讃ブロック進学説明会と愛媛県東予進学説明会に出席し学科紹介をした。
- ⑨ オープンキャンパス模擬授業担当，ミニオープンキャンパス担当，公募制推薦入試合格者のための学科紹介，施設見学担当，キャンパスライフ体験会において学科紹介，施設見学担当

社会貢献

1 学会等への貢献

日本栄養改善学会会員，日本栄養・食糧学会会員，日本ビタミン学会会員
日本家政学会会員，日本健康体力栄養学会会員

2 地域社会への貢献

- ① 徳島県食の安全安心審議会委員（R5.7月まで）
- ③ 徳島県危機管理部消費者くらし安全局安全衛生課の講師指導のもと、食物栄養学科2年生を食品表示ウオッチャーとして、市場の食品表示のチェックを行なってもらった。

個人情報

1. 氏名：坂井 堅太郎
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：基礎栄養学・応用栄養学
2. 学部授業担当科目
前期：基礎栄養学、応用栄養学Ⅱ、食品加工学、調理学演習
後期：基礎栄養学実習、応用栄養学Ⅰ、食品加工学特論、給食経営管理演習

3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文3年（4名）・4年（5名）

4. 自己評価：

担当した授業について、授業中に学生自らが授業の内容をまとめるプリントを配布し、学生が習得しなければならない知識について、体系的に身に付くよう工夫した。また、パワーポイントによる授業展開をすべての担当科目で取り入れ、受講学生の理解度を高める工夫をした。

研究領域

1. 専門研究領域：栄養生化学
2. 研究課題及び概要：

食物アレルギーの発症機構に関する栄養化学的研究：

アレルギーを引き起こしているヒスタミンが必須アミノ酸の一つであるヒスチジンから合成されていることに注目し、栄養生化学的な視点から栄養管理につなげていく研究を行っている。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

【学会発表】

- 1) 高糖質培養条件下における RBL-2H3 細胞 の脱顆粒の誘導に及ぼす影響：妻木陽子、坂井堅太郎、第77回日本栄養・食糧学会大会、2023年5月

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価

本年度は、授業コンテンツの作成と更新に追われた。次世代の授業環境を見据えて、教育・研究の整備を進めていきたい。

大学内運営

1. 活動報告

人間生活学部広報担当委員会・委員、災害時初期対応者

社会貢献

1. 学会等への貢献

- ①日本栄養・食糧学会 参与
- ②日本栄養改善学会 会員
- ③日本アミノ酸学会 会員

2. 地域社会への貢献：なし

個人情報

1. 氏名：増田 泰伸
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：解剖生理学、微生物学
2. 学部授業担当科目
前期：解剖生理学Ⅰ、運動生理学、食品加工学演習、免疫学（人間生活学科/心理学科）、解剖生理学（短期大学部食物学専攻）
後期：解剖生理学Ⅱ、微生物学、解剖生理学実験（2 クラス）、解剖生理学（音楽学部/人間生活学科/心理学科）、卒業研究
大学院
なし
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒論ゼミ生 5 名
4. 自己評価

すべての授業で、授業の内容やまとめ、確認テストおよびその回答を Google Classroom にて公開することにより、学生の復習

を促した。確認テストは管理栄養士の国試に類似した問題を取り入れ、早期から順応できるようにし、あわせて、学生の理解度を高めるべく問題解説をした。

前回の授業での重要なポイントを授業開始時に再度説明して、前回の授業内容のポイント想起を誘導した。また、授業開始時に今

日の授業の到達点を明示してから授業内容を開始することで、学生に本日のポイントを事前に意識させた。

解剖生理学の科目は、実験もあわせて体得し総合的に学んでもらうため、授業や実験でそれぞれのつながりを説明などに入れ

て、理解度を高める工夫をした。

研究領域

1. 専門研究領域：神経薬理学、食生活学
2. 研究課題及び概要
 - ①コリン、ビタミンが脳機能におよぼす影響に関する研究
 - ②カロテノイドの吸収におよぼす鶏卵成分の影響に関する研究
3. 令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文：

- 1) Kishimoto Y, Taguchi C, Iwashima T, Kobayashi T, Kikoku Y, Nishiyama H, Masuda Y and Kondo K: Effects of acute strawberry consumption on serum levels of vitamin C and folic acid, the antioxidant potential of LDL and blood glucose response: a randomized cross-over controlled trial. *J Nutr Sci*, 12, 2023, e39;

<http://doi.org/10.1017/jns.2022.117>

2. 学会発表：

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況：

なし

4. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

5. 自己評価：

本年度は、特に授業の充実に努めた。今後は、授業環境を見据えて、教育・研究を整備していきたい。

大学内運営

1. 活動報告

①入試委員

②2年生の担任

③1年生から4年生17名のチューター担当

④オープンキャンパス模擬授業（令和5年9月24日）

⑤保護者面談（令和5年8月19日）

⑥総合型選抜入試面接、推薦入試面接

社会貢献

1. 学会等への貢献

①日本栄養・食糧学会 参与

日本栄養・食糧学会中四国支部大会参加、参与会参加（令和5年10月21日～22日）

②日本機能性食品医用学会 評議員

③日本アレルギー学会 会員

④日本臨床栄養学会 会員

⑤徳島大学医学部非常勤講師として、医科栄養学科2年次生に講義（応用栄養学）

個人情報

1. 氏名：中川 利津代
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：公衆栄養学、公衆衛生学
2. 学部授業担当科目
前期：公衆栄養学Ⅰ、公衆衛生学Ⅰ、公衆衛生学実習、
公衆栄養臨地実習代替演習、文理学科
後期：公衆栄養学Ⅱ、公衆衛生学Ⅱ、公衆衛生学演習、文理学科
通年：ゼミ
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（8）名、大学院生：修士（）名
4. 自己評価
 - ・1年生の新入生オリエンテーションに関わり大学生生活のスタートをサポートした。
 - ・1年生から4年生までチューターとして学生20名をやる気アップと目標設定、タイムマネジメントを指導。
 - ・ゼミ生には、セルフコーチングができるように指導し、国家試験合格に向けサポートした。また、ゼミ室で勉強しやすいように環境を整えた。
 - ・公衆栄養学や公衆衛生学は、教科書を読んだだけではわかりにくい教科である。管理栄養士国家試験問題等を单元ごとに配布し、学習のポイントを示した。
 - ・第37回管理栄養士国家試験において社会と健康の分野の正答率がアップした。
 - ・解けるようになるまで繰り返し説明した。加えて個別で相談に来るように促した。
 - ・公衆衛生実習では、有意差検定や背理法まで統計学の基本を徹底して説明した。
 - ・臨地実習の巡視、臨地実習関係提出物の取りまとめ、公衆栄養学臨地実習の評価等
 - ・国家試験受験の宿泊ホテル等の手配
 - ・学生が考えた牟岐町産モリンガを使用したヘルシーメニューの開発。
学生は売れる商品づくり（マーケティング）や食品表示法、施策について学んだ。
活動を通じて、学生は学校で経験できない体験をした。地域貢献にやりがいを見出し、コミュニケーション能力がアップしたりとキャリアアップにつながった。

研究領域：

研究テーマ：地域貢献を主体とした研究

1. 牟岐町産もち麦やモリンガを使つての地域おこし事業への協力
2. 地域貢献事業を通じて得られる学生への教育効果

令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文
2. 学会発表
四国公衆衛生学会
演題：大学が産官学連携で地域貢献した食環境整備のケーススタディ
3. 知的財産権の出願・取得状況 1) なし
4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 補助金の名称：令和5年度県南地域づくりキャンパス事業
- 2) 委託元「四国の右下」若者創生協議会（事務局徳島県南部地域創生防災部＜美波＞ 地域振興担当）

自己評価：

1. 新聞社、テレビ局、FM局等マスコミから取材があり、産学官連携による地域貢献活動を広報することができた。
2. 徳島文理大学の名前を回数多く広報した。

大学内運営

- ・ 徳島文理大学における地域貢献事業として位置づけられている。
- ・ 牟岐町産もち麦を使つての地域おこし事業を徳島文理大学のホームページに掲載
- ・ オープンキャンパスで模擬授業
- ・ 出張オープンキャンパス in 沖縄模擬授業
- ・ University in 徳北で出前講座
- ・ 鳴門渦潮高校 大学見学で模擬授業
- ・ 牟岐町産もち麦を使つての地域おこし事業に興味を持ち、入学する学生が増えた。
- ・ 推薦入試面接、AO入試面接、I期A試験官等担当
- ・ 退学防止委員会の委員担当
- ・ 自主活動顧問

社会貢献

- ・ 牟岐町におけるモリンガを使つての地域おこし事業への協力、モリンガレシピの作成
- ・ 牟岐の農家・JAかいふ女性部・牟岐町・徳島県南部県民局と連携してもち麦とモリンガパウダー、モリンガ茶、ジュレ、ゆず茶の販路拡大
- ・ とくしまSDGsシンポジウム2023、とくしま国際消費者フォーラム2023（徳島県主催）
- ・ 徳島県食の博覧会（徳島県主催）
- ・ 牟岐町にぎわい産業祭（牟岐町観光協会主催）
- ・ もちっとむぎゅっとカフェ（徳島文理大学・牟岐町・JAかいふ女性部主催）
- ・ 令和5年度地域貢献活動リスタートフォーラム（とくしま産学官プラットフォーム・徳島県主催）
- ・ 牟岐町で活動する大学、学生・若者団体による活動事例発表会（牟岐町主催）
- ・ 徳島県民の健康指標や栄養状態と牟岐町産もち麦やモリンガの特徴を啓発・周知
- ・ 徳島県シルバー大学校大学院からの依頼で徳島県立防災センターにおいて「いつ起こるかわからない南海地震に備えて食糧備蓄を考える」と題し講演
- ・ 公益社団法人徳島県栄養士会の生涯教育において「研究発表ができる研究計画の立て方～学会発表を目指して～」と題し講演
- ・ 徳島大学医学部医科栄養学科 非常勤講師
- ・ 日本公衆衛生学会会員
- ・ 日本栄養改善学会会員
- ・ 日本運動体力栄養学会会員

個人情報

1. 氏名：小川 直子
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：栄養教育論
2. 学部授業担当科目

前期：食物栄養学科 3 年：栄養教育論Ⅱ、栄養教育論実習Ⅰ（2 クラス）、
食物栄養学科 4 年：給食運営臨地実習代替演習
保健福祉学部口腔保健学科 3 年：食生活指導論

後期：食物栄養学科 2 年：栄養教育論Ⅰ、
食物栄養学科 3 年：栄養教育論Ⅲ、栄養教育論実習Ⅱ（2 クラス）、
食物栄養学科 4 年：栄養教育論演習

3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 5 名（その他 7 名）

4. 自己評価：

授業内容については年々その年の学生に合わせ更新した教え方としているため、今年も学生の能力に合わせ工夫した。その結果、講義と連動した実習（栄養教育論実習Ⅰ、栄養教育論実習Ⅱ）においては、学生の発表内容や提出物などから、学生一人ひとりの能力をできるだけ引き出せたと感じ、教育者として大きな喜びを感じられた。また 4 年生の国試対策についても、今年も模擬試験結果では全国平均を上回る結果を出すことができた。さらに学生の質問内容からも、しっかり授業内容を理解してくれているのだと実感できた。

また今年も 5 名の卒業研究の指導、そして卒業論文を仕上げることにかなりの時間を割いたが、良い研究結果を得ることができ、卒業論文として完成した事もまた大きな喜びであった。卒業論文を仕上げるために費やした卒業生の大きな努力が、社会に出てからの大きな力となってくれることを願っている。

研究領域

1. 専門研究領域：栄養学および健康科学関連、栄養教育・栄養指導
2. 研究課題及び概要

- 1) 若年女性に対する隠れ肥満予防栄養教育プログラムの開発
- 2) 女子サッカー選手のパフォーマンス向上のための栄養教育について
- 3) 咀嚼が食行動や体格指標に及ぼす影響について
- 4) ヒトエグサの継続摂取による拡張期血圧の上昇抑制効果の可能性

3. 令和5年度分 研究業績一覧

【論文】

- 1) 小川直子、福浦 茜：毎食一口 30 回以上の咀嚼を 6 カ月間継続するプログラム実施後の成人における身体への影響, 日本食育学会誌, 第 17 号, 第 4 号, 171-177 (2023)

【研究発表】

- 1) 令和 5 年度 徳島文理大学 特色ある教育・研究全学発表会での発表（及び座長, 司会進行）

○研究発表テーマ「大学生のスポーツ選手に対する栄養教育マネジメント効果の検討」令和 5 年 9 月 14 日 13:00～16:30（2 号館 2 階アカンサススタジオ）

- 2) 令和 5 年度 徳島文理大学私立大学研究ブランディング事業報告会での発表

○研究発表テーマ「アオサノリ継続摂取による拡張期血圧上昇抑制効果の可能性」
令和 6 年 2 月 10 日（土）13:00～16:30 24 号館 201 教室

4. 知的財産権の出願・取得予定：なし

5. 令和 5 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

- 1) 科学研究費補助金：基盤研究 C 申請

6. 自己評価：

令和 5 年 1 月にスポーツ選手に対する栄養教育に関する研究成果が論文として学会誌に掲載されたことに続き, 10 月にも咀嚼に関する栄養教育の研究成果を学会誌に掲載することができた。さらに現在は女子サッカー選手に対する栄養教育の研究成果と, 若い女性の隠れ肥満改善の研究成果についても研究結果をまとめ論文化しているところである。今後は少しでも多くの人々の健康の維持増進に役立つ研究成果を英語論文として発表していく事を目的とする。そしてそのような研究成果を今後の授業や学生指導にも役立てたいと考える。

大学内運営

1. 活動報告：(委員) 徳島文理大学ハラスメント防止委員（全学の学部代表）

教育研究委員（人間生活学部）

(クラス担任) 食物栄養学科 2 年生担任, 1～4 年学生のチューター (21 名)

(その他) ・入試面接, 地方試験場（神戸会場）の監督業務, 共通テスト監督

- ・オープンキャンパス模擬授業, ・徳島県保護者会面談 アカンサス会本部役員,
- ・アカンサス会徳島県支部役員 ・アカンサス会沖縄県支部事務担当 等

社会貢献

1. 地域社会への貢献：日本栄養改善学会評議員

その他：日本栄養改善学会, 日本栄養・食糧学会, 日本食育学会, 日本食生活学会,
日本健康教育学会, 日本病態栄養学会, 日本スポーツ栄養学会, 日本小児栄養
研究会 に所属

個人情報

1. 氏名： 栗飯原 乙起（旧姓：中橋）
2. 職位： 講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学

2. 学部授業担当科目

前期：分子栄養学、食品機能学、応用栄養学Ⅱ¹⁾、臨床栄養学Ⅱ、
臨床栄養学臨地実習代替演習、臨床栄養学実習Ⅰ²⁾、文理学

後期：応用栄養学Ⅰ¹⁾、応用栄養学Ⅲ¹⁾、応用栄養学実習、
臨床栄養学演習²⁾

1) 坂井堅太郎先生と共同開講

2) 森川咲子先生と共同開講

通年：卒業研究

大学院 前期：分子栄養学特論Ⅰ、食物学特論実習
後期：分子栄養学特論Ⅱ、食物学特別演習
通年：特別研究

3. 直接に研究指導した学部学生等：（4年生1名、博士前期課程2年 1名）

去年度に坂井隆志先生の研究室に在籍していた学生が卒業論文を書き上げたいということで、論文作成指導を行い、「ヌクリング KO マウスにおける高脂肪食摂取による体重増加への影響の検討」というタイトルで卒業論文を作成することができた。博士前期課程2年の学生に対しては、「ラット精巣におけるビタミンD代謝関連遺伝子発現解析」をテーマとして研究指導および修士論文の作成指導をした。

4. 自己評価

講義においては国家試験を意識し、頻出の内容に関しては特に重点的に説明した。後期の応用栄養学実習では学生自身で体重・体組成の管理、食事内容の栄養価計算ができることを達成目標とした。各講義・実習において、ほぼすべての学生が達成目標に到達したと評価している。

研究領域

1. 専門研究領域： 栄養学 リン・カルシウム・ビタミンD代謝
2. 研究課題及び概要

【研究課題】 遺伝子発現解析を通じたビタミンD代謝の理解

【概要】

これまでに当研究室では、ビタミンD不活化酵素である CYP24A1 に着目し、ラット *Cyp24a1* 遺伝子の各種スプライシングバリエント体の mRNA 発現解析法、および全長

Cyp24a1 タンパク質発現解析法を確立することができた。今年度より、肝臓でビタミン D の 25 位を水酸化する酵素として知られている CYP2R1 に着目し、その発現解析を行った。その結果、ラット腎臓において、*Cyp2r1* mRNA が肝臓と同程度に発現していること、ラット精巣において Cyp2r1 タンパク質が肝臓および腎臓よりも高く発現していることなどを見出した。

3. 令和 5 年度分 研究業績一覧

【学会発表】

- 1) 「炎症時におけるリン・ビタミン D の役割と腎臓での代謝調節機構の解明」：山本浩範，中橋乙起，石黒真理子，増田真志，武田英二，岩野正之，岸慎治，竹谷豊．第 70 回日本栄養改善学会学術総会（名古屋）
- 2) 「ラット精巣におけるビタミン D 代謝関連遺伝子発現解析」：中西敦志，中橋乙起．第 70 回日本栄養改善学会学術総会（名古屋）

4. 知的財産権の出願・取得状況： なし

5. 令和 5 年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

科研費 2024 年度 基盤研究 (C) 申請中

6. 自己評価

今後も卒論生、大学院生と研究をすすめ、研究成果を学会で発表し、論文の作成をしていく。

大学内運営

入試問題作成（化学基礎）、1 年生担任、1～4 年生チューター

人間生活学部広報担当委員、新入生セミナー担当

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本栄養改善学会 会員
日本ビタミン学会 会員
日本分子生物学会 会員
日本栄養学教育学会 会員

2. 地域社会への貢献

○徳島県栄養士会 研究教育協議会 理事 組織・広報部

【主な活動】

- ・徳島県栄養士会だより編集
- ・徳島県栄養士会主催 栄養ワンダー2023 参加
7 月 29 日 徳島市シビックセンター
- ・令和 5 年研究教育・福祉栄養士協議会合同研修会 運営
12 月 16 日 四国大学

○全国健康保険協会 徳島支部との共同企画、「徳島文理大学・短期大学部考案！！健康レシピ」監修。

個人情報

1. 氏名： 森川 咲子
2. 職位： 講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 臨床栄養学
2. 学部授業担当科目
前期：臨床栄養活動論, 臨床栄養学実習Ⅰ, 総合演習Ⅰ
後期：臨床栄養管理論, 総合演習Ⅱ, 臨床栄養学演習, 栄養学, 臨床栄養学実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文（0）名、その他（4）名

4. 自己評価

前期・後期共に妊娠に伴う体調不良等で急な講義予定の変更等もあったが、学科の先生方に多大なお力添えをいただき、また、学生にも柔軟な対応を取っていただきながら、無事に講義を終えることができた。前期の臨床栄養学実習Ⅰでは栄養アセスメントや栄養介入について、栄養剤の試飲など体験学習させることを意識し、講義と連動させ理解できるよう努めた。後期は臨床栄養学実習Ⅱを担当し、各種交換表の活用を重視したカリキュラムにした。本実習は昨年度では個人作業を中心としたが、今回は班単位の活動としたため、学生が互いに教えあう機会となったと考えている。また、妊娠の影響で後期からは講義をスライド形式に変更したが（一部板書あり）、学生からの印象も良かったため継続していきたい。

昨年度から継続して担当した臨地・校外実習の指導では、前年度よりもコロナ禍の影響も減り、実習生らにとって管理栄養士の仕事についてより理解が深まったのではと感じている。一方で前回担当時（令和元年度）よりも個別対応が必要なケースが増え、また、実習先にご迷惑をおかけすることも度々あったため、次回担当時には班編成の工夫や事前指導の更なる充実化を計りたい。

研究領域

1. 小児生活習慣病の早期発見・早期予防に関する臨床疫学的研究
2. 2型糖尿病患者の生活習慣療法に関する臨床疫学的研究

令和5年度分 研究業績一覧

1.原著論文

- 1) Sakiko Yoshizawa Morikawa, Yasunaga Takeda, Kazuya Fujihara, Izumi Ikeda, Ayako Kobayashi, Mariko Hatta, Yurie Mitsuma, Chika Horikawa, Hajime Ishiguro, Takaho Yamada, Yohei Ogawa, Hirohito Sone. Associations among metabolic health, weight status, and various physical fitness components in Japanese adolescents: a cross-sectional study (NICE EVIDENCE study- Agano 3). Journal of Sports Sciences. 2023 Sep;41(13):1279-1289.

- 2) Izumi Ikeda, Kazuya Fujihara, Sakiko Yoshizawa Morikawa, Yasunaga Takeda, Hajime Ishiguro, Harada Mayuko Yamada, Chika Horikawa, Yasuhiro Matsubayashi, Takaho Yamada, Yohei Ogawa, Hirohito Sone. Association between screen time, including that for smartphones, and overweight/obesity among children in Japan: NICE EVIDENCE Study 4. Endocrine journal. 2023 (Accepted)

2. 令和4年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の交付状況：

生活習慣病治癒をめざすビッグデータ/AI 活用包括セルフケアシステム開発と効果検証、基盤研究B、採択、分担

若年女性の「やせ」に関連する要因の解明と「やせ」予防に関するエビデンス確立、基盤研究C、採択、分担

日本人糖尿病患者における環境因子と遺伝因子を考慮した食事療法のエビデンス構築、基盤研究C、採択、分担

3. 自己評価

妊娠悪阻と論文改定の時期が重なり厳しい状態であったが、無事に掲載受理していただくことができた。本年度は学会発表することができなかったため、復職後は年間最低1回は学会発表できるよう研究時間を増やしていきたい。

大学内運営

食物栄養学科4年生担任、各学年チューター、チーム医療促進委員会委員(管理栄養士)、オープンキャンパス模擬授業担当、新入生セミナー運営委員を務めた。

社会貢献

特になし。

個人情報

1. 氏名：吉村英悟
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：食品学
2. 学部授業担当科目

前期：食品加工学演習、食品学、食品学実験、文理学

後期：食品加工学実習、食品学実験Ⅱ、食品学特論

3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名、大学院生：修士（0）名

4. 自己評価：前年度問題点のあった個所を改善し授業内容を少し変更したり、できるだけモデルコアカリキュラムにそって授業を行うようにした。またできるだけ教科書等で記載が少ない食品の写真等をスライドに映し出しわかりやすく行った。普段の食生活につながるように食品の知識を深められるように授業を進めた。授業における学生の理解度の確認は小テストやレポートなどの課題で行ったが、不十分であったと感じた。次年度にはもう少し資料作りや学生の理解度の確認など授業運営の改善をしていきたいと考えている。

また座学や実験はなるべく管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラムや管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン）に準じるように工夫はしたつもりであるが、もう少し改善が必要と感じた。特に実験は、日本標準食品成分表につながるような実験内容とリンクするように改善をしていきたい。

研究領域：食品学

研究テーマ

たまねぎ・ごぼう等に含まれるイヌリンおよびイヌリン分解物の分析による検討

令和4年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書

論文なし

著書

なし

2. 学会発表

なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

なし

4. 令和2年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

なし

自己評価： 本学に入ってから初年度でであると言いつけないが、今後学会発表や論文作成等できるように研究を進めていきたい。

運営：

食物栄養学科3年生担任、各学年チューター、オープンキャンパス模擬授業、ライブ配信による「模擬授業」、保護者面談、総合選抜入試面接等、新入生セミナー、

社会貢献：

徳島県の連携事業

- 食品加工関連講座の開催に係る支援
- 「六次産業化研究施設」の活用

個人情報

1. 氏名：松本 萬寿美
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：給食経営管理、栄養教諭
2. 学部授業担当科目
前期：給食経営管理実習（3年2クラス）、給食経営管理Ⅱ（3年2クラス）
事前・事後指導（栄養教諭）（4年、短期大学部食物専攻2年）
給食経営管理臨地実習代替演習（4年）
栄養教育実習（4年4名）
後期：学校栄養指導論（3年、短期大学部食物専攻1年）
教職実践演習（栄養教諭）（4年、短期大学部食物専攻2年）
給食経営管理Ⅰ（2年） 給食経営管理演習（4年）
栄養教育実習（4年1名、3年1名、短期大学部食物専攻2年4名）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業研究（4名）
4. 自己評価：
 - ・前年度より授業編成を変更していただいた結果、2年生後期の『給食経営管理Ⅰ』講義において、次年3年生前期に行われる大量調理の『給食経営管理実習』の基本となる内容が徹底できた。
献立作成や作業工程、大量調理施設衛生管理マニュアルなどについて、より深く内容把握してもらう時間が取れ、スムーズな授業の流れを作ることができた。
 - ・大量調理の『給食経営管理実習』を行う施設において、大量調理施設衛生管理マニュアルに沿って、持ち込んではいけないダンボールや不必要な用具について夏休み中に大掃除した。
次年度に向け、よりスムーズな実習が行えるよう消耗品類の配置場所シール貼りや落下細菌防除作業など、衛生的にソフト面で出来る内容について実施することができた。
 - ・『事前・事後指導（栄養教諭）』では、教育実習に向かう学生に、実習中での児童・生徒や教職員との会話、臨機応変な対応の仕方、模擬授業でのチームティーチングのあり方など、栄養教諭という職種の意義や心構えについて、できるだけ詳しく解説し、意識の向上を図った。

研究領域

1. 専門研究領域：栄養教諭
2. 研究課題及び概要：将来を担う子どもたちの食育を推進する栄養教諭の育成

3. 令和2年度分 研究業績一覧：【論文】なし
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価：対面授業ではあったが、給食経営管理実習室では前年度同様にパーテーションを設置し、検温・消毒・マスク着用等を実施し、実習をスムーズに終えることができた。
：講義中はマスクを外さず、座席を広げ、学生たちの体調を聞きながら換気にも心掛けた。

大学内運営

1. 活動報告

- ①（委員） 人間生活学部教員養成推進委員会委員
徳島キャンパス教員養成対策委員会委員
全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ②（クラス担任）食物栄養学科3年生担任（51名）
3～4年学生のチューター（3年1名、4年4名）
- ③（その他） バレーボールサークル顧問

社会貢献

1. 学会等への貢献

なし

2. 地域社会への貢献

那賀町相生学校給食センター開設委員会 役員
全国学校栄養教諭・学校栄養職員研修会徳島県支部 料理講習会 講師

個人情報

1. 氏名：小原 由衣
2. 職位：助教

教育領域

1. 教育の担当専門領域：調理学
2. 学部授業担当科目
前期：調理学実習Ⅰ、食生活論、調理学演習
後期：調理学、調理学実習Ⅱ、調理学実験
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文4年（5）名、3年（5）名
4. 自己評価
 - ・調理学実習では、管理栄養士国家試験に出題される内容を、前後期繰り返し実習内で説明しながら実践することで、印象に残っている様子がレポートや実習中の発言から伺えた。また、実習を通して衛生意識に課題があると感じ、給食調理の動画をみせ、給食施設で実際におこなわれた衛生検査の結果等を、自分たちの調理実習の場面と絡めて例示した。その結果、その後のレポートにも衛生管理について触れる学生の人数が増えた。
 - ・講義に関しては、学生がイメージしやすく印象に残るように、写真や図等をスライドで示しながら授業をおこなった。

研究領域

1. 研究課題及び概要
ヒスチジン摂取量コントロールによる身体的変化について
2. 令和5年度分 研究業績一覧
【論文】なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
なし
4. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
なし
5. 自己評価
研究活動が疎かになってしまった。今後は論文作成に注力していきたい。

大学内運営

1. 活動報告

(担 任) 1年生担任、1～4年生チューター

(その他) 入試面接、オープンキャンパス模擬授業、大学見学模擬授業（室戸高校）

社会貢献

1. 学会等への貢献

なし

2. 地域社会への貢献

なし

個人情報

1. 氏名：前川 優樹
2. 職位：助教

教育領域

1. 教育の担当専門領域：調理学、栄養学
2. 学部授業担当科目：栄養教育論演習
後期：栄養教育論演習
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、その他（0）名
4. 自己評価：前期は調理学実習Ⅰの助手、後期は調理学実験および人間生活学科の調理学実習の助手、栄養教育論演習を担当した。実習では補助・個別指導が必要な学生に対応し、安全かつ円滑に実習を進めることができた。演習科目においては国家試験対策として、頻出箇所を重点的に講義した。

研究領域

1. 専門研究領域：食品機能学
2. 研究課題及び概要
ツタンカーメンエンドウの莢由来アントシアニンの生体抗酸化性の解明
3. 令和5年度分 研究業績一覧
【論文】
なし
【学会発表】
 - 1) 猿田優、前川優樹、近藤（比江森）美樹、紫カリフラワーに含まれる抗酸化成分の同定、日本農芸化学会 2023 年度広島大会、2023 年 3 月 14-17 日。
 - 2) 前川優樹、稲井千紘、稲木舞、近藤（比江森）美樹、ツタンカーメンエンドウの莢抽出物における生体抗酸化性、第 77 回日本栄養・食糧学会大会、2023 年 5 月 12-14 日。
 - 3) 近藤（比江森）美樹、山口真帆、春木優菜、前川優樹、新居美香、調理・加工によるフキの機能性成分の変化、第 77 回日本栄養・食糧学会大会、2023 年 5 月 12-14 日。
 - 4) 近藤（比江森）美樹、前川優樹、山口真帆、春木優菜、新居美香、調理・加工におけるフキのピロリジジナルカロイドの変化、第 70 回日本栄養改善学会学術総会、2023 年 9 月 1-3 日。
 - 5) 前川優樹、近藤（比江森）美樹、ツタンカーメンエンドウ莢の *in vitro* および *in vivo* における抗酸化性、第 56 回日本栄養・食糧学会中国・四国支部大会、2023 年 10 月 21-22 日。
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
科学研究費補助金（若手）；未利用資源である紫エンドウの莢が有する生体抗酸化性

の解析、代表（申請中）

6. 自己評価

今期は、研究成果を学会発表で公表することができたが、論文掲載には至らなかった。
次年度に論文を投稿する予定である。

大学内運営

1. 活動報告

4年生担任、2～4年生チューター、オープンキャンパス模擬授業

社会貢献

なし。

第3節 児童学科

個人情報

1. 氏名：河口 雅子
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：音楽科、音楽科教育法
2. 学部授業担当科目
前期：音楽A、音楽②、卒業研究
後期：音楽科教育法Ⅰ、音楽①、器楽①、専門ゼミナール、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：15名（卒業論文、卒業演奏、実技指導等）
4. 自己評価（工夫、反省）

学生自らが音楽科の特性や独自性を理解し、音楽の楽しさ、喜びや一体感を体感できるよう授業改善・実践に取り組んだ。毎時間終了後には、「フィードバックシート」で自己の振り返りと学びを確認させ、その内容を次時の授業に活かした。

- ① 授業では「基礎理論」「演習」「実技」の3構成に組み立て、「基礎理論」では音楽の基礎理論の理解するための手立てや、授業後半の確認活動で定着を図った。

また、「演習」「実技」では、音楽の感性を磨くという視点からアクティブ・ラーニング及びグループワークを中核として、楽曲の分析から曲想表現に結びつける等の内容構成を実施し、感性を高める授業の展開を図った。このことから、表現方法を体感でき、一体感を持った授業の展開が図れるようになった。子どもたちの発する声や表情、心が見える教師になってほしいという視点で授業を実践したが、自分を表現する楽しさや喜びを体感できる学生が増え、表現の真の意味の理解が図れるようになってきた。

- ② 採用試験に向けては学科の先生方の協力のもと、公立保育士、小学校教諭等に昨年度の引き続き30名以上の現役合格者を出し、学生の夢を叶えさせることができた。ゼミ生においては、1次対策、2次対策の面接指導、論文指導、実技指導等の対面指導以外に、各県の傾向に合わせた指導のためZoomを利用し、面接指導、模擬授業等の指導を実施し合格へと導くことができた。
- ③ コロナ禍で2年間中止となっていたゼミ主催による「児童学科ニューイヤーコンサート～きらり～」を昨年に引き続き開催することができた。児童学科の独自性を表現する内容をゼミ生一体となって企画に取り組んだ。3年生・4年生のゼミ生による各「オペレッタ」、ピアノ独奏、ソプラノ・メゾソプラノ二重唱、さらに、時宜の課題に対応した3・4年合同の合唱やダンスも表現できた。今年は男子有志の協力もあり、本来の児童学科の持つ全員が一体となった演奏ができた。また企画運営、練習においても大いなる成果を残せたと感じている。

研究領域

1. 専門研究領域

「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」

2. 研究課題及び概要

音楽にまつわる人の認識、思考や感情のメカニズムやプロセスから、旋律、リズム、響き、聴取という要素がいかに関わる中で普遍的認知過程を持ち、感情に繋がっていくかを一つひとつの領域で研究している。言葉や音が人の心の中で豊かな音楽に至るためには、感性を磨くことが重要と考える。こうした研究を基盤とし、幼児期から児童期に係る発達段階でどう感性を磨くか、子どもたちの学びをどう創造し、表現活動に結び付けていくか、こうした点について、様々な教材を収集・選択し、研究を深めてきた。合唱指導においては、合唱曲「百年後—ラビンドラナート・タゴールの三つの詩—」における歌詞・楽曲の分析から表現の創造等を研究し、表現による人間力の創造をテーマとした演奏を目指している。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

4. 知的財産権の出願・取得状況：特になし

5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし

6. 自己評価

「言葉・音を音楽にする感性へのアプローチ」「自己表現力の創造」をテーマとして、研究を続けているが、今までに実践・研究してきたものを纏めさらにテーマに結びつけていきたいと考えている。

大学内運営

1. 活動報告（委員会、担任等）

- ①児童学科長 ②教務委員会 ③教員養成対策委員会 ④中期目標策定委員会
- ⑤3年チューター（7名） ⑥4年チューター（8名）

社会貢献

1. 学会への貢献

中四国教育学会会員

2. 地域社会への貢献

徳島県教育振興審議会委員

- ・第1～3回徳島県教育振興審議会

教員の資質向上連絡協議会委員

芸術文化・文化遺産に関する事業（徳島県教育委員会）講師

第90回NHK全国学校音楽コンクール徳島県大会審査員

女声合唱団「V i v a c e みやび」指導者

- ・第64回徳島県合唱祭出演

- ・第76回全日本合唱コンクール徳島支部大会 金賞受賞

- ・第29回徳島県合唱アンサンブルコンテスト 金賞受賞

同上

ベストハーモニー賞受賞

個人情報

1. 氏名：三橋 謙一郎
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育方法、生徒指導、特別活動、保育方法
2. 学部授業担当科目
前期：初等教育方法論、生徒指導（進路指導）を含む、保育援助論、保育方法演習①
後期：教育方法論、教職概論、保育・教職実践演習（幼・小）保育方法演習②専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（ 7 ）名、その他（ 5 ）名
4. 自己評価
 - * 授業では具体的な実践例を取り上げながら、理論的な内容を分かりやすく説明するように心がけた。
 - * 授業での私語対策として、学生の反応に応じて説明の仕方を変える等の工夫に努めた。
 - * 教職科目の授業に関しては、教員採用試験との関連を考慮し、教材の精選に工夫を凝らした。

研究領域

1. 専門研究領域：教育学、教育方法学、幼児教育方法学、臨床教育学
2. 研究課題及び概要
 - ・教育的タクトのあり方に関する実証的研究：理論に支えられた教育的タクトのあり方を、現場の授業実践の参観＝分析に基づき、具体的・実践的に追求していく。
3. 令和5年度分 研究業績一覧
【論文】「学びに向かう力」を育てることと授業づくり・個・徳島文理大学研究紀要 107号・令和6年3月
4. 知的財産権の出願・取得状況：無し
5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：無し
6. 自己評価
 - ・広島県内、高知県内、徳島県内の現場の授業実践を中心に、授業の分析＝検討を行い、上述の検討課題を達成するために、研究成果を発刊することで一定の成果が得られたように思う。

大学内運営

1. 活動報告
 - ① 人間生活学専攻科長
 - ② 大学院人間生活学研究科児童学専攻主任
 - ③ 全学教職課程委員会委員長
 - ④ 全学教員養成対策委員会委員

- ⑤ 人間生活学部教員養成推進委員会委員長
- ⑥ 児童学科2年クラス担任
- ⑦ 児童学科Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ年チューター〔4年7名の卒業研究指導を含む〕(23名)
- ⑧ 大学院人間生活学研究科児童学専攻チューター〔博士前期課程1年2名・博士前期課程2年1名の修士論文指導を含む〕(3名)

社会貢献

1. 学会等への貢献

- ① 日本教育方法学会常任理事・紀要編集委員会委員
- ② 日本教育方法学会研究奨励賞審査委員会委員長
- ③ 日本特別活動学会理事・紀要編集委員会委員
- ④ 日本特別活動学会実践支援研究委員会委員
- ⑤ 現代学習集団授業研究会副会長
- ⑥ 中国四国私立大学教職課程研究連絡協議会代表委員
- ⑦ 中国四国保育士養成協議会幹事

2. 地域社会への貢献

- ① とくしま教員育成協議会委員
- ② 県・大学等連携による教職員研修講座講師

個人情報

1. 氏名：松本 有貴
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学、児童心理学、保育の心理学
2. 学部授業担当科目
前期：教育心理学、保育の心理学Ⅰ、一般心理学 A、児童教育相談演習Ⅰ、児童実践教育学特論Ⅰ、児童実践教育学演習Ⅱ
後期：児童心理学、子どもと家庭支援の心理学、専門ゼミナール、児童実践教育学特論Ⅱ、児童教育相談演習Ⅱ
3. 直接に指導した学生
学部学生：児童学科 1 年生 46 名・2 年生 45 名・3 年生 46 名・4 年生 4 名・ゼミ 4 年生 6 名・ゼミ 3 年生 5 名・保育科 13 名・総合政策学科 31 名・メディア科 1 名・心理学科 2 名・大学院学生：修士 3 名
4. 自己評価
一斉講義とともにグループ討論・課題やロールプレイを用いた演習を行い、学生の主体的学修を促進できた。評価は多視点による基準を設置して行うことができた。

研究領域

1. 専門研究領域：予防教育、ウェルビーイング教育、社会性と情動の学習 (SEL)
2. 研究課題
 - ① マインドフルネス子育て支援による保護者のメンタルヘルスの向上の研究
 - ② 教員・指導員による発達障害の不安への CBT を用いた支援の研究
 - ③ ウェルビーイング教育として感謝の介入教材を開発し効果検証
 - ④ オンラインによる子どもの社会性と情動の力を向上させる教育の開発と効果検証
 - ⑤ 就学前児童の社会性と情動の学習による経済格差減少の効果研究
 - ⑥ ソーシャルメディアの有効活用に資する社会情動スキルの特定研究
3. 令和 5 年度分 研究業績一覧
 1. 論文・著書
 - ① ちばエコチル調査つうしん 2023 年 9 月号千葉大学予防センター
 - ② ちばエコチル調査つうしん 2024 年 3 月号千葉大学予防センター
 - ③ レジリエンスを育てよう：子どもの問題を予防・軽減する YOU CAN DO IT! 新評論
 - ④ Yamamoto, T., Nishinaka, H., & Matsumoto, Y. (2023). Relationship between resilience, anxiety, and social support resources among Japanese

elementary school students, Social Sciences & Humanities Open, 7(1), 100458, <https://doi.org/10.1016/j.ssaho.2023.100458>.

- ⑤ Takizawa Y, Bambling M, Matsumoto Y, Ishimoto Y and Edirippulige S (2023) Effectiveness of universal school-based social emotional learning programs in promoting social-emotional skills, attitudes towards self and others, positive social behaviors, and improving emotional and conduct problems among Japanese children: a meta-analytic review. Front. Educ. 8:1228269. doi:10.3389/feduc.2023.1228269
- ⑥ Hosokawa, R., Matsumoto Y., et al. (2023). Evaluating the effectiveness of a social and emotional learning program among preschool children in Japan: an experimental cohort study. Child and Adolescent Psychiatry and Mental Health. 17; 93.
Doi.org/10.1186/s13034-023-00643-6.
- ⑦ Takizawa. Y., Ishimoto, Y., & Matsumoto, Y. (2023). Relationship between teacher and student psychological well-being in a Japanese context. International Journal of School & Educational Psychology.

2. 学会・研究会

- ① A Gratitude Writing Intervention with Japanese Children: Results of the Preliminary Trial. 2023 Child and Adolescent Mental Health Conference. Gold Coast Australia.
- ② 幼児期における社会情動的なスキルを育む Social and emotional learning の有効性の検証 第 70 回日本小児保健協会学術集会
- ③ 日本 SEL 研究第 14 回大会 基調講演司会・シンポジスト

3. 知的財産権の出願・取得状況 特になし

4. 令和 4 年度分 科学研究費補助金・各種助成金

- 科研基盤 (C) 18K02440 (H30・R1・2・3・4・5) 研究分担者
- 科研基盤 (C) 20K03406 (R2・3・4・5) 研究代表者
- 科研基盤 (C) 21K03104 (R3・4・5) 研究分担者
- 科研基盤 (B) 21H03263 (R3・4・5・6) 研究分担者
- 科研基盤 (B) 22H00993 (R4・5・6・7) 研究分担者
- 科研基盤 (C) 23K02905 (R3・4・5) 研究代表者

5. 自己評価

科研基盤研究の代表者として、また、分担者として計画した課題に取り組めた。

大学内運営

- ① 人間生活学部学生指導・支援委員会
- ② 全学共通教育センター学習支援アドバイザー

③徳島文理小学校スクールアドバイザー

④児童学科：1 年生担任、チューター（22 名）、学生指導・支援担当

社会貢献

① 日本 SEL 研究会副代表理事

② 日本教育心理学会ハラスメント防止委員会面接委員

③ 早稲田大学社会的養護研究所養育者支援連絡協議会メンバー

④ 大阪大学医学系研究科招へい教授

⑤ こども家庭庁「子ども・若者支援地域協議会及び子ども・若者総合相談センター整備機能向上事業」アドバイザー（徳島・茨城・広島などで講演した。）

⑥ 一般社団法人日本レジリエンス教育研修センター個人情報

個人情報

1. 氏名： 津守 美鈴
2. 職位： 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：国語科、国語科教育法
2. 学部授業担当科目
前期：国語科教育法Ⅰ、文学・文学A、児童文学、保育内容（言葉）A
後期：国語（書写を含む）、保育・教職実践演習、専門ゼミナール、保育内容（言葉）B
卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 専門ゼミナール（6名）、卒業論文（3名）
4. 自己評価

学科に配置されたタブレットを有効活用する方途を探ろうとしたが、環境等が整わず十分活用できたとは言えない。そのため、他の方法も用いながら学修者参加型を意識した授業づくりに努めたが、その分教材研究や授業準備等に追われた感があった。

全学の教員採用試験の講座については、ゼミ生だけでなく、小学校教員や保育士志望者、他学科の学生等に対し、できる限りの時間を使って面接練習や論文指導、模擬授業練習をするなどの指導・支援をした。また、学科独自の「対策講座」を、前期、夏休み期間中に企画・運営し、おかげで、多くの合格者を出すことにつながったと考える。

卒業論文指導については、以前には3年生からテーマの確定と章立てをさせたり、卒業研究に関してしっかりとしたイメージや意欲を持たせたりするため、4年生が3年生を対象として卒論中間及び最終発表会を実施してきたが、新型コロナが蔓延していた期間には状況を踏まえて実施を見送ってきた。本企画は意義があると考えられるので、今後工夫をしながら、再開実施できるように努めたい。

研究領域

1. 専門研究領域：教育方法、国語科教育
2. 研究課題及び概要

「主体的で対話的な深い学修のできる大学授業の可能性Ⅱ」

本学のいくつかの授業において、グループワークをできる限り導入し、協働・参加型の学修形態を試行してみるなど、実践的に可能性をさぐってきた。また、一人一台のタブレット等を用いてのグループワークを実施や、その効果の実践的な検証も行えるように試みようとした。本年度は、グループワークについては、学生の授業アンケート結果を見ても一定の成果があったかと思われるが、授業へのタブレット活用については残念ながらなかなかうまくいかず、これと言った成果は得られなかった。今後は、「深い学び」につながる「対話（話す・聞く）」において、「能動的に聴く」ことの研究のために、全国的な理論・実践研究会に参加させていただき、一層知見を深めてきたい。

3. 令和5年度分 研究業績一覧
4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし
6. 自己評価

例年のことではあるが、教育領域の自己評価にも記述したとおり、どうしても正課の授業や正課外の講座等、また、担任・チューター生への学生指導に費やす時間と労力が非常に大きいため、じっくりと研究に取り組むことが非常に困難な状況があると感じる。特に、本年度は、卒業に向けて各種採用試験に臨む4年生を担当しているため、進路の確実な確保のための指導に時間と労力を費やした感がある。

大学内運営

1. 活動報告
 - ① 児童学科4年主任76名、1年チューター5名、2年チューター2名、3年チューター6名、4年チューター9名
 - ② 人間生活学部入試委員長
 - ③ 入試作問委員
 - ④ 全学教員養成対策委員会委員

社会貢献

1. 学会等への貢献
 - 国語教育実践理論研究会（K Z R）会員
2. 地域社会への貢献
 - ① 徳島県子どもの読書活動推進協議会委員長
 - ② 徳島県令和5年度教科用図書選定審議会副委員長
 - ③ 令和5年度用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画・標語コンクール審査員
 - ④ 徳島県図書館サポーター養成講座講師
 - ⑤ 国立大学法人徳島大学総合科学部非常勤講師

個人情報

1. 氏名：藤村 正司
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育社会学、高等教育論、社会統計学
2. 学部授業担当科目
前期：教育原理（2 コマ）、教育史
後期：教育社会学、教育相談、教育原理、保育・教職実践演習、専門ゼミナール
大学院
前期：人間形成学特論Ⅰ
後期：人間形成学特論Ⅱ、児童教育学特論Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生：専門ゼミナール（2）名
4. 自己評価
 - 1) 学部の授業では、毎回、最初に前回の授業内容の復習を行い、最後に授業の概要を指定の用紙に記述させて学習内容の定着を図った。また、授業資料は毎回クラスルームにアップし、紙媒体でも配布した。前期の授業では PPF の説明で一方通行になりがちであったので、後期は話し合いなど集団学習の時間を設定した。
 - 2) 教職科目の授業に関しては、学術的内容に偏らないように実践面での応用と教員採用試験に対応した教材の精選に工夫した。
 - 3) 大学院の授業では、院生が 2 人と小数であることから、演習と討論を中心におこなった。反転学習など授業への積極的な参加を促した。

研究領域

1. 専門研究領域：教育社会学、高等教育論、社会統計学
2. 研究課題及び概要
科研費基盤(C)の採択課題「国立大学法人化の検証」（代表）は、1990 年代以降の欧米の高等教育改革が依拠した NPM に基づく国立大学法人化の検証を行うものである。資源配分の効率化や法人化第三期以後に導入された「成果連動型評価」が学内資源配分や教員の研究生産性にどのような影響をもたらしているのか否かを検証する。
3. 令和 5 年度分 研究業績一覧
【論文】
 - 1) 「翻弄される運営費交付金—成果連動型評価の曖昧な成果」『大学論集』第 57 集（査読有り）令和 6 年 3 月、17-34 頁。
 - 2) 「大学労働市場における女性教員の活躍推進と論文生産性—制度的環境としてのダイバーシティ—」『徳島文理大学紀要』第 107 号、令和 6 年 3 月、19-28 頁。
 - 3) 「大学のユニバーサル段階における短期大学の諸相(1)—短期大学教員調査 2023 から」『香川短期大学紀要』第 52 巻、1-20 頁。令和 6 年 3 月。（加野芳正・西本佳代と共論）

4. 学会発表：なし
5. 知的財産権の出願・取得状況：なし
6. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
 - 1) 科学研究費補助金基盤（C）23K02212 代表
 - 2) 科学研究費補助金基盤（B）20H01701 分担
 - 3) 科学研究費補助金挑戦的研究（萌芽）23K17611 分担

7. 自己評価

科学研究費基盤（C）では、国立大学法人の財務諸表によるパネルデータ分析一定の成果と大学及び重点支援単位の成果連動型評価の政策評価については『大学論集』、女性教員の研究生産性の制約条件については『徳島文理大学紀要』で刊行予定。

最終年度の科研費基盤（B）「高等教育のユニバーサルアクセス時代の短期大学における総合的研究」では、研究分担者として全国短期大学教員を対象に短期大学の役割と今後のあり方について教員の意識調査を実施し、915名の有効回答数を得た。その分析結果の一部を『香川短期大学紀要』として共同刊行できた。

本学に着任して一年目で初めて担当する授業科目もあったが、論文を3本刊行できたことは一定の評価はできる。

大学内運営

1. 活動報告

- 1) 教育研究委員会委員
- 2) 自己点検・自己評価委員会委員長
- 3) 児童学科4年(74名)クラス担任
- 4) 児童学科1・2・3・4年チューター（16名）

社会貢献

1. 学会等への貢献

- 1) 日本教育社会学会会員 学会賞選考委員
- 2) 日本教育学会会員
- 3) 日本高等教育学会会員
- 4) 数理社会学会会員

2. 地域社会への貢献

「読売新聞」2023年11月26日付朝刊「国立大学の地元定員枠拡大」コメント

個人情報

- 1.氏名：岡山 千賀子
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：児童学・子育て支援・レクリエーション
- 2.学部授業担当科目
前期：児童学原論、レクリエーション活動援助法Ⅰ、レクリエーション論、家庭科教育法Ⅰ、レクリエーション概論、レクリエーション実技①、レクリエーション実技②総合科目A（ボランティア）、文理学
後期：家庭、子育て支援、レクリエーション活動援助法Ⅱ、レクリエーション実技・レクリエーション概論、社会教育実習、専門ゼミナール、文理学、スポーツ・レクリエーション特講（集中）
大学院：後期：児童教育相談演習Ⅱ
- 3.直接に研究指導した学部学生： その他（0）名
- 4.自己評価
＊学生指導：1年生学年主任として教育に尽力した。
＊就職対策：4年生7名に就職指導を行った。
＊採用試験対策：過去の試験問題や実技について適宜授業内で紹介し、教科では、実際の試験問題に取り組む時間を設定した。保育・教育対策講座（3・4年生対象）を担当した。
＊授業実践：実践力を身に付けるために、積極的にボランティア活動を推進した。事例解釈や実技を授業に取り入れたり、保育現場への見学・実践等を取り入れたりした。総合科目A（ボランティア）では、106名の学生に指導した。
＊最新の情報と資料を準備し、適宜ビデオやメディアを取り入れた。
＊アクティブ・ラーニング：自著した「講義ノート」を活用し、その中で古文や新聞記事などを取り入れ、学生に自ら取り組み、考える力を付けるよう努力した。
＊レクリエーション公認資格課程認定校講座担当として、資格取得申請に関する指導をした。「スポーツ・レクリエーション指導者」資格課程の指導を行った。（令和5年度は、31名の学生が受講した。）

研究領域

- 1.専門研究領域：社会科学分野・児童学・家族領域
- 2.研究課題及び概要；
「子育て支援員の保育者効力感に関する研究」継続。子育て支援員の保育者効力感を上げるための課題に取り組む。
レクリエーション・インストラクター資格・スポーツ・レクリエーション指導者資格者に必要な技術と知識に関する研究。
- 3.令和5年度分 研究業績一覧
【著書】レクリエーション教育モデル・コア・カリキュラム、3講座執筆

スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト、第6章執筆

4.自己評価（成果、反省）

日本レクリエーション協会理事。日本レクリエーション協会からの依頼で講習会および全国公認資格認定委員の活動に取り組んだ。

第77回全国レクリエーション大会2023in とくしまの実行委員長を務めた。

5.学位取得：博士（学術）甲11号

大学内運営

1.活動報告

- ①県内外高校へ出張講義・遠隔授業
- ②保護者会担当・ボランティア推進係（学科内）
- ③児童学科1年生学年主任・担任46名、児童学科1年チューター7名・
2年チューター3名・3年チューター6名・4年チューター7名
- ④学内ボランティア担当

社会貢献

1.学会等への貢献:

- ①日本レクリエーション協会理事・同協会公認指導者資格課程認定校連絡協議会 全国幹事長・同協会全国公認資格認定委員
- ②徳島県レクリエーション協会会長、(レクリエーション・コーディネーター)
- ③日本消費者教育学会会員（中・四国支部役員）
- ④日本家政学会中国・四国支部機関幹事

2.地域社会への貢献：

- ①徳島県教育委員会生涯学習政策課、「学校を核とした地域の教育力強化推進委員会」、委員長
- ②徳島県教育委員会生涯学習政策課、「放課後児童健全育成委員会」、委員長
- ③徳島県県民環境部「徳島県放課後子ども総合プラン推進委員会」委員長
- ④徳島県県民環境部人権教育啓発推進委員
- ⑤徳島県県民環境部「子どもの事故防止委員会」委員
- ⑥徳島県スポーツミッション推進委員
- ⑦徳島県スポーツ王国とくしま推進会議委員
- ⑧徳島県あいらんど推進協議会理事
- ⑨徳島県スポーツ協会理事
- ⑩徳島市まちづくり総合ビジョン策定市民会議委員
- ⑪小松島市みなとまちづくり計画検討会議委員
- ⑫徳島市身体障害者連合会理事
- ⑬徳島市パラスポーツ講習会コーディネーター
- ⑭徳島県あすたむらんど徳島外部有識者委員会委員
- ⑮NPO 法人徳島県レクリエーション協会、公認指導者（徳島県シルバー大学院講座講師）
- ⑯徳島県立総合大学校まなびーあ登録講師

- ⑰徳島県保健福祉部長寿こども政策局、「子育て応援の匠」
- ⑱徳島県ワークライフ実行委員会委員
- ⑲社会福祉法人 ハート福祉会評議員
- ⑳社会福祉法人 悠林舎 福祉サービス評価機関評価委員
- ㉑徳島県障害者相談員
- ㉒レクリエーション・コーディネーターネットワーク全国理事
- * その他、県・市町村における子育て支援、放課後児童健全育成指導等に関する講演会活動など

個人情報

1. 氏名： 川端 恵子
2. 職位： 准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 幼児教育
2. 学部授業担当科目
前期：保育内容（環境）A、保育内容（人間関係）A、事前・事後指導①
児童文化、保育実習指導Ⅱ
後期：保育内容（環境）B、保育内容（人間関係）B、専門ゼミナール、事前・事後指導②、保育・教職実践演習
3. 直接に研究指導した学部学生：9名
4. 自己評価
 - ・ 保育内容の指導において「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の記載内容がしっかりと理解できるように留意するとともに、幼児期の特性や小学校以降の学び方との違いについての理解や認識が深まるように努力した。
 - ・ 学生の理解度を考慮したり応答的に授業を進めたりすることに配慮した。また、授業後の学びや感想、ワーク等の提出物により理解が不十分だと感じた内容については再度振り返り説明を加えるなどして確実な学びとなるように配慮した。
 - ・ ビデオ・スライドなどを活用し視覚を通して学ぶことや、グループで学習し発表する機会を設けることで、楽しくよくわかる授業を目指した。
 - ・ 幼稚園の現場での経験を生かし、実際の幼児の姿や事例を多く取り入れ理論と関連付けた授業を展開することに努めた。学生が実習で経験したことを事例に仕上げ、考察を基に、学生主体でディスカッションのした経験は大変有意義であったと考えている。
 - ・ 特に、4年生の授業では実践的な内容を中心とし、保育現場で応用できるよう配慮するとともに、保育の現場で求められる保育者としての資質を高めることに意識をおいて授業内容や演習内容に留意した。模擬保育の後、現場で行われているような協議会の形式を模擬的に取り入れて学んだ。
 - ・ 理論面においては新たに学ぶことや研究すべき事項も多々あった。教材研究は私自身の向上につながったと考える。

研究領域

1. 専門研究領域：保育内容
2. 研究課題及び概要
 - ①「幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて」

近年の生活環境の変化が、子どもの成長・発達においてどのように影響を及ぼしているかについて研究を深めていきたい。とりわけ、道徳性・規範意識等が培われることについては、担当科目の保育内容（人間関係）と重なり興味深く感じている部

分であり、今後も研究を深めたい。

- ②「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」等について理解を深め、各幼児教育施設での教育・保育の在り方について引き続き研究していきたい。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

4. 知的財産権の出願・取得状況： なし

5. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況： なし

6. 自己評価

幼児期における道徳性・規範意識の芽生えについて、著名な研究者の考えを参考にしながら私自身の実践を基にした理論を深め、学生への指導に生かしていきたい。「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が定着しつつある中、保育の現場では幼児に対しての虐待や事故のニュースも耳にしている。このことを踏まえ、質の高い保育ができる保育者を育成すること、使命感や情熱のある保育者の育成に特に力を入れて授業に臨むことができたと感じている。

大学内運営

1. 活動報告

- ① オープンキャンパス担当
- ② 児童学科2年生学年主任
- ③ 1年チューター5名、2年チューター2名、3年チューター6名、4年チューター9名
- ④ 幼・保採用試験対策へのサポート

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本保育学会会員

2. 地域社会への貢献

- ① 徳島県幼児教育推進体制構築事業調査研究実行委員
- ② 徳島県保育・幼児教育スーパーバイザー
- ③ 徳島県幼稚園等新規採用教諭研修会委員
- ④ 令和5年度徳島県就学前人権教育研究大会指導助言（10/27）
- ⑤ 令和5年度徳島県幼稚園教育研究協議会板野郡大会講師（11/8）
- ⑥ 令和5年度幼稚園教諭免許法認定講座講師（8/5）
- ⑦ 保育士試験（言語）審査員（6月・12月）

個人情報

- 1 氏名：土岡 大介
- 2 職位：准教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：健康・スポーツ，スポーツ科学，運動方法，幼・児童体育
- 2 学部授業担当科目
前期：体育②（児童 3AB）健康スポーツ A（建築 1, 心理 1B, 食物栄養 1B, メディア 1, 児童 1B），児童保健学特論Ⅱ
後期：健康スポーツ B（理学療法 1B, 食物栄養 1A, 総合政策 1A, 総合政策 1B, 口腔保健 1, 人間福祉 1, 保育 1），児童保健学特論Ⅰ
- 3 直接に研究指導した学部学生
- 4 自己評価

年間を通じて対面授業となり，実技については換気など感染対策をしながら従来通りに実施することができた．授業ではこれまで通り運動不足な生活状況を想定し，ケガや体調不良者が出ないように強く配慮すると共に，運動強度や活動時間を調整しつつ，時間をかけて到達目標へと導くように内容を工夫・調整した．授業内でもコンディショニングにかける時間を確保し，日常生活の中においても習慣化できるよう安全に実施できるストレッチや簡単なトレーニングの内容を随時紹介しながら，継続的にコンディショニングに取り組んでもらうことによって，徐々に運動不足の解消に繋げていく取り組みを続けている．今年は特にスポーツを通じて他者との積極的な関わりもつことを苦手とする学生が多く，その導きに苦慮する場面も多々あった．遅刻や欠席数も多い中，今後も授業課題として様々なスタートモデルの作成を更に進めていきたいと考える．

研究領域

- 1 専門研究領域
健康・スポーツ科学，運動方法学（バレーボール），指導者養成
- 2 研究課題及び概要：
 - ・幼児を対象とした体力・運動能力の向上に関する研究（継続）
 - ・バレーボール競技力向上・公的資格を持つ指導者育成に関する研究（継続）
 - ・バレーボール競技人口の拡大・普及発展に関する研究（継続）
- 3 令和5年度分 研究業績一覧
 - ・「第26回全国ヤングクラブバレーボール優勝大会パンフレット」，製作編集責任者，日本バレーボール協会，同指導普及委員会，フルカラー全64ページ，2023.9
- 4 知的財産権の出願・取得状況
- 5 自己評価

今年も継続してスポーツ庁，JOC，JSP0 正加盟の中央競技団体である公益財団法人日本バレーボール協会の指導普及委員会副主事として，他の中央競技団体や各都道府県バレーボール協会とも連携し，公認指導者資格を持つ指導者の育成に努めている．スポーツを取り巻く環境も少しずつ従来の活動に戻り，全国のスポーツ活動や大会，研修・講習会を含め，新たな実施・開催様式を模索しながら効率的な再開に向けての努力が続いている．現在もスポーツ分野に関連した講演・講習会など，引き続き開催しており，対面・集合研修の方式で実施することができた．遠隔配信形式による講習会などを企画・運営する体制も

徐々にまとまった体制となり、公的なスポーツ指導者資格を認定することができた。今後も JSP0 日本スポーツ協会とも連携し、その質的保証についての議論を継続していく。また、他の中央競技団体とも連携を深めながら、遠隔・対面の両輪での講習会内容の充実を図っていききたい。また、今後も継続して専門的な知識・指導方法を身につけた指導者の育成を進めると共に、指導者を育成・指導する資格である「公認講師」資格取得者の増員を進めていきたいと考える。

大学内運営

1 活動報告

- ・教員採用試験対策講座担当(体育実技)
- ・全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- ・防火・防災管理委員会委員 7 号館責任者, 6 号館 AED 管理責任者
- ・大学院人間生活学研究科児童学専攻入試問題作成
- ・大学院児童学専攻科修士論文副査
- ・スポーツ推薦入試・高校訪問担当, 入試面接担当
- ・附属幼稚園特設保育体育あそび教室講師(平成 15 年より毎年約 35 回実施)
- ・男女バレーボール部部長, 女子バレーボール部監督, 週 5～6 日指導
- ・女子バレーボール部の公式戦(県, 四国, 中国四国, 西日本)遠征合宿引率
- ・バレーボール強化練習会・合宿の受入, スポーツ OC の実施
- ・6 号館体育館の使用申請責任者・管理業務, 火元責任者
- ・8 号館トレーニングセンターでのトレーニング指導, トレーニングマシン管理
- ・体育科カリキュラム作成に関わる業務・用品申請管理
- ・体育館 2 階フロア改装計画担当
- ・大学入学共通テスト試験主任監督
- ・学内体育設備管理 等

社会活動

1 地域社会への貢献

- ・徳島県国際スポーツ局スポーツ振興課 競技力向上プロジェクト推進委員
- ・徳島県あわスポーツ医科学強化プロジェクト推進委員
- ・公益財団法人 日本バレーボール協会 国内事業本部指導普及委員会副主事
- ・公益財団法人 日本バレーボール協会 公認講師認定審査員
- ・JSP0 日本スポーツ協会 公認コーチ実技認定審査員(バレーボール専門科目)
- ・JSP0 日本スポーツ協会 公認コーチ理論筆記試験作成(バレーボール専門科目)
- ・日本ヤングクラブバレーボール連盟理事, 事務局
- ・第 26 回全国ヤングバレーボールクラブ優勝大会副委員長 運営開催統括参加者 2140 名
- ・全日本大学バレーボール連盟女子強化委員
- ・西日本大学バレーボール学連女子選抜対抗戦, 四国選抜女子チームコーチ
- ・第 78 回国民体育大会バレーボール成年女子競技, 徳島県指導スタッフ
- ・四国大学バレーボール連盟副会長
- ・四国地区大学体育連盟理事
- ・四国大学総合体育大会実施委員会委員

- ・徳島県バレーボール協会参与，一貫指導体制推進委員
- ・徳島県大学バレーボール連盟会長
- ・国立大学法人 徳島大学 教養教育院（非常勤）

個人情報

1. 氏名：林 向達
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報教育、教育学
2. 学部授業担当科目
前期：教育方法・技術論、情報処理、保育原理
後期：保育原理、専門ゼミナール

3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 0 名、その他 7 名

4. 自己評価：

講義は、クラウド上の授業支援システムを常用する形で進行した。情報系講義は、情報機器の演習を交えながらコンピュータの基礎的な理解を深めることを目指した。教育方法・技術論では、生成 AI の登場によってもたらされるメリット・デメリットをいち早く体験しながら学ぶ取り組みをした。単なる検索・情報取得の道具ではなく、言語によって応答するコンピューティングの可能性に触れてもらうことができた。保育原理では、子ども家庭庁の新設によって、保育制度の枠組みに大きな変化が生じていることを紹介するとともに、今後、保育の質的な評価への意識がより強くなっていることを理解してもらえるように講義を見直したりもした。

研究領域

1. 専門研究領域：教育工学、教育情報化史、教育課程論
2. 研究課題及び概要：デジタル教材開発、教育と情報の歴史資料収集と整理
3. 令和 5 年度分 研究業績一覧

【論文】

- ①AI リテラシーのカリキュラム（「学習情報研究」2023 年 9 月号（294），pp. 32-35, 2023 年 8 月）
- ②教育における生成 AI の利用に向けて・これまでの経緯（「視聴覚教育」2023 年 12 月号（914），pp. 14-18, 2023 年 12 月）

【発表】

- ①日本の教育 DX 動向 -GIGA スクール構想とその後-（2023 年度 147 回 韓国日本教育学会 年次学術大会 2023 年 11 月 18 日）

【書籍】

- ①学びを育む 教育の方法・技術と ICT 活用 ～教育工学と教育心理学のコラボレーション（担当：分担執筆範囲：14 章 プログラミングを視座とする思考力の育成を考える，北大路書房 2023 年 12 月 29 日）

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし
5. 令和 5 年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価：

2022 年末に登場した会話型生成 AI サービスに世間の注目が集まり、教育分野での利用に関しても情報が求められるようになった。これに応える形で、AI に関わる論稿の執筆に取り組んだ年であった。また、GIGA スクール構想に関して新たな段階に入るにあたって、そもそもの経緯を確認するための発表を韓国の関係者に向けて行なった。また、教科書執筆に参加し、プログラミング教育に関する解説にも取り組んだ。2023 年度は全般として AI 技術を踏まえた教育の情報化・教育 DX に関しての理解を深めることができた。

大学内運営

1. 活動報告

①学科広報動画担当

社会貢献

1. 学会等への貢献

①文部科学省 学校 DX 戦略アドバイザー

②文部科学省事業「教育データ標準に関する連絡協議会」委員

2. 地域社会への貢献

①徳島新聞社「小学生プログラミングコンテスト」審査委員

②徳島新聞社「小学生プログラミング教室」（2024 年 2 月 10 日開催）講師

以上

個人情報

1. 氏名：那住 公子
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：英語科・英語科教育法・小学校英語教育
2. 学部授業担当科目
前期：英語 A①(薬学 1 年、児童 1 年)、外国語科教育法 児童英語活動指導法
後期：英語 A②(薬学 1 年、児童 1 年)、小学校英語、英語科教育法、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学部学生：6 名（専門ゼミナール）,
4. 自己評価

例年、後期に開設していた「児童英語活動指導法」の授業を前期開設に変更したため、前期と後期の授業のアンバランスさがなくなった。

専門科目の英語では、昨年度から担当教科になった中学校免許用の言語コミュニケーション学科の「英語科教育法」と、小学校免許用の児童学科の「小学校英語」では異なる教科書を使用していたが、本年度後期からどちらも扱っている教科書を採用することにした。これまでに作成してきた毎時間のワークシートは使えず、全て新たに作成したため、授業準備に膨大な時間がかかったが、学生の金銭的負担には配慮できた。

一般教養科目の英語 A では これまで同様、児童学科と薬学科では異なる教科書を使用し、児童学科では、幼児や児童、小学校に関する英語を、薬学科においては理系の教科書を採用し、それぞれに必要な英語を教えることをこころがけた。

「コミュニケーションのための英語」を意識し、授業では、ペア活動やグループ活動を取り入れ、またすべての英語科目において、評価に実技を加えた。

授業アンケートの結果は、ずっと自分の授業改善に活用している。前期の薬学部の英語 A の授業アンケートの結果から「発信力」を高めたいと考え、後期からライティングを取り入れるように心がけた。

「授業で勝負」できるように、教育領域にはたいへん力を尽くした。

研究領域

1. 専門研究領域：英語教育、フォニックス
2. 研究課題及び概要

①「フォニックス」

アナリティックフォニックスだけではなく、シンセティックフォニックスについて新たに知見を得た。

②「英語教育」

小学校教員を養成する児童学科の英語科担当者として、中学校英語教諭免許取得のための授業担当者として、本年度は久しぶりに研究大会に参加でき、小学校・中学校・高等学校、それぞれの模擬授業を見たのは、貴重な経験となった。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文・著書：特になし
2. 学会発表：特になし
3. 知的財産権の出願・取得状況：特になし
4. 令和5年度分科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：特になし
5. 自己評価

中学校英語免許取得をめざす学生の英語検定対策講座を Listening と Writing を中心に、前期・後期ともに3コマずつ計6コマの時間を確保した。授業やワークシート作成に時間がかかったことも事実であるが、今年も教材研究や英語検定対策、チューター学生の指導などを優先させ、形ある研究は残せなかった。日々の実践を研究にまとめたいと考えていたが、それも実現しなかった。

大学内運営

1. 活動報告

- ① 児童学科4年 クラス担任
- ② 1年チューター生5名 2年チューター生3名 3年ゼミ生6名
4年ゼミ生7名、
- ③ 児童学科オープンキャンパス主担当
- ④ 児童学科就職支援委員
- ⑤ 全学共通教育センターの学習支援アドバイザー
- ⑥ 児童学科小学校採用試験対策へのサポート
- ⑦ 児童学科中学校免許取得希望対象者への英語検定対策講座開講と個別指導
- ⑧ 児童学科広報委員会

社会貢献

1. 学会等への貢献

徳島大学英語英文学会会員
鳴門教育大学英語教育学会会員
四国英語教育学会会員
全国英語教育学会会員

2. 地域社会への貢献

令和5年8月23日 阿南市中学校英語弁論大会審査員

個人情報

1. 氏名：定國 雅洋
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報教育，社会科，社会科教育法，生活科，生活科教育法
2. 学部授業担当科目
前期： 社会科（児童3年），生活科教育法（児童2年）
教育方法・技術論（食物栄養・心理 他），教育方法・技術論（人間生活 他）
後期： 社会科教育法（児童3年），生活科（児童1年），道德教育（児童3年）
専門ゼミナール（児童3年），教育方法・技術論（保育科），卒業研究
3. 直接研究指導した学部学生：7名（専門ゼミナール） 7名（卒業研究/チューター指導）
4. 自己評価
 - ・ すべての授業において情報通信技術を用い，教員と学生，学生同士の双方向型の授業を指向した。教科教育法を中心に，昨年度導入した iPad を学びのプラットフォームと位置付け，活用した。学生自身が GIGA スクール時代の学校教育によりよく対応できる力を培えるよう，複数の授業支援システム（「Metamoji classroom」「ロイロノートスクール」「SchoolTakt」 以上，試用版含）を用いるなどした。
 - ・ 学生の表現力向上のため，プレゼンテーションソフトウェアを併用した短時間のスピーチ活動等を継続的に取り入れた。
 - ・ 専門ゼミナールでは，教育 DX を見据え，教育の情報化，IoT デバイスの活用を中心とした小学校プログラミング教育，一人一台端末環境における情報活用能力等に関する知識および諸技能の向上を図った。
 - ・ 教員養成課程で求められている「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」について，小・中・高等学校における情報活用能力育成の現状・進捗等を考慮に入れながら取り組んできた。
 - ・ 現在，学校現場では学習 e ポータルや，文部科学省 CBT システム等の利用が進められつつあり，それらについての知見を得るためにも，導入及び活用等の必要性を感じている。
 - ・ ICT 支援員資格取得を希望する学生に対して，基礎的なコンピュータサイエンスや，現場での具体的な ICT 機器トラブル対処の在り方等，必要な事項について適宜指導してきた。

研究領域

1. 専門研究領域：教科教育（社会科），情報教育
2. 研究課題及び概要
「教育 DX を見据えた情報活用能力の育成」
中教審答申「令和の日本型学校教育」，「第4期教育振興基本計画」等の主旨を踏まえつ

つ、小学生の情報活用能力の育成について、研究をすすめてきた。今年度は、教育 DX のあり方や具体的手法等に関する知見を蓄えることができた。

3. 令和 3 年度分 研究業績一覧：なし

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和 3 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価

小学校段階で求められる情報活用能力の育成について、学校現場と連携しながら、よりよい実践につながる研究を心がけている。そのために、現場で必要とされている ICT 環境整備や教員研修等についても、実情を踏まえながら引き続き研究を深めていきたい。

今後、研究課題についての取組を論文にまとめることができるよう努めたい。

大学内運営

1. 活動報告（委員会委員，担任等）

① 広報委員会委員

② 児童学科 3 年担任（61 名）

③ チューター（23 名）1 年（2）名，2 年（7）名，3 年（7）名，4 年（7）名

④ 小学校教員採用審査対策支援

⑤ 全学共通教育センター学習支援アドバイザー

⑥ ICT 支援員養成講座等に関する学生支援

社会貢献

1. 学会への貢献

コンピュータ利用教育学会（CIEC）会員

2. 地域への貢献

・徳島新聞社「小学生プログラミングコンテスト」審査委員

個人情報

1. 氏名：結城 栄子
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：美術科，図画工作科，図画工作科教育法，保育内容（表現）
2. 学部授業担当科目
前期：図画工作①，図画工作科教育法，保育内容（表現）
後期：図画工作②，専門ゼミナール，卒業研究，美術 A
3. 直接に研究指導した学部学生：13名（卒業論文，卒業制作，専門ゼミナール等）
4. 自己評価
 - ・美術室に ICT 機器が設置されていなかったため，着任後すぐに整備して iPad，書画カメラ，プロジェクタを毎時間活用した講義・演習を実施することができた。授業アンケートでは授業の進め方や教室整備，満足度が全体選択率より高かった。後期からは Wi-Fi 使用も可能になるよう整備したことにより，学生のグループ撮影動画や，写真を授業中に AirDrop で Classroom に送信させ，リアルタイムで活動の検証や有用性を確認することができ，主体的でアクティブな学習を行うことができた。
 - ・授業の事前調べや事後の発展課題等を Classroom に投稿させ，次の講義の中で活用したことで，予習の習慣が定着，意欲の向上や思考力を高めることにつながった。
 - ・児童学科学生には，多様な表現材料や表現方法に実際に触れさせ，指導スキルの幅を広げさせたいと願い材料・用具の購入を行ったが，経費が嵩み運営に支障をきたしたことは大いに反省した。
 - ・美術 A 受講者には，表現と鑑賞を相互に関連させ一体的な授業展開を工夫したことにより，意欲を喚起し主体的に表現活動に取り組ませることができた。また，演習の中で他との意見交流の場を多くもったことにより，自分と異なる個性を認めるとともにビジュアルコミュニケーションによる充実感を味わわせることができた。約 80 人の受講者に Classroom 管理によりフィードバックが適宜実施できた。
 - ・対話型鑑賞プログラムの実践では，現場小学校児童と教員に実践しスキルを磨くことができた。また，徳島県立近代美術館学芸員との連携により，芸術作品を直接用いて学外授業を実施することができプログラム実践につながる試みになった。
 - ・図画工作科教育法，保育内容（表現）の模擬授業・模擬保育では指導案作成指導をもっと徹底して行いたかったが，時間的・環境的制約もあり，指導方法の習得にばらつきができてしまった。専門ゼミナールでは，卒業論文・制作につながる指導として「コマ撮りアニメーション制作」「草木染め」など未経験の分野に挑戦させた。
 - ・ゼミの 4 年生について，小学区教員，公立私立幼稚園教員，一般企業等，多岐にわたった進路希望があった。個々の願いを大切に，計画的に論文・面接指導等を行った。自分の長所や職業人としての目標ややりがいなどが，徐々に明確になり自分の言葉で伝える力が育ったことは収穫だと思える。進路決定後は，卒業制作・論文に集中することがで

き個々の能力の伸長を図ることができた。

- ・着任初年度であり、授業準備や進路指導に追われ、学生の生徒指導が後手に回ったり、学年経営を同僚に任せきりになったりしたことは反省すべき点である。

研究領域

1. 専門研究領域：美術教育

2. 研究課題及び概要：

- ①表現と鑑賞を相互に関連させ一体的な授業展開
- ②美術の働きや美術文化についての実感的な理解
- ③造形活動を通して生活や社会と豊かに関わる態度の育成

3. 令和5年度分 研究業績一覧

第51回 む・アート展出品

4. 知的財産権の出願・取得状況：なし

5. 令和5年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：なし

6. 自己評価

過去の実践を踏まえて、教員養成の視点から年間計画・内容の充実と精選を図ったが、次年度はその実践を検証してより有効な美術教育を模索・研究していきたい。

大学内運営

1. 活動報告（委員会、担任等）

- ・人間生活学部児童学科学生支援関係、新入生セミナー、ベイシックウイング等
- ・広報委員会 YouTube、高校生の夢応援プロジェクト、学科だより・チラシ等
- ・児童学科オープンキャンパス担当
- ・全学共通教育センター講座、児童学科対策講座
- ・児童学科3年生担任60名、チューター23名（1年生5名、2年生5名、3年生7名、4年生6名）

社会貢献

1. 学会等への貢献

なし

2. 地域社会への貢献

- ①第32回四国造形教育研究大会、第64回徳島県小学校図画工作教育研究大会
小学校鑑賞領域部会指導助言
- ②令和5年「宇宙の日」記念行事全国小・中学生作文・絵画コンテスト絵画の部審査
- ③美馬市中学校人権に関する児童生徒のポスター作品審査
- ④上勝中学校（徳島県スーパーGXスクール指定校）GXフェスティバル指導

個人情報

1. 氏名：金子 紗枝子
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教育心理学、認知心理学、学校心理学、保育心理学
2. 学部授業担当科目
前期：なし
後期：【学部】 幼児理解、保育の心理学 II、教育心理学、子どもの学び支援実習、卒業研究、専門ゼミ
【短期大学部】 保育の心理学 II
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名、その他（13）名、子どもの学び支援センターでの指導（15）名
4. 自己評価

育児休業のため、授業はオンデマンドと対面で実施した。オンデマンド授業では動画を使用するなど学生が学習しやすいよう工夫した。また対面授業ではグループでのディスカッションを多く取り入れ、対面の利点を生かした授業を行うよう努めた。今後は、学生がディスカッションを通じてより発見的な学習ができるよう、教材や課題を工夫していきたい。

研究領域

1. 専門研究領域：認知心理学、教育心理学、学校心理学。特に認知心理学の知見を踏まえた学習方法について研究している。また学習に困難を抱える子どもへの支援活動の実施や、その活動が支援実施者へ及ぼす影響についても検討している。
2. 研究課題及び概要
 - ① 「テストに取り組むこと」が学習を促進するという現象について、学習者の能動的な情報処理（検索）の観点から、そのメカニズムの解明と教育活動への利用について研究している。
 - ② 認知カウンセリング（認知心理学の知見をふまえた学習支援活動）について、より良い支援方法、および支援者として参加する大学生の教職意識や力量の形成に及ぼす影響について検討している。
 - ③ 対人関係の基盤としてのアタッチメント・スタイルの視点から、学校適応度を向上させるための社会的居場所の整備法について検討している。
3. 令和5年度分 研究業績一覧

【論文】

金子紗枝子・岩木信喜・高橋 功 学校適応感と親密な他者から受けるソーシャル・サポート：アタッチメント・スタイルと社会的居場所の機能に着目した分析
徳島文理大学紀要，106，31-38.

児嶋輝美・石井信子・下内新吾・船本孝子・森 万里子・金子紗枝子・古本奈奈代
保育内容「領域」に求められる授業内容の検討—卒業生へのアンケート調査

に基づく課題と改善— 徳島文理大学紀要, 106, 39-49.

Iwaki, N., Takahashi, I., & Kaneko, S., (~~in Press~~). How does error correction occur during lexical learning? *Psychological Research*, DOI : 10.1007/s00426-024-01937-w

【学会発表】

金子紗枝子 手がかりから連想される情報量が誤検索効果に及ぼす影響 (2) : 遅延フィードバックの影響 日本教育心理学会第 65 回大会 2023 年 8 月 10 日 (木) ~ 9 月 10 日 オンライン開催 (ポスター発表)

高橋 功・岩木信喜・金子紗枝子 アタッチメント・スタイルと社会的居場所機能 日本心理学会第 87 回大会 2023 年 9 月 16 日 神戸国際会議場・神戸国際展示場 ハイブリッド開催 (ポスター発表)

4. 知的財産権の出願・取得状況 : なし

5. 令和 5 年度 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

科研費 (若手研究) 「主体的な学習はなぜ効果的なのか—誤検索効果を用いた検討」
研究代表者

科研費 (若手研究) 「誤情報記憶による学習促進 : 応用のための研究」研究代表者

科研費 (基盤研究 (C)) 「学習におけるエラーの記憶の役割」研究分担者

6. 自己評価

研究課題①について、昨年度実施した実験の結果を学会で発表した。得られたコメントを踏まえて、現在新たな実験を実施している。来年度は、この結果を学会で発表するとともに、これまでの一連の成果もまとめて公表する予定である。

研究課題②については、後期のみ「きらきらルーム」の活動を実施した。今年度は成果の発表には至っていないが、来年度以降、児童への学習支援および大学生の教職意識や力量形成の成果について、学会等で発表する予定である。

研究課題③については、他大学の共同研究者と共に実施した調査の結果を紀要論文および日本心理学会の大会で発表した。現在も調査を実施中であり、継続して成果を発表するとともに、その成果を学生指導にも活かしていきたいと考えている。

大学内運営

1. 活動報告

児童学科 1 年生担任

1-3 年生チューター

学科内子ども支援センター「きらきらルーム」支援員

社会貢献

1. 学会等への貢献

特になし

2. 地域社会への貢献

徳島県社会福祉審議会 委員 (児童福祉専門分科会)

第4節 メディアデザイン学科

個人情報

1. 氏名：篠原 靖典
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 総合領域 情報学 知能情報処理
2. 学部授業担当科目
前期
メディアデザイン通論、専門ゼミナールⅠ、Web プログラミング入門
情報システム演習Ⅰ、プログラミング入門、卒業研究
後期
情報セキュリティ論、専門ゼミナールⅡ、Web プログラミング応用
情報システム演習Ⅱ、プログラミング応用、応用データベース、卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生： 卒業論文 (3) 名
4. 自己評価：
 - ・Web 教材やパワーポイント等の資料や教材を用意し、内容の理解度を伸ばすように工夫した点が評価される。
 - ・学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加し課題発見型授業を実践することができた。さらに、その実績は高く評価された。
 - ・遠隔講義において教育の質を担保し、一定の成果を得ることが出来た。

研究領域

1. 専門研究領域：
総合領域 情報学 知能情報処理
2. 研究課題及び概要
「ニューラルネットワークを用いた画像の領域分割に関する研究」
「電子書籍開発」 「インターネットを利用したインタラクティブ学習」
3. 令和5年度分 研究業績一覧
論文・学会発表
4. 令和5年度分
科学研究費補助金
各種助成金等の申請
交付状況
5. 自己評価
 - ・行政との連携による地域再生・活性化事業において、役割を果たすことができた。

大学内運営

1. 活動報告：

- ・メディアデザイン学科長
- ・大学院生活環境情報学専攻 専攻主任
- ・自己点検・評価委員会（認証評価委員会）
- ・教務委員会委員
- ・教員養成対策委員会委員
- ・情報センター副所長
- ・防火・防災管理委員
- ・中期目標策定委員
- ・災害時初期対応者
- ・履修ガイド編集委員
- ・1年生～4年生チューター
- ・本学入試監督・面接

社会貢献

1. 地域社会への貢献

- ・e-とくしま推進財団 評議員
- ・徳島県西部地域政策総合会議計画推進評価部会 副部会長
- ・徳島県立工業技術センター試験研究評価委員会委員
- ・とくしまOSS普及協議会 幹事
- ・徳島県警察との連携事業「ネットウォッチャー」事業実施
- ・徳島県警察との連携事業「情報発信ウォッチャー」事業実施
- ・徳島県個人情報保護審査会委員
- ・人権啓発映像コンテンツ審査委員

個人情報

1. 氏名：古本 奈奈代
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：社会調査・統計解析 プレゼンテーション論
2. 学部授業担当科目：
前期：メディアデザイン通論，プレゼンテーション技法，社会調査論，社会調査研究Ⅰ，専門ゼミナールⅠ，卒業研究
後期：生活と情報B，社会調査研究Ⅱ，プレゼンテーション演習，プレゼンテーション論，専門ゼミナールⅡ，卒業研究，看護研究Ⅱ（看護学研究科）
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（6）名
4. 自己評価：
 - ① 講義全般においてスライド教材作成、補助教材プリントの作成により学生の理解を助けるように努め、授業評価アンケートにおいて成果が確認された。
 - ② 社会調査士資格認定校として社会調査関係の認定科目を指導し、特に「社会調査研究Ⅱ」においては少人数グループによるフィールドワークを実施し、報告書をまとめることにより資格取得希望者全員が資格を取得することができた。
 - ③ 学外の企業や徳島県内の行政機関行政などと連携し、地域貢献事業に積極的に参加した。課題発見型授業を実践することができたと同時に、その実績は高い評価を得た。
 - ④ 数理・データサイエンス・AI リテラシーレベル教育（文理学科）において、データサイエンス領域の講義を実施し、一定の成果を得た。

研究領域

1. 専門研究領域：数学 数学一般（確率論・統計数学）
2. 研究課題及び概要：
 - ① ランダムデータの統計的処理とその応用に関する研究
 - ② 教育従事者における自己評価とその再教育に関する研究
3. 令和5年度分 研究業績一覧：
論文
 - ① 当科における最近の微弱陣痛の頻度とオキシトシン製剤投与時に配慮すべき母児への影響：現代産婦人科 Vol.72 No.1, 2023
 - ② 保育内容「領域」に求められる授業内容の検討-卒業生へのアンケート調査に基づく課題と改善-：徳島文理大学紀要 第106号
4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
5. 自己評価：
 - ① 調査分析の専門家を認定する社会調査士資格取得者を輩出することができた。

- ② 調査分析に関する専門的知識を用いて他学部他学科の研究をサポートした。
- ③ 徳島県が推進する地域再生事業に対する大学の役割を遂行することができた。

大学内運営

- 1. 活動報告：
 - ① 人間生活学部教育研究委員会
 - ② 研究紀要編集委員会
 - ③ 本学入学試験
 - ④ オープンキャンパス
 - ⑤ 担任・チューター

社会貢献

- 1. 地域社会への貢献：
 - ① e-とくしま推進会議委員
 - ② 徳島県総合計画審議会委員
 - ③ 徳島県環境審議会委員
 - ④ 徳島県科学技術県民会議委員
 - ⑤ 徳島県新事業分野開拓者認定審査委員
 - ⑥ 徳島県地域情報化表彰審査会委員
 - ⑦ とくしま障がい者雇用促進県民会議委員
 - ⑧ 徳島県議会・徳島文理大学連携協定による講演（R5.9.14）

個人情報

1. 氏名：加治 芳雄
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：情報学基礎、ソフトウェア、情報ネットワーク、データベース、知能情報学
2. 学部授業担当科目
前期：情報通信ネットワーク論、情報データベース、情報処理Ⅰ、メディアデザイン通論、情報システム論A、オペレーションズリサーチ、プログラミング論B、専門ゼミナールⅠ
後期：プログラミング論A、情報数学、コンピュータネットワーク論、コンピュータネットワーク演習、情報システム論B、専門ゼミナールⅡ
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 2名
4. 自己評価：

これまでの反省を活かして授業改善等に取り組んだ。昨年度同様、授業で説明した内容等の振り返りができるよう、講義時の説明をGoogle Classroomのストリームに記載するとともに、講義資料としてパワーポイントによる資料を作成した。また、プログラミング系の演習科目等も遠隔で演習できるよう工夫した。さらに、今年度は、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」がスタートし、人間生活学部では、応用基礎レベルを実施しており、主にAI関係の分野について、「情報数学」、「情報システム論A・B」で授業を実施した。初めて指導することと、やや難しい内容もあることから、できるだけ理解してもらえよう努力した。

研究領域

1. 専門研究領域：生体医工学、生体情報工学、認知科学、知能情報学
2. 研究課題及び概要
 - 1) 脳波を利用した脳機能解析
 - 2) 医用福祉分野への応用に関する研究

令和5年度分 研究業績一覧

1. 学術論文

- 1) Junji Kawata, Jiro Morimoto, Yoshio Kaji, Mineo Higuchi, and Shoichiro Fujisawa : Development of a Gaze-Driven Electric Wheelchair with 360° Camera and Novel Gaze Interface, Journal of Robotics and Mechatronics Vol.35 No.3, pp.743-750. 2023
- 2) Jiro Morimoto, Akihiro Murakawa, Hiroki Fujita, Makoto Horio, Junji Kawata, Yoshio Kaji, Mineo Higuchi, and Shoichiro Fujisawa : Estimation Model for Emotions Based on Pulse, Journal of Robotics and Mechatronics Vol.35 No.3, pp.788-798. 2023

2. 学会発表

- 1) S.Fujisawa, S.Nishimori, Y.Atsuta, K.Sakami, J.Morimoto, J.Kawata, Y.Kaji, M.Higuchi, S.Ito, and T.Inagaki : Stimulation and Visibility of Flashing Lights With Different Illuminance, 15th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics(AHFE 2024) and the Affiliated Conferences, 2023 年 7 月.
- 2) S.Jyutori, S.Tada, S.Taniguchi, R.Mihara, J.Kawata, J.Morimoto, Y.Kaji, M.Higuchi, S.Fujisawa, T.Yamamoto, and M.Booka : Vibration Measurement and Verification of Ride Comfort When a Manual Attendant-Controlled Wheelchairs Is Running, 15th International Conference on Applied Human Factors and Ergonomics (AHFE 2024) and the Affiliated Conferences, 2023 年 7 月.
- 3) 芥川正武, 田上大地, 榎本崇宏, 七條文雄, 加治芳雄, 木内陽介 : 磁気センサを用いた嚙下時の喉頭隆起運動測定, 電子情報通信学会技術研究報告(ME とバイオサイバネティックス), 2023 年 7 月.
- 4) 森本滋郎, 堀尾 誠, 河田淳治, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 脈拍に基づく感情推定モデルに関する考察, 2023 年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2023 年 9 月.
- 5) 河田淳治, 森本滋郎, 加治芳雄, 樋口峰夫, 藤澤正一郎 : 視線追跡型 VR HMD を用いた電動車いすの制御, 2023 年 電気学会 電子・情報・システム部門大会, 2023 年 9 月.
- 6) 山形ひとみ, 芥川正武, 榎本崇宏, 木内陽介, 加治芳雄, 七條文雄, 池原敏孝 : 情報伝達速度の向上を目的とした SSVEP の位相分解能に関する研究, 令和 5 年度 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会, 14-4, 2023 年 9 月.
- 7) 瀧口稜平, 芥川正武, 榎本崇宏, 七條文雄, 加治芳雄, 木内陽介 : 独立成分分析を用いた嚙下時表面筋電図の特徴抽出, 令和 5 年度 電気・電子・情報関係学会四国支部連合大会, 14-5, 2023 年 9 月.

3. 知的財産権の出願・取得状況

記載事項なし

4. 令和 5 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

記載事項なし

自己評価

学会・研究会など成果を発表できた。今後も継続して努力したい。

大学内運営

活動報告

- 1) 1 年生学年担任、チューター担当(2 年 6 名、3 年 5 名、4 年 8 名)
- 2) 広報委員
- 3) 入試業務
- 4) オープンキャンパス：模擬授業担当(4 回)

社会貢献

1. 学会等への貢献
 - 1) 電子情報通信学会四国支部学生会顧問(2015 年 4 月～)
2. 地域社会への貢献
 - 1) SMART 運営委員 (2007 年 4 月～)

個人情報

1. 氏名：山城 新吾
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域
総合領域 科学教育・教育工学 教育工学
総合領域 情報学 情報学基礎 メディア情報学
2. 学部授業担当科目
前期： インストラクショナルデザイン インストラクショナルデザイン演習 コンピュータグラフィックス論Ⅰ コンピュータグラフィックスⅠ メディア基礎論 メディア制作論 専門ゼミナールⅠ メディアデザイン通論 卒業研究
後期：メディア基礎演習 メディア教育演習 メディア教育論 専門ゼミナールⅡ コンピュータ基礎演習 情報科学 卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生
卒業論文（１）名、大学院修士（１）名
4. 自己評価：
全授業で視聴覚教材の提供や学生による課題遂行・レポート提出・プレゼンテーションを推進した。その他、「メディア基礎演習」でティームティーチング実施、「インストラクショナルデザイン演習」で学生によるeラーニング教材制作と実践を行った。

研究領域

1. 専門研究領域
総合領域 科学教育・教育工学 教育工学
複合領域・社会・安全システム科学・社会システム工学・安全システム
2. 研究課題及び概要
「課題」防災教育・啓発プログラム・教材の開発
専門職種に応じた研修設計・研修教材の開発
「概要」インストラクショナルデザインの知見を活かし、防災教育分野や各種の専門職に対応した研修の設計・研修教材の開発を行っている。
3. 令和5年度分 研究業績一覧
論文・著書
(なし)
学会発表
小学校の保健室における個人情報の取り扱いについて
鐵 みゆき（徳島文理大学大学院）・山城 新吾（徳島文理大学）
教育システム情報学会第48回全国大会 2023年8月30日
知的財産権の出願・取得状況
(なし)

令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
(なし)

自己評価：

修士論文で指導中の大学院生と、学校保健室における個人情報保護に関して共同発表を行った。また地域メディアおよび防災教育に関する研究の準備を進めている。

大学内運営

活動報告

- ・人間生活学部 学生指導委員会 委員
- ・人間生活学部 教員養成推進委員会 委員
- ・人間生活学部メディアデザイン学科 3年生担任・1～2,4年生チューター

社会貢献

- ・2023年7月8日 児童デイこころ国府（株式会社ケー・エム・シー）
メディアデザイン学科3年生および児童デイ職員・利用児童による
ラジオ番組の企画・収録
- ・2023年9月8日 高知県立室戸高等学校 希望者対象ミニ講義
「デジタル写真撮影の基礎
～スマートフォンでも一眼レフでも、もっときれいな写真撮影～」
- ・2023年9月16日 エフエムびざん「B-STEP TALKING」ライブ出演
集中講義「情報メディア論」紹介
- ・2023年11月10日 徳島市保育所防災研修講師
「保育現場における防災について」
- ・2024年2月29日 徳島市コミュニティ連絡協議会（環和会）研修講師
「SNS発信力の向上」

個人情報

1. 氏名：長濱 太造
2. 職位：講師

教育領域

1. 教育の担当専門領域：統計科学，マルチメディア
2. 学部授業担当科目
前期：メディアデザイン通論，コンピュータ概論，情報処理論，生活と情報A，情報処理，専門ゼミナールⅠ，卒業研究
後期：応用統計学，社会調査法，CGアニメーション，コンピュータグラフィックス演習Ⅰ，基礎ゼミナールB，専門ゼミナールⅡ，卒業研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文（2）名、大学院修士（0）名
4. 自己評価：
 - ・全ての授業において、Google ClassroomでPower PointやExcel、テキストファイル等の指導案を配布し、受講者の理解がより深まるように工夫している。
 - ・学習内容が定着するよう、授業のひとまとまり毎にレポート提出や小テストを実施している。
 - ・コンピュータグラフィックス系の授業では、コンテストを開催して受講者のモチベーションが向上するよう工夫している。
授業の一環として取り組んだ徳島文理大学徳島キャンパス附属図書館「図書館ロゴコンテスト」において、受講者の作品が最優秀に選ばれ、ロゴマークとして採用されることになった。
 - ・社会調査法で反転授業を導入・改良し、教育効果に手応えを感じている。
 - ・基礎ゼミナールBでは、メディアデザイン学科1年生全員を対象に本学図書館で課題解決型アクティブ・ラーニングを実施し、教育効果に手応えを感じている。

研究領域

1. 専門研究領域：統計科学，教育工学，マルチメディア
2. 研究課題及び概要：
 1. 対話型AIを活用した課題解決型アクティブ・ラーニングの効果的な教育方法の検討
3. 令和5年度分 研究業績一覧：
学会発表
 1. 「3歳児のう蝕に関連する影響因子の検討」2024.02.06，第69回四国公衆衛生学会，（坂本治美，長濱太造，吉岡 昌美，中江 弘美，十川悠香，篠原千尋，福井 誠，日野出大輔）
4. 知的財産権の出願・取得状況：該当なし
5. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：該当なし

6. 自己評価：

- ・昨年度から、本学図書館で課題解決型アクティブ・ラーニング「アクティブ・ラーニングと学生の講義への取り組み方が基礎的・汎用的能力に及ぼす影響」(図書館AL)をメディアデザイン学科の正規の授業として、1年生後期の「基礎ゼミナールB」で実施している。

今年度は2022年11月末に登場した対話型AIを取り入れ、受講者自らがAIを積極的に活用し、企画立案や企画書の文章作成に活用できる方法を検討した。しかし、大学1年生が対話型AIの使い方を十分に理解し、活用できるようになるための十分な演習時間を確保することが出来なかった。その結果、一部の積極的な受講者は対話型AIを活用した企画立案にチャレンジできたが、それ以外の受講者はAIを十分に活用することができなかった。一方、4年生の卒業研究においては図書館AL用の企画書可否判定AIの開発に成功し、十分な成果を上げたといえる。

また、副産物的な成果ではあるが、本学図書館を舞台に次のような企画を実行し、成果を上げた。

- ・ポップで読んだことのない本に飛び込もう！
- ・AIの情報は正確かな？
- ・図書館利用ガイドのリニューアル
- ・電子書籍促進動画をつくる
- ・ご意見箱の宣伝計画
- ・もっと良い図書館に ～図書館の環境整備～
- ・クイズで学ぶ図書館シールラリー！！

大学内運営

1. アカサス会本部役員
2. アカサス会徳島県支部役員
3. アカサス会高知県支部事務局
4. 退学者防止対策検討委員
5. 新入生セミナー運営委員
6. 人間生活学部入学試験委員
7. 人間生活学部自己点検・自己実現委員
8. 人間生活学部就職支援委員
9. オープンキャンパス 模擬授業講師4回担当
10. 4年生担任, 1・2・3年生チューター
11. 入学試験 監督・面接

社会貢献

1. 第77回全国レクリエーション大会2023inとくしま 実行委員
2. 第58回徳島県高校放送コンテスト審査員(徳島県高等学校文化連盟)
3. アワーケーション魅力創生事業者選定委員(県庁)
4. 阿波の狸 奉賛会世話人 地域イベント支援と地域文化発信

第5節 建築デザイン学科

個人情報

1. 氏名：森田 孝夫
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：建築計画学、都市計画学
2. 学部授業担当科目
前期：建築計画論、都市計画論、住宅政策論、生活施設計画、住宅設計製図Ⅱ、卒業研究
後期：住居学、景観論、人間工学、インテリアデザイン基礎、専門ゼミナール、卒業研究
大学院授業担当科目
博士前期課程：住生活環境学特論Ⅰ・Ⅱ、地域・市場調査演習Ⅱ、住居学特論
博士後期課程：住生活環境学特別講義、住生活環境学特別研究、生活習慣環境学域
3. 直接に研究指導した学部学生、大学院生：
卒業設計（5）名 修士論文（0）名
4. 自己評価：

コロナ禍が静まり、授業は対面授業になった。Google クラスルームを利用して授業の資料を掲載することは続けた。全面的に対面形式に戻った令和5年度の教育の方法や成果、課題を自己分析し、評価する必要がある。

<専門科目・設計分野>

前期の住宅設計製図、23号館7階の大製図室と4階の模型制作室を使い実習を行った。そして設計力には個人差があるので、指導ノートをつくり、丁寧に個人指導を行った。後期のインテリアデザイン基礎では、地域公共図書館のインテリア設計を課し、大学図書館を生きた教材として活用した。模型制作実習は制作方法を教え合い、意見を交わすことが多く、模型制作はアクティブ・ラーニングの一種であろう。なお重要な設計課題に和室のインテリアがある。和室は日本の室内意匠の基本であるが、自宅に和室がない学生が増え、教え方がむずかしい。

<専門科目・建築計画・都市計画分野>

座学である建築計画などの授業では、スライド上映も利用して視覚的な授業方法も活用したが、学生の反応は静かでおとなしい。ノートをとる受講態度は本当に少数組になり、板書をノートに書き写して理解することを求めても時代錯誤なのかもしれない。建築や都市の問題を新聞記事から収集し、授業で新聞記事を配布して問題を読み取ってもらった。とくに住宅政策論について、有効な新聞記事がある

<卒業設計>

大学教育の質保証が重要な課題になり、私は、それは卒業研究にとりくむことだと考えている。建築デザイン学科では主に卒業設計をするが、卒業設計は、自ら課題を見だし、調査を行い、課題の解決のための建築デザインの提案が期待される。その

教育効果は大きいので、多くの学生が取り組むことを願う。

研究領域

1. 専門研究領域： 建築計画、都市計画

2. 研究課題及び概要

研究課題：フランスの地方都市の復興とル・コルビュジエの役割

研究概要：1965年に死去した建築家ル・コルビュジエは、1960年代インド・チャンディガールの計画に没頭していたが、同時期にとりくんだフランス中西部のフィルムミニ市における都市計画と建築設計も忘れてはならない。ル・コルビュジエの建物を世界遺産に登録する運動が始まると、ル・コルビュジエの再研究が次々に出版され、その中にフィルムミニ市に関する出版がある。2022年度も、フィルムミニ市におけるル・コルビュジエの活動に関連する文献の翻訳作業を続けたが、学術論文をまとめるに至らなかった。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

なし

4. 知的財産権の出願・取得状況

なし

5. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

なし

6. 自己評価

大学内運営の業務が増し、研究活動や建築学会活動に見るべきものがない。

大学内運営

1) 副学長

2) 人間生活学部長

3) 大学院人間生活学研究科長

4) 大学院人間生活学研究科人間生活学専攻主任

社会貢献

1. 学会等への貢献：

1) 日本建築学会会員

2) 国画会絵画部会員

2. 社会活動

とくになし

3. 文化活動

1) 第24回国画13の視点展（ギャラリー向日葵、4月22日－4月28日、東京都）

2) 第97回国展（国立新美術館、5月3日－5月15日、東京都）

個人情報

- 1 氏名：森岡 英之
- 2 職位：教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：住宅施工、住宅構造Ⅰ、住宅構造Ⅱ、図学、住宅材料学Ⅰ、住宅材料学Ⅱ、住居安全論、住宅管理、専門ゼミナール
- 2 学部教授担当科目

前期：文理学・・・1年生 後期：住宅構造学Ⅰ・・・1年生

図学 ・・・1年生 住居安全論・・・3年生

住宅構造学Ⅱ・・・2年生 住宅材料学Ⅰ・・・3年生

住宅施工・・・3年生 専門ゼミナール・3年生

住宅材料学Ⅱ・・・4年生 住宅管理・・・4年生

- 3 直接に研究指導した学生

・3年生14名に対し、「建築士資格試験講座：施工・構造」の特別授業を実施した。

- 4 自己評価

・「施工」は、特に建築専門用語を理解させることと、工（構）法やモノの組合せ、また仕組みを学ぶために、映像や見本（サンプル）による指導に時間を投じた。そのほか例年通り、要点に絞った内容のミニテストに力を注ぎより具体的な学習により理解度を高めた。

また、3年生全員を対象に、本校の高松キャンパス建設現場に3度の研修・見学に出向き、各種の納まりやまた建設産業への魅力や関心をより深める授業の一環として実施した。

・「図学」は、三次元のモノを二次元に表現する作図法に要点をしばり、実践的な課題を実施することにより理解度を高めた。

また加えて、1点透視及び2点透視図の作成要領を詳しく指導した。

・「材料学Ⅰ」は、建物を建てるための仮設、土工、躯体から仕上げに至るまでのすべてに用いる主要な材料の映像や見本（サンプル）など個々の使い方、また重要な点を要点的に指導した。なお、実験は、コンクリート技師5名を実験室に招き、骨材のふるい試験から圧縮強度試験までを実施した。

・「材料学Ⅱ」は、材料の持つ力学的性質を理解させるため、コンクリートのひずみ実

験を実施した。また、2級建築士程度及び2級建築施工管理技士程度の演習問題を実施した。

- ・「構造学Ⅰ・Ⅱ」は、構造部材（骨組）の構成や関連付け（納まり）の理解、各種構造の性能が理解できるような映像、そのほかサンプルなどを用いて理解度を高めた。また、要点を絞った内容のミニテストを数回実施してより理解度を高めた。

更には、2級建築士程度及び2級建築施工管理技士程度の演習問題も実施した。

- ・「安全論」は、特に「建物の火災について」を要点に絞って指導をした。
- ・「住宅管理」は、長寿化が進み、且つ高度な文明が発達した現代、住環境も急激に変化して、それに伴う住宅管理も専門的になってきて、一個人では解決できない状況になってきた昨今である。従って授業は一個人で処理・調整などに手が届くメンテナンスや、集合住宅の管理、居住地の管理に重点をおいた内容として理解を求めるようにした。

研究領域

- 1 専門研究領域：特になし
- 2 研究課題及び概要：特になし

大学内運営

- 1 活動報告
 - ・学科長
 - ・チューター

社会貢献

- 1 地域社会への貢献
 - ・コロナ禍により活動が出来なかった。
2. 3年生全員を対象とした、学科独自の「就職セミナー」の開催を10回49社にわたり実施し、就職支援をおこなった。

個人情報

- 1 氏名：川村 恭平
- 2 職位：教授

教育領域

- 1 教育の担当専門領域：
工学： 建築学 建築環境・設備 情報工学
家政学： 住居学
- 2 学部授業担当科目
前期：CAD演習Ⅰ、住生活論（製図を含む）、住居意匠学
後期：住生活論（製図を含む）、日本建築史、コンピュータ演習Ⅰ、CAD演習Ⅲ、専門ゼミナール
- 3 直接に研究指導した学部学生4名
卒業研究の指導1名
- 4 自己評価
授業については紙媒体も含めIT機器の活用などに努めた、しかしながら授業者としてITの活用(特にPowerPoint)の使用した授業の工夫・改善の必要があると痛感した。授業者は多くのデータ(通常の授業の3倍程度の情報量)に対して授業を受ける学生側の準備ができていないことがある、結果として流れた授業になった。

研究領域

- 1 専門研究領域：
工学 建築学 建築環境・設備
家政学 住居学
- 2 研究課題及び概要：
日本の住居形式と熱環境(伝統的な住まい方)についての研究
3Dプリンタの活用による建築模型の製作方法の研究
ドローン(無人航空機)による建築分野での活用方法の研究
- 3 令和2年度分 研究業績一覧
- 4 令和2年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：
- 5 自己評価
研究については、本学25号館の東側全面ガラス窓の熱環境、特に日射について実測調査を行い熱環境の分析と対応策の検討をおこなった。
また、本学で実施している避難訓練を学生の側からみた自主避難マニュアルを作成し、卒業論文の資料とした。
25年度 徳島県立光慶図書館の3D復元(徳島県立文書館)および村崎女子職業校の3D復元と卒業論文の指導
26年度 千秋閣3D復元と卒業論文の指導
27年度 フランクロイドライトの落水荘の再現に関する卒業論文の指導
28年度 3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建

建築物の再現に関する卒業論文の指導

- 29年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3Dプリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 30年度 3Dプリンタによる建築模型の製作及び間取り作成用のパーツを試作し、住宅会社における試用を開始している。また、高等学校家庭科の住居分野における間取り作成ツールを製作し、実際の高等学校の授業で使用している。卒業研究で展示用の大学全景模型（1/300）の2号館を作成した。
- 31年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。
- 令和2年度 3Dプリンタの活用において、県内設計事務所、住宅産業等とのコラボによる住宅模型の製作のノウハウが確立できた。トクシマビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。
- 令和3年度 徳島県建築士事務所協会で「建築はおもしろい」において研究発表を指導した。
- 令和4年度 徳島県建築士事務所協会で「建築はおもしろい」において研究発表を指導した。トクシマビジネスチャレンジメッセに文理大学として展示・出品を行った。

大学内運営

1 活動報告

人間生活学部教員養成推進委員
人間生活学部学生指導委員
保護者会保護者面談（徳島&遠隔）
建築デザイン学科3年生担任（43名）

社会貢献

1 学会等への貢献：

日本環境学会（大阪市立大学）

2 地域社会への貢献：

- 19年度 徳島県のLOHASな徳島入門講座でecoな生活、ecoな住まいのテーマで講演
- 20年度 徳島県緑化マイスター講習会で講演
- 21年度 徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究
- 22年度 徳島県エコオフィス事業との連携による壁面緑化の効果に関する研究
- 23年度 Yes21においてボランティアによる住宅間取り相談
- 24年度 とくしまエコみらいハウスの評価助言指導
- 24年度 徳島県立光慶図書館の3D復元 作業（徳島県立文書館）
- 25年度 徳島県立光慶図書館の3D復元 徳島県立文書館および村崎女子職業校の

3D 復元の完了

- 26年度 千秋閣の3D 復元の完了および徳島県との地域連携として高開の石積みの擁壁の測量を行った。
- 27年度 徳島県との地域連携の2年目として高開の石積みの擁壁の測を行った。この際ドローンの積極的な活用を行った。
- 28年度 3Dプリンタの建築プレゼンテーションの活用及戦前の徳島市の著名な建築物の再現に関する指導、さらにドローンの建築現場における活用を行った。
- 29年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3D プリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において旧診療所や小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 30年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに3D プリンタの建築分野での活用というテーマで出展、また吉野川市美郷において廃校となった種野小学校のリノベーションに参画、とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として徳島文理大学建築デザイン学科フェアを実施
- 31年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作を行った。
- 令和2年度 特に3Dプリンタの建築分野での活用ということで。建築会社、住宅会社、設計事務所と共同開発で建築模型の製作し、ノウハウを確立した。
- 令和2年度 徳島県ビジネスチャレンジメッセに文理大学としてオンラインによる展示・出品を行った。
- 令和3年度 徳島県建築士事務所協会で建築はおもしろいにおいて研究発表を指導した。
- 令和4年度 徳島県建築士事務所協会で建築はおもしろいにおいて研究発表指導した
徳島県ビジネスチャレンジメッセに文理大学として展示・出品を行った。
- 令和5年度 とくしま科学技術アカデミーステップアップ事業として小学生を対象に徳島文理大学建築デザイン学科で3Dモデルの作成体験を実施

個人情報

1. 氏名：上田 泰史
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 建築環境学、建築設備、建築環境マネジメントシステム
2. 学部授業担当科目
前期：家庭電気・機械 建築デザイン学科 1 年生 後期：住居環境学 3 年生
食物栄養 1 年生 住生活環境学Ⅰ 2 年生
人間生活 2 年生 住宅設備Ⅱ 3 年生
福祉住環境論 2 年生 専門ゼミナール 3 年生
住生活環境学Ⅱ 3 年生 住居衛生学 食物栄養 2 年生
住宅設備Ⅰ 2 年生 心理学科 4 年
環境保全論 4 年生
文理学 1 年生
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 (0) 名
4. 自己評価：
 - ・「家庭電気・機械」は受講生が多く、出欠は今年度から学生カードでの出欠登録を行った。学生に発言の機会を設けるアクティブ・ラーニングも行った。
 - ・「福祉住環境論」では、建築士と福祉環境コーディネーターとの建築における共通認識を高める重要性を強調した。資格試験問題を活用した講義や教員自身の要介護の親類の状況を踏まえた実践的な講義を写真を交えて行った。
 - ・「住生活環境学Ⅰ」と「住生活環境学Ⅱ」では、住居環境の要素である温熱・空気・光・音・水のうち 2 年生の「住生活環境学Ⅰ」で音、温熱を中心に行った。3 年生「住生活環境学Ⅱ」で光、空気、水を取り上げた。グループディスカッションも交えて学生が自から考えて学ぶアクティブ・ラーニングを積極的に行った。
 - ・「住居環境学」では「人と住環境」の視点から人間の生理と関連付けた内容を中心に講義を行った。毎回、関連動画を視聴し、設定テーマについてグループディスカッションを行い、学生が自ら調べて考えるプレゼン機会を設けた。
 - ・「住居衛生学」では受講生が 5 名と少人数で対話形式として学生が住居衛生に関心が持てるように身近な事例を織り交ぜて講義した。学生が将来やりたい職業について授業から活かせる内容を考えさせてレポート提出後も添削指導を行った。
 - ・「住宅設備Ⅰ」では、給排水衛生設備、「住宅設備Ⅱ」では空気調和設備を講義した。建築計画をする上で建築と設備とのかかわりを重点的に講義した。「住宅設備Ⅰ」「住宅設備Ⅱ」ともに、関連動画や 2 級建築士試験問題演習と毎回グループディスカッション・発表を行った。学生との対話を積極的に行い、グループ討議の重要性を指導した。
 - ・「環境保全論」では、教員自らの業務内容から環境保全教材を作成し講義を行った。学生が環境問題を題材にして、あるべき「環境」の状況と現実の「環境」との乖離を「問題」と認識し、問題解決の方向が「課題」であることを指導した。その際、問題と課題の区別をつけて、具体的な解決策を考えさせた。

研究領域

1. 専門研究領域： 建築環境学、建築設備
2. 研究課題及び概要
研究課題：地域社会のゼロカーボン化に向けた建築サプライチェーンマネジメントの取組み調査（令和5年度特色ある教育研究テーマ）
研究概要：建築会社の自社建設現場施工のCO₂発生量割合(自社範囲スコープ1・2) 4%に対して、建設資材を製造等のサプライチェーン上流のスコープ3のCO₂排出量割合が65%と高く、サプライチェーン上流で排出されるCO₂削減が大きな課題である。
「カーボンニュートラル化」の四国地域の建築会社の取組を把握し、四国地域建築業界のカーボンニュートラル建築サプライチェーン調査研究を進行中である。
3. 令和5年度分研究業績としての論文等は無
4. 知的財産権の出願は無
5. 令和5年度年度分科学研究費補助金等は無
6. 自己評価：令和5年度特色ある教育・研究を行ったが、四国地域（徳島・香川等）の建築会社への調査表を作成し、現在調査中

大学内運営

- 1.活動報告
 - ①オープンキャンパスでの学科説明、模擬授業を担当
 - ②人間生活学部倫理教育委員会委員
 - ③人間生活学部教育研究委員会委員長（APLIN 研修フォロー兼務）
 - ④FD 研究教育委員
 - ⑤保護者会保護者面談（リアル徳島）
 - ⑥建築デザイン学科2年生担任（46名中1名休学、1名転学科、1名退学）

社会貢献

- 1.学会等への貢献：
 - ①（公社）日本技術士会会員
 - ②（公社）日本技術士会近畿本部環境研究会幹事
 - ③（公社）日本技術士会四国本部会員
 - ④（公社）日本技術士会全国大会実行委員として奈良全国大会運営
 - ⑤京都大学技術士会幹事
 - ⑥日本食糧農業工学会員
 - ⑦環境情報科学会会員
 - ⑧（一社）日本能率協会専任審査員
 - ⑨新技術開発（株）技術士受験対策講師（環境部門）
 - ⑩（一社）日本要員認証協会会員（環境・品質マネジメントシステム）

個人情報

- 1.氏名：山田 宰
- 2.職位：教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域： 建築設計全般、コンピュータ（CAD）、建築関連法律
- 2.学部授業担当科目：
前期：住宅設計製図Ⅲ、建築法規、西洋建築史、CADⅡ
後期：住宅設計製図Ⅰ、コンピュータ演習Ⅱ、インテリア工芸史、専門ゼミ
- 3.直接に研究指導した学部学生：
卒業設計（4）名、その他（0）名
- 4.自己評価

本学に赴任して2年目となり、講義の面では昨年より余裕をもって授業に臨めた。1年目の経験を踏まえて、実物で学ぶ機会を作ったことが学生の学習意欲に有効だったと感じた。また、チャレンジラボのリノベーションの講座を開講し、意欲ある学生と勉強会を開催することが出来た。

住宅設計製図Ⅲ 前年と同様、学生を6名ずつ9グループに分けて、グループごとに草案批評を行うようにした。グループワークとすることで、同じ課題に対して他の学生が考えている事やその案に対しての教員の指導内容を聞くことができ、個人指導よりも多くの内容が学べたと考える。

CAD 演習Ⅱ 講義を3段階に分けて、第1段階ではCADの操作を学び、あとの2段階で、住宅設計製図Ⅲで自分が設計した図面をCAD化する内容とした。手書きで製図した図面をすぐにCAD化することになり、取り組み易かったのではないかと考える。

建築法規 建築基準法は、随時変更、強化されている。学生にとっては始めて学ぶ法律だが、変更の過程も説明することで、法律の趣旨、目的、成立過程も一緒に学習し、建築基準法が生きた法律として意識できるように考えた。また、学校の校舎の実物を使って防火扉や防火区画、避難バルコニーなど、建築基準法が実際の建物にどのように影響しているか、法律とデザインの関係を解説した。机上の法律と建築の関係を具体的に知ることができて効果的であった。

西洋建築史 高校の時の覚えるだけの歴史ではなく、社会精神の反映としての建築、構法の発達としての建築を、時代の流れと一緒に学べるように意識して講義を行った。今期からより専門性の高い教科書に変更し講義内容も一新した。

住宅設計製図Ⅰ 製図法を学ぶだけではなく、建築家がどのように考えて設計を行っているかを同時に学べるよう、名作と呼ばれる住宅作品の図面模写を行った。昨年は、宮脇壇氏の住宅を取り上げたが、今年度は、3名の別々の建築家を取り上げた。図面模写だけではなく、模型の製作も加えて、建築を立体的にとらえられるように導いた。

コンピュータ演習Ⅱ CAD演習Ⅱで作成したCADデータを使って、3Dモデリングを行った。今年度からガイドとなる教科書を導入して、細かな作図方法を広く学べ

るように留意した。学生の CAD 能力にばらつきがあるため、適宜個人指導も交えつつ、学生の能力に応じた指導をこころがけた。

インテリア工芸史 今年度から担当した科目である。他のインテリア科目と内容が重ならないように、インテリアと家具の歴史とインテリア設計に必要な材料や工法の実際を学べるように工夫した。

専門ゼミナール 設計を志す学生のために共同住宅の設計を指導した。大学グラウンドの近くの新浜地区で、実際の敷地を選定し、同じ地域でそれぞれ違う敷地を与えて自由に共同住宅を設計する内容とした。ここでもグループワークで他の学生の設計案や教員の指導を聞き、自分の計画に反映できるように考えた。

研究領域

1. 専門研究領域：建築設計、建築再生、建築法規

2. 研究課題及び概要

大規模木造建築の設計法の研究

木造 4 階建て共同住宅の研究

保有耐力法等による最新耐震設計技術の動向の研究

3. 令和 4 年度分 研究業績一覧 特に無し

4. 知的財産権の出願・取得状況 特に無し

5. 令和 4 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況： 特に無し

6. 自己評価

木造 4 階建ての中規模共同住宅の設計検討を行った。法規の改正により実現できるようになった建物である。構造、耐火被覆などの問題点を整理し、今後の研究活動の方向性を見定めた。

建築学会四国支部徳島支所の常議員に選出され、学会の活動や運営にもかかわるようになった。建築甲子園の徳島支所の審査員として審査に参加するなど、四国の各県の建築家や大学関係者と知古をえることが出来た。

今後とも大学の存在感を高めるため、学内外の活動を続けたいと考えている。

大学内運営

1. 活動報告

① 広報担当として、広報活動、学科ホームページの更新等の広報活動を行った。

② チャレンジラボ、リノベーション講座開講

③ 建築デザイン学科 4 年生担任

社会貢献

日本建築学会 四国支部徳島支局 常議員

木造住宅の耐震診断と耐震補強を考える会 副会長

古材文化の会会員

「建築甲子園徳島県予選」審査員

個人情報

- 1.氏名：笠井 敬正
- 2.職位：准教授

教育領域

- 1.教育担当専門領域：構造力学、建築計画、測量、インテリアデザイン
- 2.学部授業担当科目
前期：構造力学Ⅱ、測量学、インテリア計画、文理学
後期：構造力学Ⅰ、住宅設計論、インテリアデザイン論、インテリアデザイン応用、住宅設計製図Ⅳ、専門ゼミナール 文理学
- 3.直接に研究指導した学部学生：卒業論文（0）名、その他（6）名
- 4.自己評価

(1) 授業について

「構造力学」については毎時間前回の復習をさせながら進めていった。基本に重点を置き、課題を増やしフィードバックすることによって少しでも学生の理解度が高まるよう心掛けた。頻繁に図や計算式を描く授業なので、特に学生には、自分が見てもわかりやすい図がフリーハンドで描けるようになることが大事であると指導した。

「測量学」は、座学・外業・内業という一連の流れを通して知識としてだけでなく経験として身につく授業である。測量実習では学生たちは熱心にまた楽しそうに取り組んでいた。班に分かれての実習は協働・責任・達成感等十分成果を収めることができたと思う。

「インテリアデザイン応用」では、本年度前期に自分が設計した木造住宅のパース作成およびインテリアを含めた模型製作、そして自分が興味を持った有名なデザイナーの椅子と自分が考案したフロアスタンドの模型製作、以上4テーマを課題とした。特に模型製作では、学生たちは、考え、お互いに教えあいながら興味を持って楽しく取り組んでくれた。

「住宅設計製図Ⅳ」では最後の設計製図として将来受験する建築士試験を見越しての課題を設定し、図面そして簡易パースの提出を課した。学生たちにはその建築物についてしっかり調べさせることから始めた。例年と同じく、構造、法規、設備上の問題等わからないところもたくさんあり当初なかなか考えがまとまらなかったようだが最後にはきちんと完成させることができた。

その他の科目に関しては、映像で理解度を深め、透視図等の描画実践を含めた課題のレポート提出で復習の機会を設けた。

学生にとって授業第一と考え、いろいろな方法を模索しながら進めている。今年度の反省の上に立ち、次年度も授業の進め方をしっかり考えていきたい。

(2) 授業外について

ドローン操縦について、チャレンジラボで所属している学生たちと話し合いながら研究・練習を進めてきた。今年度は免許法が変わり飛行制限が厳しくなり構外での飛行練習ができなかった。次年度は少し考えてみたいと思う。

研究領域

1.専門研究領域：建築計画

2.研究課題及び概要

研究課題：地域の状況から見える古民家の特徴についての調査に関する研究

研究概要：家の様相は過去から現在そして未来へと大きく変化していく。その変化の様子はかつてその地域に根ざした人々の生活の上にたって起こりうるものと考えられる。私達のまわりの地域の歴史や特徴、そしてそこに住む人々の生活の状況並びにそこに現存するまたは過去に存在した古民家の特徴を調査・研究していく。

3.令和5年度分 研究業績一覧（なし）

4.知的財産権の出願・取得状況：（なし）

5.令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：（なし）

6.自己評価：研究についてはあまり成果を上げられなかった。

大学内運営

1.活動報告

- ・ 建築デザイン学科1年担任
- ・ ハラスメント防止委員会相談員
- ・ 新入生セミナー運営委員会委員
- ・ 学部選挙管理委員会委員
- ・ 自衛消防隊員

社会貢献

1.学会等への貢献（なし）

2.地域社会への貢献（なし）

第6節 心理学科

個人情報

1. 氏名：青木 宏
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床心理学、犯罪心理学等）
2. 学部授業担当科目
前期：心理学概論、臨床心理学概論、学習・言語心理学、異常心理学
後期：神経・生理心理学、教育相談、ジェンダー論、ライフサイクル論、専門ゼミナール
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文2名
4. 自己評価：学生の興味・関心を引き、知的好奇心を刺激するために、プレゼンテーションを自作するほか、映像や動画を活用した。また、テーマによっては、グループディスカッションや簡易なテスト、PGR 測定器を用いた実習なども実施し、主体的な取り組みを促した。加えて、犯罪被害者遺族やトランスジェンダー当事者などをゲストスピーカーとして招いての講義も実施した。
5. ハイブリッド授業を引き続き実施し、体調不良等の理由で受講できない学生のニーズに対応した。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要
「若者のストーカー被害実態調査」
徳島県警察本部との共同研究は終了し、啓発活動に重点を移している。心理学概論においてストーカーの心理等について講義するとともに、県警本部からゲストスピーカーを招き、ストーカーの実態や対策についての知見を伝えた。ストーカー関連の相談も複数寄せられており、未然防止や早期介入に成果を上げている。

令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文
該当なし。
2. 学会発表
該当なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし

自己評価

「若者のストーカー被害実態調査」が終了し、県警本部の協力も得て学生への啓発活動に重点を移している。その結果、ストーカー関連の相談が複数寄せられており、未然防止や早期介入に成果を上げている。

大学内運営

- 1) 心理学科長
- 2) チューターとして学生の個別指導に当たった他、チューターでない学生からの相談事にも応じた。
- 3) オープンキャンパスにおいて学科説明、模擬授業を実施した。

社会貢献

- 1) 県・大学等連携による教職員研修（2022. 8）
- 2) 徳島新聞コラム「勁草を知る」（年間数回の連載）
- 3) 日本犯罪心理学会地方区理事（2021. 12～）

個人情報

1. 氏名： 阿波 亨
2. 職位： 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（家族心理学，福祉心理学，認知心理学等）
2. 学部授業担当科目
学部
前期：社会・集団・家族心理学（家族心理学），福祉心理学，心理統計学演習
後期：知覚・認知心理学（認知心理学），専門ゼミナール
大学院
前期：人格心理学特論
後期：投映法特論，臨床心理基礎実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学部学生等：卒業論文4人、修士論文1人
4. 自己評価：

学部の授業では，毎回，最初に前回の授業の内容の簡単な説明を行い，最後にその日の授業の概要の説明を再度行うとともに，最後の回では全体の内容の説明を再度行うという具合に，同じ内容を繰り返し説明することで記憶の定着を図った。また，できるだけ視聴覚教材を活用し，90分間という授業の中で飽きがこないように工夫した。

大学院の授業では，学生が8人と少数であることから，心理検査を体験する機会を設けたり，順番に発表する場を与えたりして，授業への積極的な参加を促した。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学，犯罪心理学
2. 研究課題及び概要

ブリーフ・セラピー，マイクロカウンセリングそして動機づけ面接法は，考え方や技法にかなり共通する点があるので，それらの共通点や相違点を整理しつつ，本学の臨床心理相談室における実践と大学院生への指導に生かす。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文

相談室における面接の進め方―論文の書き方を参考に― 徳島文理大学臨床心理相談室紀要第23号 pp. 1-10

2. 学会発表

該当なし

4. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

5. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：

該当なし

6. 自己評価：

ブリーフ・セラピー，マイクロカウンセリングそして動機づけ面接法という三つの

面接法の共通点や相違点を整理して論文を作成し、本学臨床心理相談室紀要に投稿した。
それに加えて、授業を担当する家族心理学及び福祉心理学について、それぞれ日本家族心理学会及び日本福祉心理学会の会員となり、大会や研修に参加するなどして専門性の向上を図った。

大学内運営

インターンシップ推進委員会委員
人権教育推進委員会委員
心理学科学生34人のチューター
オープンキャンパス及び高校における模擬授業
保護者会における保護者との面談
総合選抜型入試にかかる業務

社会貢献

少年サポートアドバイザー（徳島県警察本部）
学会活動
日本犯罪心理学会会員
日本家族心理学会会員
日本福祉心理学会会員
包括システムによる日本ロールシャッハ学会
日本ブリーフ・セラピー協会会員

個人情報

1. 氏名：伊藤 泰彦
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、障害者心理学、健康心理学
2. 授業担当科目

学部

前期：発達障害論、心理学実験、心理実習Ⅰ

後期：コミュニティ心理学、健康・医療心理学、障害者・障害児心理学、心理実習Ⅱ、専門ゼミナール

大学院(研究科 心理)

前期：心理療法特論Ⅰ、臨床心理面接特論Ⅱ、心理実践実習Ⅱ

後期：心理実践実習Ⅱ

3. 直接に研究指導した学部学生等：

卒業論文：4名

修士論文：2名

4. 自己評価

- ① 全ての講義の全単元においてスライド教材やレジメを作成するとともに、補助的に映像教材を活用したり、絵本の読み聞かせを挿入したりして、学生の理解を助け、飽きさせない、分かりやすい授業の進め方を心掛けた。
- ② 授業内容の定着をより一層図るため、毎回、授業終了時に感想・質問等を学生に記入させ、次回授業において学生が記載した内容を集約もしくは抜粋したものを提示し説明することで、大事なポイントを伝達・復習することを繰り返した。
- ③ 心理実習の事務手続き全般（実習先施設との事前打合せや調整・依頼状・実習証明書等の作成発送）を担当した。実習先との綿密な協議が必要であるが、3年目を迎え、施設の実習担当者との信頼関係が構築されてきたことや、心理学科教員の指導・協力もあって年間を通して、学生にとって有意義な心理実習を実施することができた。
- ④ 一部の科目の一部の授業において対面とオンラインのハイブリッドな授業の方式を試みた。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学
2. 研究課題及び概要

- ・描画法、特に樹木画テストのアセスメントとしての解釈枠組や妥当性、その教授方法についての研究
- ・心理実践実習における実習開始前の心構えや準備学習について指導方法に関する研究

・臨床心理相談室における相談活動の充実のための事例検討の在り方及び面接技法の習得についての研究

令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文

該当なし

2. 学会発表

該当なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

自己評価

発達障害学会や県臨床心理士会研修会への参加等により、最新の知見に触れ、自己の専門性の向上を図ることができた。

大学内運営

臨床心理相談室長

自己評価委員会委員

総合選抜型入試の面接試験官

オープンキャンパスにおける模擬授業

高校における模擬授業

進学説明会

保護者会における保護者との面談

学部心理学科1年チューター(6名)、2年(7名)、3年(9名)、4年(7名)

大学院心理学専攻修士2年学年担任(10名)

社会貢献

1. 学会等への貢献

日本心理臨床学会会員

日本描画テスト・描画療法学会会員

日本発達障害学会会員

日本健康心理学会会員

日本犯罪心理学会会員

2. 地域社会への貢献

徳島中央警察署管内犯罪被害者支援連絡協議会会員

ライフサポーター指導員(徳島県教育委員会)

神戸少年鑑別所地域援助協議会講師

大津少年鑑別所地域援助事例検討会アドバイザー

徳島少年鑑別所地域援助事例検討会アドバイザー

個人情報

1. 氏名 貴志 知恵子
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：教科教育学・保健
2. 学部授業担当科目
前期：事前・事後指導、養護概説、救急処置及び看護法Ⅰ、養護学特講、卒業研究、学校ボランティア
後期：救急処置及び看護法Ⅱ、養護実践演習、教職実践演習、専門ゼミナール、健康相談活動、学校保健、卒業研究、学校ボランティア
3. 直接に研究指導した学部学生： 4名、その他4名
4. 自己評価
卒業論文については将来、教職志望学生であり教育現場での研究活動に繋がる課題、または心理学関連の知見を教育に生かした題目などを選んだ学生が多かった。また、養護実習やボランティア活動等での子ども達との関わりや社会体験から幅広い学修を含めた内容となったが、今後の教職生活に生かすことができるのではないかと考える。

研究領域

1. 専門研究領域：性教育、健康相談、アクティブ・ラーニング
2. 研究課題及び概要
 - 1) 性教育と人権の問題について、将来、養護教諭を目指す学生への指導において、学校教育の中で、性の多様性を学ぶことで自己を見つめることや他者理解を進め、心情に配慮したきめ細かい教育がおこなえるような方策について検討している。
 - 2) 養護教諭のおこなう健康相談活動において、これまでのカウンセリング的対応に加えて、思考パターン、言語パターン、反応パターン等に気づきやり方や行動を変えるコーチングのアプローチを取り入れることで生きる力の具現化をはかる方策を志向する。
 - 3) 授業ではアクティブ・ラーニングを重視した展開にし、学修の一部を予習として行い本時では、think-pair-share を参考に個人活動—グループ活動—全体活動の展開とし、学生の主体性を大事にしている。
3. 令和5年度分 研究業績一覧
 1. 論文・著書
医療的ケア児の健康管理における養護教諭の役割 共著，2023，誠信書房
 2. 学会発表
貴志知恵子，竹内理恵，長濱太造：性的リスク対処意識向上を進める性教育に関する一考察，日本養護教諭教育学会第30回学術集会（オンライン），北海道，2022
 3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
 4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし

5. 自己評価

研究では、性教育関連や健康相談、さらにアクティブ・ラーニングについて検討した。
今後は、科学研究費補助獲得に向けて、研究をすすめたい。

大学内運営

- 1) 教職課程委員会委員
- 2) 教員養成推進委員会委員
- 3) 教員養成対策委員会委員
- 4) 人権教育推進委員会委員
- 5) 全学共通教育センター学習支援アドバイザー
- 6) 第7回養護教諭研修会運営
- 7) 学部：1・2・3・4年生チューター（36名）

社会貢献

1. 学会等への貢献
 - 1) 日本養護教諭養成大学協議会代表評議員
 - 2) 日本養護実践学会理事
 - 3) 日本学校保健学会代議員
2. 地域社会への貢献
 - 1) 救急救命指導員として救急救命講習活動に参加
 - 2) 徳島県養護教諭初任者研修として学校での救急救命講習を実施
 - 3) 徳島県養護教諭5年次研修として学校での授業力向上研修を実施
 - 4) 徳島大学医学部栄養学科3年次に対して「健康教育の進め方」授業を実施
 - 5) 徳島県名西郡保育研究会において「保護者対応」講演を実施
 - 6) 高知県小津高校において不登校予防のための方策について出張講義（Web開催）
 - 7) 徳島県立中央高校において、心地よい関係性についての出張講義（2回）

個人情報

1. 氏名：土中 幸宏
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 学部授業担当科目
前期：司法・犯罪心理学、心理学的支援法、心理演習Ⅱ、心理実習Ⅰ
後期：人間発達学、心理演習Ⅰ、心理実習Ⅱ、専門ゼミナール、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、臨床心理学（理学療法学科）、人間発達学（理学療法学科）
大学院
前期：心理統計法特論、心理実践実習Ⅱ
後期：心理実践実習Ⅱ

3. 直接に研究指導した学生：卒業論文：4名 修士論文：3名

4. 自己評価

授業形態は対面式に戻ったものの、登校に困難を来す学生のために、オンライン・対面のハイブリッド方式の形態を採用し、授業への出席率の向上を図ったほか、工夫を凝らしたプレゼンテーションを使用した講義を実践した。また、絵本や絵画、映画を題材に用いることにより、学習への意欲を喚起するように試みた。そのほか、フリップボードを活用したグループワーク等の実践により、学生が相互に積極的な意見提出を促すよう工夫したり、Mentimeter を使用し、ライブのインタラクティブなアンケート等を行い、その結果をワーンドクラウドなどでリアルタイムに提示するなどして、飽きない授業作りに努めた。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学
2. 研究課題及び概要
芸術療法・認知行動療法の実践・研究、実務と連動した心理査定のある方、進化心理学の進展を踏まえた人間発達学の展望等について

3. 令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文
該当なし
2. 学会発表
該当なし
3. 知的財産権の出願・取得状況
該当なし
4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況
該当なし
5. 自己評価

研究活動はやや停滞気味であるものの、他大学の研究者の協力者として、科研費への申請を検討するほか、ある（不採択）。今後も研究を推進していく意向である。

大学内運営

- 1) 心理学科 4 年学年担任
- 2) 心理学科 1～4 年計 35 名のチューター
- 3) 心理学科入学試験にかかる業務
- 4) オープンキャンパスでの模擬授業担当
- 5) 全学入学試験委員会
- 6) 専攻科入学試験にかかる業務

社会貢献

1. 地域社会への貢献

- 1) 岡山就実大学非常勤講師夏期集中講義（司法・犯罪心理学）担当
- 2) 徳島大学総合科学部非常勤講師（司法・犯罪心理学）担当
- 3) 徳島大学大学院創成科学研究科臨床心理学専攻非常勤講師（犯罪心理学特論）担当

2. 学会等への貢献

- 1) 日本犯罪心理学会編集委員

個人情報

- 1.氏名：中嶋 英治
- 2.職位：教授

教育領域

- 1.教育の担当専門領域：心理学（発達、臨床、犯罪）、関係行政論（心理職）
- 2.学部授業担当科目
(学部)
前期：心理アセスメントⅡ（心理検査法Ⅱ）、心理学実験、公認心理師の職責、心理学特論
後期：専門ゼミナール、発達心理学、関係行政論、心理学統計法（心理統計学）、心理学（A）
(大学院)
前期：心理療法特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ）、心理実践実習Ⅱ、特別研究
後期：発達心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、特別研究
- 3.直接に研究指導した学生
卒業論文：2名
修士論文：2名
- 4.自己評価
より分かりやすいプレゼンテーション資料の作成、丁寧な説明と質問への対応に尽力しつつ講義を進めた。詳細は以下のとおり。
 - ・心理学特講では、公務員試験、教員採用試験、企業の入社試験に向けて実戦的な授業となるように工夫した。
 - ・心理学統計法では、（不得意とする者が多い）統計法への関心を高めるため、より身近な事例を取り上げて説明するなど、講義内容を工夫した。また、計算に苦慮する学生が見られたため、今年度から、コンピュータ室を活用し、エクセルを使用した統計処理の方法についても講義を行った。
 - ・心理学（A）では、心理学を専攻科目としない学生が心理学の基本的な知識を習得できるよう、身近な生活において活用される心理学の知識を中心に講義内容を構成し、映像資料を活用したり、質問紙法検査を体験させたりするなど、印象に残る授業になるように工夫した。
 - ・関係行政論では、既存の参考図書を活用しつつ、政府のHP等において最新の施策の運用状況及び今後の法令の改正状況を確認した上で、その内容についても講義を行った。
 - ・グーグル・クラスルームを活用し毎回、個別に質問を求め回答を行うなどにより、学生の疑問に対し真摯に対応した。

研究領域

- 1.専門研究領域
心理学（発達、臨床、犯罪）
- 2.研究課題及び概要

発達過程を踏まえた非行少年の心理アセスメントについて

3.令和5年度分 研究業績一覧

1.論文

該当なし

2.学会発表

該当なし

3.知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4.令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5.自己評価

講義の充実及び論文指導を優先しているところ、研究活動には着手できていないが、関連資料の収集等を継続している。

大学内運営

- 1) 退学者防止対策委員会委員
- 2) 人間生活学部学生指導委員会委員（委員長）
- 3) 人間生活学部教育研究委員会委員
- 4) 心理学科1～4年生計36名のチューター
- 5) 心理学科入学試験にかかる業務
- 6) 専攻科入学試験にかかる業務
- 7) オープンキャンパスにおける模擬授業

社会貢献

徳島県再犯防止推進協議会委員長

個人情報

1. 氏名： 新見 員子
2. 職位： 准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域： 教育臨床心理学、臨床心理学
2. 学部授業担当科目
学部
前期：児童心理学、青年心理学、心理実習Ⅰ、
後期：感情・人格心理学、学校心理学/教育・学校心理学Ⅱ、専門ゼミナール、心理実習Ⅱ
大学院
前期：学校臨床心理学、臨床心理学研究法特論、臨床心理実習Ⅰ、特別研究心理実践実習Ⅱ
後期：心の健康教育に関する理論と実践、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、特別研究
3. 直接に研究指導した学部学生等：3年生ゼミナール：5名、4年生ゼミナール：4名
大学院 修士2名
4. 自己評価：
 - 1) パワーポイントや、視聴覚教材を活用し、学生に分かりやすい授業を心掛けた。知識の伝達にとどまらず、適宜、授業の中で、読む・書く・話す等の活動場面を設定した。
 - 2) 学生が主体的に学ぶことができるアクティブラーニング形式の授業を設定し、学生の意欲喚起に努めた。
 - 3) 授業のはじめには、絵本の読み聞かせを行い、学生の感性や言語能力の育成を目指した。
 - 4) 授業終了時には、「振り返りシート」を用いて、本時の学びを確認させ、次の授業でフィードバックを行った。
 - 5) 大学院生の修士論文指導においては、倫理的配慮について、慎重に期する必要性を感じた。

研究領域

1. 専門研究領域：教育臨床心理学、臨床心理学
2. 研究課題及び概要
 - ・学校教育の課題における心理学的理解と支援
 - ・絵本の読み聞かせの効果
 - ・箱庭療法を通してのカウンセラー育成
3. 令和5年度分 研究業績一覧
 1. 論文 等
 - ・「きく」ということ 徳島文理大学臨床心理相談室紀要 第23号
 2. 学会発表

該当なし

4. 知的財産権の出願・取得状況：該当なし

5. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況：該当なし

6. 自己評価：

学生の指導が中心となり、研究についてはほとんど着手できていないが、心理臨床学会と箱庭療法学会（zoom）への参加を行った。

今後は、学生の育成と共に研究の充実を図り自己研鑽に努めたい。

大学内運営

1. 活動報告

1) 全学共通教育センター学習支援アドバイザー

2) オープンキャンパスにおける模擬授業の実施

3) 1年生担任：73名、チューター：1年生から4年生まで 35名

4) 入学試験にかかる業務

5) 高知支部保護者会における保護者面接

社会貢献

1. 学会への貢献

1) 日本心理臨床学会会員

2) 日本カウンセリング学会会員

3) 日本箱庭療法学会会員

2. 地域社会への貢献

1) 本学併設の臨床心理相談室相談員として外部（地域社会）からの相談活動。

2) 鳴門教育大学附属学校入試における面接委員

個人情報

1. 氏名：原田 耕太郎
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：社会心理学、教育心理学
2. 学部・大学院授業担当科目（学部）
前期：学校・教育心理学（教育心理学）、教育心理学、
社会・集団・家族心理学（社会心理学）、心理学実験、心理学 A、
心理演習Ⅱ、心理実習Ⅰ
　　＜以上、徳島キャンパス＞
心理学 A、図書館総合演習
　　＜以上、香川キャンパス＞
後期：専門ゼミナール、産業・組織心理学、心理学研究法、心理実習Ⅱ、
心理演習Ⅰ、社会心理学
　　＜以上、徳島キャンパス＞
医療コミュニケーション学Ⅰ、教育心理学、教職実践演習
　　＜以上、香川キャンパス＞
学部・大学院授業担当科目（大学院）
前期：心理学特別演習、心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ
心理学特別研究
後期：心理実践実習Ⅰ、心理実践実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅰ、特別研究
産業・労働分野に関する理論と支援の展開
3. 直接に研究指導した学生：卒業論文 4 名、修士論文 2 名
4. 自己評価

卒業論文の指導については、受講生が本学大学院への進学を希望していたので、修士論文作成の予行練習という位置づけで指導を行った。合わせて、大学院の受験指導も行った。担当講義においては、指定のテキストをベースにしたオリジナルの資料を用いている。内容としては、基本的な内容を分かりやすく説明するとともに、適宜時事問題や、視聴覚資料、一部高度な内容を盛り込むなど、単調にならないように配慮している。この試みは、おおむね成功していると判断している。一部講義では諸事情により投稿できない学生のためハイブリッド形式を採用した。

研究領域

1. 専門研究領域：社会心理学
2. 研究課題及び概要

社会的公正知覚に関する研究。社会的公正とは社会活動を維持させ機能させる上で重要な規範の一つであり、社会的動機の一つだということもできる。しかし、「公正か否か」に関する客観的あるいは絶対的基準はなく、あくまでも知覚者の主観によって決定される。それゆえに、公正をめぐる対立やバイアスの介在といった、心理学上興味深い事象が存在す

る。つまり、社会的公正知覚の研究は、心理学の観点からの社会活動の理解につながる。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文

山下真依・原田耕太郎（共著） 「障害のある人との接触経験が障害のある人との心理的距離に及ぼす影響 ―インクルーシブ教育の経験に注目して―」 徳島文理大学臨床心理相談室紀要 第23号 pp. 41-55. 徳島文理大学

2. 学会発表

該当なし

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし

4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

5. 自己評価

共著論文1本は第1著者の卒業研究の指導の結果として公表したものである。第1著者は卒業後国立大学の大学院に進学することが決まっており、進学後の研究活動のためのトレーニングを意図して指導を行い、一定の成果を得たと評価している。

大学内運営

- 1) 自己点検・自己評価委員会委員
- 2) 新入生セミナー委員
- 3) 教職教養講座 講師
- 4) 公認心理師実習指導員
- 5) 臨床心理相談室相談員
- 6) 修士論文副査2件
- 7) 学部2年生担任
- 8) 学部チューター担当（1年～4年）
- 9) オープンキャンパスミニ講義担当
- 10) 大学院受験希望者への面談および進路説明
- 11) 大学学部入学試験業務
- 12) 大学院入試業務

社会貢献

1. 学会等への貢献

該当なし

2. 地域社会への貢献

放送大学面接授業「心理学実験1」非常勤講師

個人情報

1. 氏名 福本 浩行
2. 職位 教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：心理学（臨床，医療，発達，教育，産業）
2. 学部授業担当科目
前期：心理療法演習Ⅱ，発達障害論，心理的アセスメントⅠ，臨床心理学
後期：専門ゼミナール，心理演習Ⅰ，心理検査法実習Ⅰ，心理検査法実習Ⅱ，卒業研究

大学院授業担当科目

- 前期：臨床心理面接特論Ⅰ，心理実践実習Ⅱ，臨床心理査定演習Ⅰ
後期：心理実践実習Ⅱ，臨床心理学特論Ⅱ，臨床心理実習Ⅱ，心理実践実習Ⅱ
3. 直接に研究指導した学生：修士論文1名，卒業論文5名，その他5名
4. 自己評価

毎講時，動画を盛り込んだプレゼンテーション用スライド及び視聴覚教材を活用したほか，授業の重要事項に関する詳細な解説を盛り込んだ補助教材を配布し，受講生の理解を深めさせた。授業内容とは別に，折に触れ公認心理師資格試験に係る情報を提供したり，過去の試験問題を解説したりするなどし，資格試験に対する動機付けを高める工夫をした。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学，犯罪心理学
2. 研究課題及び概要

「虐待の連鎖に係る研究」

慶応大学において作成された日本版 IFEEL Pictures テストを用いて，乳児の表情読み取りエラーが生じる資質負因等を研究している。また，表情の読み取りエラーを発生させる資質負因が虐待の加害に及ぼす影響や，虐待の被害から表情の読み取りエラーが起る要因等を考察している。

「複雑性 PTSD に係る研究」

研究会を立ち上げ、虐待の被害体験のほか、いじめ被害や家族の曖昧な喪失といった体験から生じる複雑性 PTSD の発生因とその治療法等について考察している。

3. 令和5年度分 研究業績一覧

1. 論文

該当なし。

2. 学会発表

JICA 傘下 ACPF(アジア刑政財団)主催 G7 閣僚会議法務分科会において発表(オンライン)。

3. 知的財産権の出願・取得状況

該当なし。

4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金の申請・交付状況

該当なし。

5. 自己評価

複雑性 PTSD 研究会、ニューロダイバーシティ勉強会を立ち上げ、学生と英語論文の抄読を行うなどして、研究領域における最新の知見を吸収し専門性の向上を図った。

大学内運営

- 1) 心理学科広報委員として、オープンキャンパスや模擬授業、見学会、出前授業、ミニ講座等を計画し、心理学科教員の協力を得て広報に資する活動を行った。
- 2) 3 年学年担任及び心理学科各学年のチューターとして学生の個別指導に当たった。
- 3) 学生募集のための心理学科広報用フライヤーを製作・配布した。

社会貢献

- 1) 児童自立支援施設「徳島学院」の安全委員会の副委員長をつとめた。
- 2) アジア刑政財団中国・四国支部会員として、同会や極東アジア犯罪防止研修所等が主催する各種会議に出席し、国際貢献の有り様についての議論に参画した。
- 3) さぬき薔薇会に所属し、市が管理する薔薇園を、年間を通してボランティアで整備した。

個人情報

1. 氏名：松本 新功
2. 職位：准教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：物理学，数学
2. 授業担当科目
前期：情報処理(3 クラス)，数学 A，PC 文書作成実習 I，PC 文書作成実習 II
後期：情報科学，情報処理・統計学(2 クラス)，物理学 A，PC データ活用実習 I，PC データ活用実習 II
3. 直接に研究指導した学生：なし
4. 自己評価
 - ・Google Meet を使って，対面・遠隔のハイブリッド形式で講義を実施した．健康観察期間中など通学が困難な学生にも，対面に近い形で遠隔講義を受講できる環境を提供できたと考えている．
 - ・数学や Excel など，苦手な学生が多い科目に関しては，Meet で録画した過去の講義動画を編集の上，Classroom にアップした．講義内容を動画で復習できるように配慮した．
 - ・講義中は pdf 等の電子ファイルを画面共有で学生に見せながら講義を行っている．その際に，講義中にコメントを資料ファイルに追記しながら説明をする．このコメントなどを追記した資料を，講義後に Classroom で配布した．復習時の利便性に配慮できたと考えている．
 - ・「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」への対応として，「情報処理」の講義内容に手を加えた．実データの活用など，講義では扱いづらい変更もあり負の影響を心配していたが，学生の反応も良く，概ね上手くいったと考えている．

研究領域

1. 専門研究領域 プラズマ物理学，核融合学，量子ビーム科学
2. 研究課題及び概要
 - 1) 水素負イオン(H⁻)源プラズマ内における H 輸送の実験研究
 - 2) 水素負イオン源プラズマ内における低エネルギー電子輸送の実験研究
 - 3) プラズマ診断のための，低エネルギー電子銃の装置開発
 - 4) Particle-In-Cell (PIC) 法を用いた，イオン源プラズマの数値シミュレーション
 - 5) PIC 法を用いた，低エネルギー電子銃の数値シミュレーション
3. 令和 5 年度分 研究業績一覧
 1. 論文・著書
なし．ただし，令和 5 年度中(2024 年 1 月末～2 月頃)に共著論文を 1 本，投稿予定．
 2. 学会発表
なし
 3. 知的財産権の出願・取得情報

なし

4. 令和5年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

- 1) 核融合科学研究所 一般共同研究(実験研究)・代表・採択
- 2) 核融合科学研究所 一般共同研究(実験研究)・協力者・採択
- 3) 核融合科学研究所 一般共同研究(数値計算研究)・代表・採択

5. 自己評価

・負イオン源プラズマ内での電子輸送の物理を明らかにするため、新たなプラズマの計測法を開発中である。今年度はこの計測法で用いる電子銃を、真空状態および水素ガスを充填した容器内、2つの条件下で運転し、電子ビーム輸送特性の違いを調査した。今のところ、予想特性に大きな違いは見られなかった。また、少なくともビーム構成電子による空間電荷効果は、ほぼビーム輸送に影響を与えていないことが分かった。

・昨年度に引き続き、PIC計算コードに対して、プラズマ内粒子の衝突効果(荷電粒子間のクーロン衝突、および荷電粒子-中性粒子間の弾性衝突)の追加作業を行った。スーパーコンピュータへの最適化を念頭に置いた場合、アルゴリズム設計が複雑になる。これが原因でプログラミングに苦戦をしているが、徐々ではあるものの進捗している。来年度も引き続き、このプログラミング作業を行う。

大学内運営

- 1) 全学共通教育センター・マンツーマン講座(SA講座)の運営
(面接等SA採用業務、SAの指導、ホームページの修正、
業務管理用Webシステムのプログラミング等)
- 2) 公務員試験対策講座(数的推理・2回)
- 3) 幼保試験対策講座(数的推理・1回)
- 4) 入学試験作題(4回分)
- 5) 入学試験・地方試験業務(1回)
- 6) 日商PC検定・試験監督及び事務業務(5,6回程度)
- 7) オープンキャンパス・入試過去問の解説講義(3回)
- 8) 文理学・全学部共通講座II・「データ・AI利活用で必要な統計学の基礎」の講演(2回)
- 9) 「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」四国ブロックワークショップ・運営会議への参加(1回)

社会貢献

1. 学会等への貢献

- 1) 日本物理学会 会員
- 2) プラズマ・核融合学会 会員
- 3) 自然科学研究機構 核融合科学研究所 プラズマ装置学ユニット・メンバー

個人情報

1. 氏名：渡邊 悟
2. 職位：教授

教育領域

1. 教育の担当専門領域：臨床心理学、心理査定
2. 授業担当科目
前期（学部）：老年心理学、心理演習Ⅱ
前期（大学院）：臨床心理学特論、臨床心理基礎実習Ⅰ、心理実践実習Ⅰ、特別研究
後期（学部）：臨床心理学、パーソナリティ障害論、心理検査法実習Ⅰ、心理検査法実習Ⅱ、専門ゼミナール、卒業研究
後期（大学院）：臨床心理査定実習Ⅱ、臨床心理実習Ⅱ、心理実践実習Ⅱ、特別研究
3. 直接に研究指導した学部学生：卒業論文 3 名、修士論文 2 名
4. 自己評価
担当授業については、パワーポイントにより授業を行い、それを印刷して補助教材として活用した。また、授業終了時にコメントシートの提出を求め、授業の理解度を確認するとともに、次回授業の冒頭で、そのいくつかを紹介し、前回授業の振り返りに役立てた。

研究領域

1. 専門研究領域：臨床心理学、犯罪心理学、心理査定
2. 研究課題及び概要
非行・犯罪臨床における心理査定のあり方
3. 令和 5 年度分 研究業績一覧
1. 論文等
1) 渡邊 悟（分担執筆） 改訂版 臨床心理検査バッテリーの実際. 第 10 章 p159-176 遠見書房（2023. 9）
2) 渡邊 悟（分担執筆） ロールシャッハ実践ガイド. 第 1 章 p. 3-14 金剛出版（2023. 11）
3) 渡邊 悟他 12 名. ロールシャッハ 100 年記念大会マップ・プロジェクト 日本チームの総括. 包括システムによる日本ロールシャッハ学会誌 第 27 巻第 1 号 p. 61-66 金剛出版（2023. 11）
2. 学会発表
1) 黒田浩司、浦田洋、佐々木貴弘、林秋成、渡邊 悟 テキストマイニングを用いたロールシャッハ関連文献の表題分析：1990～2022 年. 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第 28 回大会（2023. 7）
3. 学会等主催研修会出席
1) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会第 28 回大会（2023. 7）
2) 日本トラウマティック・ストレス学会第 22 回大会（2023. 8）
3) 日本犯罪心理学会第 61 回大会（2023. 9）
4) 公益社団法人日本公認心理師協会専門研修Ⅰ及びⅡ（2023. 9, 10, 2024. 2, 3）講師

- 5) 公益社団法人日本公認心理師協会司法・犯罪分野委員会研修会（2023. 10）司会
- 6) 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟第 14 回研修会（2023. 10）講師
- 7) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会認定資格研修会（2023. 11）講師
- 8) 徳島県公認心理師・臨床心理士協会研修会（2023. 11）講師
- 9) 日本公認心理師学会第 3 回学術集会（2023. 12）

4. 知的財産権の出願・資格取得状況

該当なし

5. 令和 5 年度分 科学研究費補助金・各種助成金等の申請・交付状況

該当なし

6. 自己評価

査読論文はないものの、学会大会での発表、学会大会や研修会への参加等により、自己の専門性の向上を図った。

大学内運営

- 1) 大学院人間生活学研究科心理学専攻主任
- 2) 臨床心理相談室相談員
- 3) 心理学科就職支援委員
- 4) 修士論文主査及び副査
- 5) 大学院及び学部入学試験にかかる業務
- 6) 心理学科 1～4 年生のチューター
- 7) オープンキャンパスでの学科説明・模擬授業
- 8) 保護者会での保護者との面談

社会貢献

- 1) 公益社団法人日本公認心理師協会 理事、司法・犯罪分野委員会委員長、専門認定委員会委員長
- 2) 一般社団法人日本公認心理師養成機関連盟 理事
- 3) 包括システムによる日本ロールシャッハ学会 副会長、研究助成審査委員会委員長
- 4) 日本犯罪心理学会 全国区理事、編集委員
- 5) 徳島県警察留置施設視察委員会委員
- 6) 徳島県ときわプラザ相談室スーパーバイザー
- 7) 徳島県ライフサポーター指導員
- 8) 徳島ロールシャッハ・テスト研究会代表
- 9) 法務省矯正研修所法務技官（心理）基礎科研修での講義（2023. 7）
- 10) 法務省矯正研修所法務技官（心理）応用科研修での講義（2023. 11）
- 11) 法務省大阪少年鑑別所での講義（2024. 1）
- 12) 法務省高知少年鑑別所での講義（2024. 2）
- 13) 陸上自衛隊高知駐屯地での講義（2024. 2）
- 14) 徳島県警察学校専科研修での講義（2023. 11）
- 15) 放送大学徳島センターまなびの森での講義（2024. 2）

編集後記

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染療法上の位置づけが5月8日から5類に移行されましたが、社会経済活動の正常化が進みつつある中、徳島キャンパスでは入学式が挙行され、山城祭も久しぶりに開催されました。その一方で、元旦には能登半島地震に見舞われ、新型コロナ禍も依然として油断できない状況ですが、新型コロナ禍での4年間を大変な思いで過ごした学生達が巣立っていきます。

自己点検・自己評価書は、人間生活学部の活動の記録であり、今後のよりよい教育研究活動への活用されることを願っています。

徳島文理大学人間生活学部

令和5年度 自己点検・評価委員会

人間生活学科	高橋 昌江
食物栄養学科	犬伏 知子
児童学科	藤村 正司（委員長）
メディアデザイン学科	長濱 太造
建築デザイン学科	山田 宰
心理学科	原田 耕太郎

編集責任者：藤村 正司